

2025（令和7）年度

● ● ● 授業概要 ● ● ●
Syllabus

奥羽大学大学院歯学研究科

Ohu University Graduate School of Dentistry

目次

1. 奥羽大学大学院歯学研究科の理念および目的・教育目標	…… 2
2. 奥羽大学大学院歯学研究科のスリーポリシー	…… 3
カリキュラムマップ	…… 4
カリキュラムツリー	…… 6
3. 大学院歯学研究科教務日程	…… 8
4. 奥羽大学大学院学則	…… 9
5. 奥羽大学学位規程	…… 12
6. 奥羽大学における研究者の行動規範	…… 14
7. 奥羽大学の研究活動における特定不正行為への 対応に関する規定	…… 17
8. 大学院授業科目の履修方法について	…… 21
9. 学生生活について	…… 22
10. 奥羽大学大学院歯学研究科編成	…… 23
11. 教員の研究内容	…… 24
12. オフィスアワー	…… 28
13. カリキュラム	…… 30
14. 2025 年度授業時間割	
A. 一般大学院生	…… 33
B. 社会人大学院生	…… 36
15. 大学院講義・定例セミナー日程	
A. 一般大学院生	…… 39
B. 社会人大学院生（夏期集中講義）	…… 40
C. 特別セミナー	…… 41
16. 授業概要	…… 42
17. 学位授与の手續について	…… 99
18. 学位申請時の必要提出書類について	…… 101
19. 構内案内	…… 112

1. 奥羽大学大学院歯学研究科の理念および目的・教育目標

【教育理念】

歯学の教育・研究および歯科医療における地域の中核機関としての役割を遂行すべく、人間性ならびに創造性豊かな人材を育成して科学的研究を達成することを基本理念とする。

【目的】

歯学とその関連する領域における専門的な学術の理論応用を教授かつ研究し、その奥義を究めて歯学の進歩と社会の福祉ならびに文化の発展に貢献しうる有為な研究者を養成することを目的とする。

【教育目標】

- ・ 歯学、歯科保健医療に関連する広範な分野における学識を深め、研究者としての教養、社会性、倫理観を身につける。
- ・ 研究者として自立して研究活動を行うに必要な研究能力ならびに専攻分野における高度で先進的・専門的な知識・技能を修得する。
- ・ 歯学に関連する分野における研究を積極的に推進し、その成果を社会に還元して口腔保健医療の発展と向上に役立てる。

2. 奥羽大学大学院歯学研究科のスリーポリシー

[アドミッション・ポリシー]

歯学研究科は、その教育理念と目的に基づいて次のような学生を求めています。

1. 歯学の進歩に貢献できる研究者を目指すひと。
2. 豊かな人間性と高い研究能力を兼ね備えた研究者を目指すひと。
3. 国際的な視野に立った歯学研究を行う志のあるひと。
4. 自立して歯学研究を行える研究者になることを望むひと。
5. 歯学研究に取り組む意欲を持つ社会人。

[カリキュラム・ポリシー]

歯学研究科の目的である歯学の進歩と社会の福祉ならびに文化の発展に貢献しうる有為な研究者を養成するために、次のようなカリキュラム編成の方針を定めています。

1. 専攻科目は、一般選抜では1年から2年次まで、社会人特別選抜では1年から4年次までに履修し、高度な研究活動を行うための専門知識と技術を身につける。
2. 専攻科目に関連する知識と研究手法を修得する。
3. 歯学研究に関連する幅広い知識を修得する。
4. 先端的な歯学研究に関する知識と研究手法を修得する。
5. 国際性向上のために海外研究者のセミナーを履修する。
6. 歯学研究者としての教養、社会性、倫理観を身につける。

[ディプロマ・ポリシー]

歯学研究科に必要な年限在学して所定の単位を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した次の者に博士(歯学)の学位を授与します。

1. 専攻分野における高度な専門知識と技能を修得している。
2. 自立した研究活動の遂行に必要な能力を修得している。
3. 歯学研究者としての教養、社会性、倫理観を身につけている。

カリキュラムマップ(一般選抜)

DP1 専門知識と技能		DP2 研究遂行能力		DP3 教養・社会性・倫理観	
専攻分野における高度な専門知識と技能を修得している。		自立した研究活動の遂行に必要な修得している。		歯学研究者としての教養、社会性、倫理観を身につけている。	
4年以上在学し、30単位以上を修得し更に創意研究に基づく学位論文を提出し、かつ最終試験に合格した者に学位を授与する。					
4年次	博士論文研究				
	博士論文作成 創意研究に基づく博士論文を作成して、学長に提出する。学位論文は学位取得後一年以内に査読付きの原著論文として国内外の学術雑誌に公表する。				
	学位口演 奥羽大学歯学会において学位研究の内容について口演する。				
3年次	研究経過発表会での発表 3年次までの研究成果を全大学院教員の前で口頭発表し、学位論文としてまとめていくための助言を得ると共に、研究の質を担保する。				
2年次	研究計画報告書の提出 学位研究に関する研究計画報告書を提出し、それを全大学院教員が確認し、適切な学位研究が行えるように研究倫理面を含めて助言する。				
	CP1 行選専 うたの門 ための科 専門目 知識は、 と技一般 術選 を身抜 につでは ける。1 。年 高次 度から な2 研年 究次 活まで 動、 を社会 人特 別	CP3 歯 学 研 究 に 関 連 す る 幅 広 い 知 識 を 修 得 す る 。		CP5 ナ ― 国 際 を 性 履 向 修 上 す る た め に 海 外 研 究 者 の セ ミ	海外の歯学・医学研究者による 大学院特別セミナー
		CP2 法専 を攻 修科 得目 する 。関 連す る知 識と 研究 手	大学院講義 大学院セミナー		CP6 倫 歯 理 学 観 研 を 究 者 に と し て つ け て る 。教 養 、 社 会 性 、
1年次		CP4 知先 識端 と的 研な 究歯 手学 法研 究に 得関 する す る。		学外の歯学・医学研究者による 大学院特別セミナー	

カリキュラムマップ(社会人特別選抜)

DP1 専門知識と技能		DP2 研究遂行能力		DP3 教養・社会性・倫理観	
専攻分野における高度な専門知識と技能を修得している。		自立した研究活動の遂行に必要な修得している。		歯学研究者としての教養、社会性、倫理観を身につけている。	
4年以上在学し、30単位以上を修得し更に創意研究に基づく学位論文を提出し、かつ最終試験に合格した者に学位を授与する。					
5年次 ↓ 4年次	博士論文研究				
	博士論文作成				
	創意研究に基づく博士論文を作成して、学長に提出する。学位論文は学位取得後一年以内に査読付きの原著論文として国内外の学術雑誌に公表する。				
	学位口演				
	奥羽大学歯学会において学位研究の内容について口演する。				
4年次 ↓ 3年次	研究経過発表会での発表				
	3年次までの研究成果を全大学院教員の前で口頭発表し、学位論文としてまとめていくための助言を得ると共に、研究の質を担保する。				
3年次 ↓ 2年次	研究計画報告書の提出				
	学位研究に関する研究計画報告書を提出し、それを全大学院教員が確認し、適切な学位研究が行えるように研究倫理面を含めて助言する。				
3年次 ↓ 2年次	CP1 専門科目は、一般選抜では1年次から4年次までに履修し、高度な研究活動を行うための専門知識と技術を身につける。	CP3 歯学研究に関連する幅広い知識を修得する。		CP5 ナ国際性を向上するために海外研究者のセミナー	海外の歯学・医学研究者による大学院特別セミナー
		CP4 知先端的研究歯手法研究に関する知識と研究手		CP6 倫歯理学研究者としてつける。教養、社会性、	研究倫理に関する大学院特別研修セミナー
1年次	CP2 法を攻修得する。関連する知識と研究手	大学院講義 大学院セミナー			

CP1 専門科目は、一般選抜では1年次から4年次までに履修し、高度な研究活動を行うための専門知識と技術を身につける。

口腔機能解剖学
口腔生理・生化学
口腔機能回復学
顎顔面口腔矯正学
生体管理学
口腔病理学
口腔感染症学
歯科薬理学
放射線診断学
顎口腔外科学
口腔保健学
生体材料・医用工学
保存修復学
咬合機能修復学
総合診療歯科学
口腔組織構造生物学
小児歯科学
歯内・歯周療法学

CP2 法専攻科目に関する関連する知識と研究手法

大学院講義
大学院セミナー

CP3 歯学研究に関連する幅広い知識を修得する。

病原微生物学実験法
統計処理の基礎
統計処理の演習
形態学の研究手法
頭頸部の臨床解剖学
分子腫瘍生物学
薬物療法学
感染・免疫学
病因・病理学
生体材料応用学
感覚・運動生理学
顎関節のエクス線学的研究と根拠
研究の進め方
摂食嚥下
病理診断のための顕微鏡学
細胞培養と器官培養の実験動物学
電気生理学の基礎と応用
分子口腔感染症学
形態病理学
歯科材料学総論
予防歯科・疫学
社会歯科学
口腔加齢現象論
齲蝕治療論
口腔機能低下論
生体機能工学
歯内療法学
口腔インプラント学
インプラント上部構造の科学
顎顔面口腔矯正学
顎口腔外科学
総合診療歯科学
放射線診断学・治療学
生体管理と基礎と臨床
歯周病学
生命科学実験法
薬物の発生毒性解析法の実験
画像評価法の基礎

CP4 先端知識と研究歯学手法研究に得る。

学外の歯学・医学研究者による
大学院特別セミナー

CP5 ナ国際性を履修向上するために海外研究者のセミナー

海外の歯学・医学研究者による
大学院特別セミナー

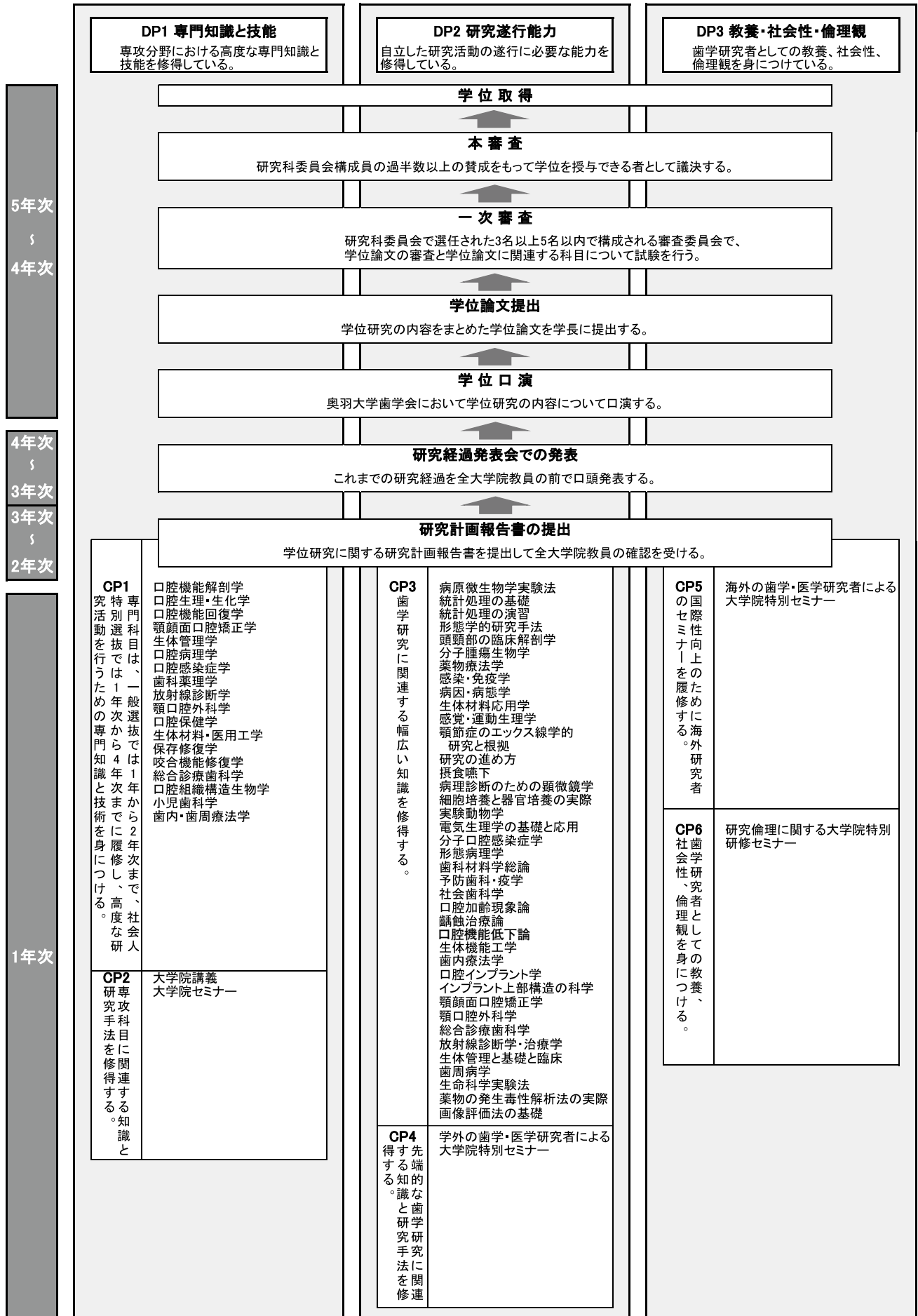
CP6 倫理歯学観研を身につけての。教養、社会性、

研究倫理に関する大学院特別
研修セミナー

カリキュラムツリー(一般選抜)



カリキュラムツリー(社会人特別選抜)



3. 2025年度大学院歯学研究科教務日程

月	日	行事等予定
4月	4月4日(金) 4月4日(金)～9日(水)	入学式・オリエンテーション 学位論文申請受付(9日 16:00まで)
5月	5月7日(水)～14日(水) 5月30日(金)	学位論文本審査書類提出受付(14日 16:00まで) 慰霊式
6月	6月4日(水)～11日(水) 6月14日(土) 6月14日(土)～15日(日)	学位論文本審査書類提出受付(11日 16:00まで) 奥羽大学歯学会(未定) 奥羽祭
7月	7月9日(水)～16日(水) 7月31日(木)	学位論文申請受付(16日 16:00まで) 学位論文本審査書類提出受付(16日 16:00まで) 研究経過発表会申込書提出期限(16:00まで)
8月	8月4日(月)～8日(金) 8月28日(木)	学位論文本審査書類提出受付(8日 16:00まで) 研究経過発表会(13:00～) 研究計画報告書提出期限(16:00まで)
9月	9月3日(水)～10日(水) 9月18日(木) 9月25日(木) 9月30日(火)	学位論文申請受付(10日 16:00まで) 学位論文本審査書類提出受付(10日 16:00まで) 2026年度一期入学試験(募集9/1～9/11) 一期入学試験合格発表 学位記授与式
10月	10月8日(水)～15日(水)	学位論文申請受付(15日 16:00まで) 学位論文本審査書類提出受付(15日 16:00まで)
11月	11月8日(土) 11月5日(水)～12日(水)	奥羽大学歯学会(未定) 学位論文申請受付(12日 16:00まで) 学位論文本審査書類提出受付(12日 16:00まで)
12月	12月3日(水)～10日(水) 12月18日(木) 12月25日(木)	学位論文申請受付(10日 16:00まで) 学位論文本審査書類提出受付(10日 16:00まで) 2026年度二期入学試験(募集:12/1～12/11) 二期入学試験合格発表
1月	1月7日(水)～14日(水)	学位論文申請受付(14日 16:00まで) 学位論文本審査書類提出受付(14日 16:00まで)
2月	2月4日(水)～12日(木) 2月12日(木) 2月26日(木)	学位論文申請受付(12日 16:00まで) 学位論文本審査書類提出受付(12日 16:00まで) 2026年度三期入学試験(募集:1/29～2/5) 三期入学試験合格発表
3月	3月10日(火)	学位記授与式

4. 奥羽大学大学院学則（抜粋）

（昭和 61 年 4 月 1 日制定）

第 1 章 総則

第 1 条 奥羽大学大学院（以下「本大学院」という）は、歯学及び歯学に関連する学術において深く理論応用を教授かつ研究し、その奥義を究め、歯学の進歩と社会の福祉並びに文化の発展に寄与するとともに、有為な研究指導者を育成することを目的とする。

第 2 条 本大学院に歯学研究科を置き、研究科に博士課程を置く。

第 2 章 修業年限及び入学定員

第 3 条 本大学院の在学年限は 4 年以上 8 年を超えないものとする。

第 4 条 本大学院の入学定員は 18 名とし収容定員を 72 名とする。

第 3 章 領域および履修方法

第 5 条 研究科に次の 4 つの領域と専攻科目を置く。

領 域	専 攻 科 目
口 腔 機 能 学	口腔機能解剖学 口腔生理・生化学 口腔機能回復学 顎顔面口腔矯正学 生体管理学
口 腔 病 態 学	口腔病理学 口腔感染症学 歯科薬理学 放射線診断学 顎口腔外科学
口 腔 健 康 科 学	口腔保健学 生体材料・医用工学 保存修復学 咬合機能修復学 総合診療歯科学
加 齢 口 腔 科 学	口腔組織構造生物学 小児歯科学 歯内・歯周療法学

第 6 条 科目履修方法は次のとおりとする。

- (1) 学生は 4 年以上在学し 30 単位以上を履修し更に創意研究に基づく学位論文を提出し、かつ最終試験に合格しなければならない。
- (2) 学生は選択科目を履修する場合には、あらかじめ専攻科目主任の承諾を得なければならない。

第 4 章 課程修了の認定

第 7 条 各科目履修の認定は、科目担当者が学期末又は学年末に試験等によりこれを行う。

第 8 条 各科目の成績は、100 点をもって満点とし、優（100～80 点）、良（79～70 点）、可（69～65 点）、不可（64 点以下）の 4 種とする。優、良、可は合格とし、不可は不合格とする。

第 9 条 研究科における学位論文の審査及び最終試験は次のとおりとする。

- (1) 学位論文の審査は第 37 条に定める大学院研究科委員会がこれを行う。
- (2) 学位論文の審査は本大学院において論文受理後 1 年以内に終了するものとする。
- (3) 最終試験は学位論文を中心とし、これに関係ある科目について行われる。

第 5 章 学位

第 10 条 本大学院に 4 年以上在学し所定の単位を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対しては、博士（歯学）の学位を授与する。

2 博士の学位は、学位規則（昭和 28 年文部省令第 9 号）第 4 条第 2 項に基づき本学に学位論文を提出し大学院の行う審査及び試験に合格し、本大学院博士課程修了者と同等以上の学力を有することを確認された者にも授与することができる。

第 6 章 入学、休学、転学及び退学

第 11 条 入学の時期は毎学年度始めとする。

第 12 条 入学することのできる者は次の各号の一に該当するものとする。

- (1) 歯科大学又は大学歯学部、医学部、修業年限 6 年制の薬学部又は獣医学部を卒業した者
- (2) 外国において学校教育における 18 年の課程を修了し、前号と同等以上の学力があると認められた者
- (3) 文部科学大臣の指定した者

第 13 条 入学検定は人物、学力、及び身体について行う。ただし、学力検定は試験検定とし、試験の方法はその都度これを定める。

第 14 条 入学を志望する者は、所定の期日までに次の各号の書類、その他を提出しなければならない。

- (1) 本大学院所定の入学願書
- (2) 健康診断書
- (3) 入学検定料
- (4) その他本大学院が必要と認めた書類

第 15 条 入学を許可された者は所定の期日までに次の各号の書類その他を提出しなければならない。ただしその一部を省略することができる。

- (1) 住民票
- (2) 所定の誓約書
- (3) 次条に定める在学保証書
- (4) その他本大学院が必要と認めた書類
- (5) 本大学院所定の入学金及び授業料その他

第 16 条 在学保証書は、独立の生計を営む成年者で入学者の身上に関して、入学時の在学保証書に定めてある負担債務内容及び損害・賠償金の極度額を負うことのできる保証人 2 人がこれに署名しなければならない。

第 17 条 病気その他やむを得ない事由により引続き 3 か月以上出席することができない者は、その事実を証する書類を添え保証人連署により学長に願い出、その許可を得なければならない。

2 休学は 1 年以内とし、なお特別な事由により引続き休学しようとする者に対しては更に 1 年に限り延長することができる。

3 休学期間は在学年限に算入しない。

第 18 条 学長は特に必要と認めた者に対して休学を命ずることがある。

第 19 条 休学期間中又は休学の事由が止み復学しようとする者は保証人連署による願い出によって学長の許可を受け復学することができる。

第 20 条 学生は許可なくして他校への入学を志願し又は受験することができない。

2 他校へ転学しようとする者はその理由を詳記し保証人連署により願い出、学長の許可を受けなければならない。

第 21 条 学長は本大学院に転学を願い出た者に対しては欠員がある場合に限り研究科委員会に諮り許可することができる。

第 22 条 病気、その他の事由で退学しようとする者は、保証人連署により願い出、学長の許可を受けなければならない。

第 23 条 学長は病気、その他の事由で成業の見込がないと認めた者に対して退学を命ずることがある。

第 7 章 学生補導、厚生保健

第 24 条 学生の厚生補導は全教員が当たり、大学院研究科長がこれを総括する。

第 25 条 学生は本学の附属施設を利用できる。

第 26 条 学生の組織する学術、教養、体育等に関する団体のうち適当なものはこれを承認する。

第 8 章 賞罰

第 27 条 学業の優秀な者、又は著しい善行のあった者はこれを表彰することがある。

第 28 条 本学則に背き、学生としての本分に反する行為のあった者は懲戒する。

2 懲戒の区分は奥羽大学学則第 44 条を準用し当該学部教授会を大学院研究科委員会と読み替えるものとする。

第 9 章 入学検定料・入学金・授業料その他の納付金

第 29 条 入学を希望する者は出願と同時に検定料として、金 40,000 円を納入しなければならない。

第 30 条 入学を許可された者は、所定の期日までに次表の入学金、授業料等を納入しなければならない。

	本 学 卒 業 生	他 大 学 卒 業 生
入 学 金	200,000 円	400,000 円
授 業 料	600,000 円	600,000 円
施 設 充 実 費	100,000 円	1,000,000 円
傷 害 保 険 (※)	1,500 円	1,500 円

(※) 傷害保険料は年度によって若干変動することがある。

第 31 条 授業料は年額金 600,000 円とし、次の 2 期に分けて 2 分の 1 額ずつ分納することができる。

前期 300,000 円 4 月 30 日まで

後期 300,000 円 10 月 31 日まで

第 32 条 既納の学納金等は事由の如何にかかわらず返還しない。

2 転学、退学、又は退学を命ぜられた者、又は停学者もその期の授業料を納入しなければならない。

3 入学時所定の期日までに入学許可の取り消し又は入学を辞退した者に対しては、その者の請求により授業料及びその他の納付金を返還することがある。

第 33 条 休学中の授業料は事由により全部又は一部を減免することがある。

第 34 条 授業料を所定期間内に納入せず、催告を受けながらなお納入しない者は除籍される。

第 10 章 外国人学生及び聴講生

第 35 条 外国人学生及び聴講生については別に定める。

第 11 章 教員組織

第 36 条 大学院学生の授業及び研究指導には大学院専任教員がこれに当たる。ただし、必要ある場合には兼任教員がこれに協力するものとする。

- 2 教育上特別の必要があると認められる場合は、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

附 則

- 1 本学則は、昭和 61 年 4 月 1 日から施行する。

- 2 本学則以外に学生に対し必要な事項は、本大学学則及び関係規程を準用する。

附 則

本学則は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

5. 奥羽大学学位規程（抜粋）

（平成元年 12 月 16 日制定）

（趣旨）

第 1 条 学位規則（昭和 28 年文部省令第 9 号）第 13 条の規定に基づき、奥羽大学（以下「本学」という。）が授与する学位については、奥羽大学学則及び奥羽大学大学院学則に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

（学位の種類）

第 2 条 本学において授与する学位は、次のとおりとする。

（4）博士（歯学）

（博士の学位授与の要件）

第 3 条の 2 博士の学位は、大学院学則第 10 条第 1 項に基づき、本学大学院に 4 年以上在学し、所定の単位を修得し、さらに博士の学位論文（以下「学位論文」という。）の審査及び最終試験に合格した者に授与する。

2 前項に定めるもののほか、本学大学院学則第 10 条第 2 項に基づく博士の学位は、所定の期間研究に従事し、本学大学院の行う学位論文の審査及び試験に合格し、かつ、本学大学院の博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認された者にも授与することができる。

（博士の学位論文）

第 4 条 学位論文は、論文提出者が筆頭著者の原著であることを要する。ただし、参考としてほかの論文を添えなければならないことがある。

2 審査のため必要があるときは、学位論文の訳文、模型又は標本等の資料を提出させることがある。

（博士の学位の申請）

第 5 条 第 3 条の 2 第 1 項の規定により博士の学位を申請する者は、学位申請書、学位論文及び別に定める書類を添え学長に申請するものとする。

2 第 3 条の 2 第 2 項の規定により博士の学位を申請する者は、前項の規定による書類のほか、学位審査手数料として本学専任職員は 5 万円、学内提出者は 10 万円、学外提出者は 30 万円を添え学長に申請するものとする。

（申請の受理）

第 6 条 前条の規定により博士の学位授与の申請があったとき学長は大学院研究科長（以下「研究科長」という。）を通じ大学院研究科委員会（以下「研究科委員会」という。）の意見を聞き、受理の是否を決定し、これを通知する。（以下略）

2 前項の規定により申請を受理した学位論文及び学位論文審査手数料は、いかなる理由があっても返還しない。ただし、大学院充実費は学位論文の審査並びに試験に不合格となった場合は返還する。

（審査委員会）

第 8 条 前条の規定により学位論文の審査を付託された研究科委員会は、研究科委員会において選任された 3 名以上 5 名以内で構成する審査委員会を設ける。

2 研究科委員会が、学位論文の審査に当たって必要と認めたときは、他の大学院又は研究所等の教員等に協力を得ることができる。

3 審査委員会は、学位論文の審査と学位論文を中心として、これに関連のある科目について試験を行う。なお、試験は口頭又は筆答により行うものとする。

4 審査委員会は、第 5 条第 2 項の規定により学位を申請した者については、前項の規定による学位論文の審査及び試験のほか外国語（英語または独語）の試験を行う。なお、試験は口頭又は筆答により行うものとする。

（審査期間）

第 9 条 学位論文の審査及び試験は、学位論文の申請を受理してから 1 年以内に終了しなければならない。ただし、研究科委員会の議を経て審査期間を延長することができる。

(審査委員会の報告)

第 10 条 審査委員会は、審査が終了したとき直ちにその旨を研究科委員会に報告しなければならない。

(研究科委員会の議決)

第 11 条 研究科委員会で博士の学位を授与できる者と議決するには、構成員の過半数以上の賛成が必要なければならない。

(学位の授与)

第 13 条

2 学長は、第 12 条に規定する報告に基づいて、博士の学位を授与するものとする。

3 不合格者にはその旨を通知する。

(学位論文要旨・論文審査結果要旨の公表)

第 14 条 本学は博士の学位を授与したときは、その授与した日から 3 か月以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨および論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

(学位論文の公表)

第 15 条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から 1 年以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは、この限りではない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない理由がある場合には、研究科長の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に変えてその内容を要約したものを公表することができる。

この場合において、本学はその論文の全文を求めに応じ閲覧に供するものとする。

3 博士の学位を授与された者が行う前二項の規定による公表は、本学の協力を得て、インターネットの利用により行うものとする。

(学位の名称の使用)

第 16 条 本学において学位の授与を受けた者が学位の名称を用いるときは、「奥羽大学」と付記しなければならない。

(博士の学位授与の取消)

第 17 条 本学において博士の学位を授与された者が、次の各号の一に該当するときは、学長は、研究科委員会の議を経て、既に授与した博士の学位を取り消し、学位記を返還させ、かつ、その旨を公表するものとする。

(1) 不正の方法により博士の学位の授与を受けた事実が判明したとき。

(2) その名誉を汚辱する行為を行ったとき。

2 研究科委員会において前項の議決を行う場合は、第 11 条の規定を準用する。

附 則

この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

6. 奥羽大学における研究者の行動規範

(平成 27 年 4 月制定)

奥羽大学は、高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな医療人を育成することを理念としている。本学の研究者はこの理念に則り、研究活動に従事しなければならない。

研究活動は、先人達の業績を土台として、個々の研究者が自由な発想と知的好奇心・探求心に基づき、真実の探求や新たな知見の創造を積み重ね、知の体系を構築していく行為であり、人類の幸福、経済社会の発展を支えている。この活動における不正行為は、研究活動の本質・趣旨を研究者自らが歪める行為であり、さらに人々の科学への信頼を揺るがし、科学の発展を妨げ、冒瀆する。

このような認識に基づいて、本学はここに研究に従事する研究者が守るべき行動規範を定める。本行動規範における「研究者」とは、本学で研究に従事する者をすべて含むものとする。

本行動規範は、「科学者の行動規範一改訂版一」(平成 25 年 1 月 25 日日本学術会議)に準じて作成した。研究活動及び不正行為の定義は、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン 平成 26 年 8 月 26 日 文部科学大臣決定」に基づいた。

I 研究者の責務

(研究者の基本的責任)

- 1 研究者は、自らが生み出す専門知識や技術の質を担保する責任を有し、さらに自らの専門知識、技術、経験を活かして、人類の健康と福祉、社会の安全と安寧、そして地球環境の持続性に貢献するとの責任を有する。

(研究者の姿勢)

- 2 研究者は、常に正直、誠実に判断、行動し、自らの専門知識や能力・技術の維持向上に努め、科学研究によって生み出される知の正確さや正当性を科学的に示す最善の努力を払う。

(社会の中の研究者)

- 3 研究者は、科学の自律性が社会からの信頼と負託の上に成り立つことを自覚し、科学・技術と社会・自然環境の関係を広い視野から理解し、適切に行動する。

(社会的期待に応える研究)

- 4 研究者は、社会が抱く真理の解明や様々な課題の達成へ向けた期待に応える責務を有する。研究環境の整備や研究の実施に供される研究資金の使用にあたっては、そうした広い社会的な期待が存在することを常に自覚する。

(説明と公開)

- 5 研究者は、自らが携わる研究の意義と役割を公開して積極的に説明し、その研究が人間、社会、環境に及ぼし得る影響や起こし得る変化を評価し、その結果を中立性・客観性をもって公表すると共に、社会との建設的な対話を築くように努める。

(科学研究の利用の両義性)

- 6 研究者は、自らの研究の成果が、研究者自身の意図に反して、破壊的行為に悪用される可能性もあることを認識し、研究の実施、成果の公表にあたっては、社会に許容される適切な手段と方法を選択する。

Ⅱ 公正な研究

(研究活動)

- 7 研究者は、自らの研究の立案・計画・申請・実施・報告などの過程において、本規範の趣旨に沿って誠実に行動する。研究者は研究成果を論文などで公表することで、各自が果たした役割に応じて功績の認知を得るとともに責任を負わなければならない。研究・調査データの記録保存や厳正な取扱いを徹底し、ねつ造、改ざん、盗用などの不正行為及び不適切な行為を為さず、また加担しない。

(研究環境の整備及び教育啓発の徹底)

- 8 研究者は、責任ある研究の実施と不正行為及び不適切な行為の防止を可能にする公正な環境の確立・維持も自らの重要な責務であることを自覚し、研究者コミュニティ及び自ら所属する組織の研究環境の質的向上、ならびに不正行為及び不適切な行為抑止の教育啓発に積極的に取り組む。また、これを達成するために社会の理解と協力が得られるよう努める。

(研究対象などへの配慮)

- 9 研究者は、研究への協力者の人格、人権を尊重し、福利に配慮する。動物などに対しては、真摯な態度でこれを扱う。

(他者との関係)

- 10 研究者は、他者の成果を適切に批判すると同時に、自らの研究に対する批判には謙虚に耳を傾け、誠実な態度で意見を交える。他者の知的成果などの業績を正当に評価し、名誉や知的財産権を尊重する。また、研究者コミュニティ、特に自らの専門領域における研究者相互の評価に積極的に参加する。

Ⅲ 社会の中の科学

(社会との対話)

- 11 研究者は、社会と研究者コミュニティとのより良い相互理解のために、市民との対話と交流に積極的に参加する。また、社会の様々な課題の解決と福祉の実現を図るために、政策立案・決定者に対して政策形成に有効な科学的助言の提供に努める。その際、研究者の合意に基づく助言をめざし、意見の相違が存在するときはこれを解り易く説明する。

(科学的助言)

- 12 研究者は、公共の福祉に資することを目的として研究活動を行い、客観的で科学的な根拠に基づく公正な助言を行う。その際、研究者の発言が世論及び政策形成に対して与える影響の重大さと責任を自覚し、権威を濫用しない。また、科学的助言の質の確保に最大限努め、同時に科学的知見に係る不確実性及び見解の多様性について明確に説明する。

(政策立案・決定者に対する科学的助言)

- 13 研究者は、政策立案・決定者に対して科学的助言を行う際には、科学的知見が政策形成の過程において十分に尊重されるべきものであるが、政策決定の唯一の判断根拠ではないことを認識する。研究者コミュニティの助言とは異なる政策決定がなされた場合、必要に応じて政策立案・決定者に社会への説明を要請する。

Ⅳ 法令の遵守など

(法令の遵守)

- 14 研究者は、研究の実施、研究費の使用等に当たっては、法令、関係規則、指針及びガイドラインなどを遵守する。

(不正行為及び不適切な行為への対応)

- 15 研究者は、不正行為及び不適切な行為について、これらを隠蔽する試みや告発者に対する報復などを行わず、疑義が生じた場合には適切に対応する。

(差別の排除)

- 16 研究者は、研究・教育・学会活動において、人種、ジェンダー、地位、思想・信条、宗教などによって個人を差別せず、科学的方法に基づき公平に対応して、個人の自由と人格を尊重する。

(利益相反)

- 17 研究者は、自らの研究、審査、評価、判断、科学的助言などにおいて、個人と組織、あるいは異なる組織間の利益の衝突に十分に注意を払い、公共性に配慮しつつ適切に対応する。

7. 奥羽大学の研究活動における特定不正行為への対応に関する規定

(平成 27 年 4 月 1 日 制定)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、奥羽大学（以下「本学」という。）の研究活動における特定不正行為（以下「研究不正」という。）の疑義が生じた場合の調査手続きや方法等に関し必要な事項を定める。

2 研究者の研究不正への対応については、「奥羽大学における研究者の行動規範」、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」（平成 26 年 8 月 26 日文部科学大臣決定）に準拠し定める。

(定義)

第 2 条 この規程で「研究者」とは、本学に雇用されている専任教員及び本学に雇用されているとみなされる客員教授、非常勤教員、並びに本学の施設・設備を利用して研究に携わる者をいう。

2 この規程で「研究不正」とは、故意又は研究者としてわきまえるべき基本的な注意義務を著しく怠る等の次に掲げる具体的行為をいう。

(1) 捏造：存在しないデータ、研究結果などを作成すること。

(2) 改ざん：研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果などを真正でないものに加工すること。

(3) 盗用：他の研究者のアイディア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文または用語を当該研究者の了解又は適切な表示なく流用すること。

なお、科学的に適切な方法により正当に得られた研究成果が結果的に誤りであったとしても、それは不正行為には当たらないものとする。

(研究データの保存と開示)

第 3 条 研究者は、研究活動の正当性の証明手段を確保するとともに、第三者による検証可能性を担保するため、文書、数値データ、画像等の研究資料及び実験試料、標本等の研究試料を原則として次のように保存し、開示の必要性及び相当性が認められる場合には、これを開示するものとする。

(1) 文書、数値データ、画像等の研究資料は当該論文等の発表後 10 年間

(2) 実験試料、標本等の研究試料は当該論文等の発表後 5 年間

(3) 第 1 項の規定に関わらず、法令等または契約により研究資料等の保存期間が別に定められている場合は、その定めに従う。

2 研究資料等の保存方法は、保存場所の制約や保存に要する費用を考慮した上で各部局又は各研究分野で定める。

3 研究者の異動や退職による転出に際しては、研究資料等の当該複写を保存する、ないしは所在を把握するなど適切な措置を講ずる。

(最高責任者)

第 4 条 学長は、本学における研究不正への対応について最終責任を負い、最高責任者として第 6 条第 1 項及び第 8 条第 1 項に規定する委員と連携し、必要な措置を講じなければならない。

(不正防止教育)

第 4 条の 2 最高責任者の下に研究倫理教育責任者を置く。

2 研究倫理教育責任者は本学で行われる研究活動に関わる研究者に、研究倫理教育を実施する。

3 研究倫理教育は、定期的に受講させなければならない。

4 研究倫理教育は、研究者、事務職員等、それぞれの職務に応じた視点から、分かりやすい形での周知に努めるほか、学生等にも広く周知し、及びその内容を定期的に見直し、更新した内容で実施する。

5 研究倫理教育責任者は、研究倫理教育の受講状況及び理解度について把握に努める。

(調査委員会の設置)

第5条 学長は、「研究活動における特定不正行為調査委員会」（以下、「委員会」という。）を設置し、本学に研究不正に係る事案が発生した場合に、当該不正行為の予備調査を命じる。

2 学長は、「研究活動における特定不正行為調査特別委員会」（以下、「特別委員会」という。）を設置し、委員会からの答申に基づき、本格的な調査（以下、「本調査」という。）を必要と判断した場合に、当該不正行為の本調査を命じる。

(委員会の構成)

第6条 委員会は、次の委員をもって構成する。

(1) 大学院歯学研究科長（以下、「研究科長」という。）

(2) 学長が指名する教授2名

2 委員長は、研究科長があたり、委員会を管掌する。

3 委員長が必要と認めたときは、本学教員から協力員を指名することができる。協力員は委員長の要請に応じ、委員会に出席する。

(委員会の職務)

第7条 委員会は、研究不正に係る事案が発生した場合には速やかに予備調査を行う。

2 予備調査は、被告発者の事情聴取の他、委員会が必要と認めた調査を行うものとする。

3 委員長は、予備調査に基づき、本調査実施の要否を告発受付日から30日を限度として学長に答申するものとする。

(特別委員会の構成)

第8条 特別委員会は、次の委員をもって構成する。

(1) 委員会委員長

(2) 学長が当該研究不正事案に関してその都度指名する教授2名

(3) 学長が指名する当該研究分野について専門知識を有する学外者2名

(4) 法律の知識を有する学外者1名

2 前項の委員は、告発者及び被告発者と直接の利害関係を有しない者とする。

3 特別委員会の委員長は、委員会委員長があたり、特別委員会を管掌する。

(特別委員会の職務)

第9条 特別委員会は、当該研究不正事案に関する事実関係の本調査を行う。

2 本調査は、行うことを決定した日から原則として30日以内に開始する。

3 委員長は、本調査を行う場合には、告発者及び被告発者に通知し、調査への協力を求めるとともに、併せて委員の氏名及び所属を通知する。

4 告発者及び被告発者は、委員に異議がある場合には、委員長に対し、前項の通知を受け取った日から7日以内に異議を申立てることができる。

5 委員長は、前項の異議申立ての内容を審査し妥当性があると認めた場合には、当該委員に代えて別の委員を選任する。

6 委員長は、前項の審査結果を告発者及び被告発者に通知する。

7 本調査は、予備調査の方法および結果の妥当性の検証を行い、被告発者の事情聴取のほか特別委員会が必要と認めた調査を行うものとする。

8 特別委員会は、被告発者および関係部局などに対して、証拠の保全に必要な措置を行う。

9 特別委員会は、被告発者に書面または口頭による弁明の機会を与えなければならない。

10 弁明の機会の付与は、当該通知の日から原則として14日以内に、書面の提出又は委員会への出頭を求めて行う。

- 11 特別委員会が検証実験を被告発者に求める場合、又は被告発者が自らの意志で再実験を申し出て特別委員会が必要と認めた場合は、特別委員会の指導・監督の下にこれを行うこととする。
- 12 委員長は、本調査に基づき、研究不正に該当するか否かの認定を特別委員会が設置された日から 150 日を限度として学長に答申するものとする。
- 13 研究不正が存在しなかったと認定された場合は、被告発者の研究教育活動の正常化及び名誉回復のため可能な限りの措置を取らなければならない。
- 14 研究不正が存在しなかったと認定された場合でも、告発者に対して不利益な取扱いをしてはならない。
- 15 研究不正が存在しなかったと認定された場合で、告発が悪意に基づくとして特別委員会が判断したときは、告発者に真相解明のための顛末書を求めることとする。

(告発・相談窓口)

第 10 条 研究不正に関する告発又は相談を受ける窓口を学事部に置く。

- 2 告発・相談窓口職員を置き、学事部の職員をもって充てる。

(告発の受付)

第 11 条 告発は原則として顕名により行われ、研究不正を行ったとする研究者・グループの氏名又は名称、研究不正の態様その他の事案等の内容が明示され、且つ不正とする科学的な合理性のある理由を記載し、申立書により提出されたものを受け付ける。

- 2 報道機関、学会、インターネット上から研究不正の疑いが指摘された場合は、その内容に応じ、顕名による告発に準じて取り扱うものとする。
- 3 告発を受け付けた窓口職員は、その内容を委員会委員長に報告し、委員会にてその内容を精査し、相当の理由があると認めたときは、委員会委員長は学長に報告する。

(秘密保持)

第 12 条 告発・相談窓口職員及びこの規程に定める職務に携わる者は、職務上知ることができた一切の事項を在職中及び退職後においても他に漏らしてはならない。

(告発者・被告発者の保護)

第 13 条 学長は、悪意に基づく告発であることが判明しない限り、告発したことを理由に告発者が不利益な取扱いを受けることがないよう可能な限りの措置をとらなければならない。

調査協力者に対しても同様とする。

- 2 学長は、相当な理由なしに単に告発がなされたことを理由に被告発者が不利益な取扱いを受けることがないよう可能な限りの措置をとらなければならない。

(権限による調査)

第 14 条 学長は、告発の有無にかかわらず相当の信頼性のある情報に基づき研究不正があると認められたときは、委員会に予備調査を命じる。

(通知)

第 15 条 学長は、委員会による予備調査に基づく本調査の要否の決定を告発者及び被告発者に対して通知するものとする。

- 2 学長は、当該事案に係る資金を配分した機関及び文部科学省に本調査を行う旨を報告する。
- 3 学長は、特別委員会による本調査結果（認定を含む。）を速やかに告発者及び被告発者（被告発者以外で研究不正に関与したと認定されたものを含む。）に通知する。被告発者が本学以外の機関に属している場合は、その所属機関にも当該調査結果を通知する。また、当該事案に係る資金を配分した機関及び文部科学省に本調査結果を報告する。
- 4 学長は悪意に基づく告発との認定があった場合、その告発者が本学以外の機関に属している場合は、その所属機関にも通知する。

(不服申立て)

第 16 条 研究不正と認定された被告発者と告発が悪意に基づく認定された告発者は、通知を受けた日から 30 日を限度として不服申込書をもって学長に不服申立てができる。

2 学長は、前項の不服申立てを受けた場合には、その旨を当該事案に係る資金を配分した機関及び文部科学省に報告し、告発者及び被告発者に通知する。

(不服審査)

第 17 条 学長は、不服申立てを受理した場合、速やかに特別委員会による再調査を指示する。

2 不服申立ての趣旨が新たに専門性を要する判断が必要となる場合に、学長は特別委員会の委員の交代若しくは追加又は特別委員会に代えて他の者に審査させることができる。

3 委員長は、被告発者に関しては調査開始後 50 日を限度として、悪意に基づく認定された告発者に関しては 30 日を限度として調査結果を学長に報告する。

4 学長は、調査結果を当該事案に係る資金を配分した機関及び文部科学省に報告し、告発者及び被告発者に通知する。

(調査結果の公表)

第 18 条 学長は、特別委員会において研究不正に該当するとの認定があった場合は、速やかに研究不正に関与した者の氏名・所属、研究不正の内容、本学が公表までに行った措置の内容、調査に加わった委員の氏名・所属、本調査の方法・手順等、調査結果を公表する。

2 学長は、特別委員会において研究不正に該当しない旨の認定された場合は、原則として公表しない。ただし、調査結果が外部に漏えいした場合及び論文などに故意によるものでない誤りがあったときは、調査結果を公表する。

3 学長は、特別委員会において悪意に基づく告発と認定された場合は、告発者の氏名・所属、悪意に基づく認定した理由を公表する。

(処分)

第 19 条 研究不正と認定された場合に、関与した者が本学の職員である場合は、学校法人晴川学舎懲戒規程に従って処分される。

(事務)

第 20 条 委員会及び特別委員会の事務遂行は、担当の学事部がつかさどる。

(補則)

第 21 条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 29 年 9 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

8. 大学院授業科目の履修方法について

(1) 履修について

- 1) 在学期間中は、指導教員の下で研究活動に即した研究指導を受け、自発的な研究活動に専念し、研究者としての高度な能力とその基礎となる幅広い学識を養う。
- 2) 本大学院に4年以上在籍し、所定の単位を修得し、学位論文の審査と最終試験に合格した者に対しては、奥羽大学学位規程に基づいて、博士（歯学）の学位を授与する。

(2) 課程修了に必要な単位の認定

- 1) 所定の期間内に指導教授の指示により、別に定める学科目を含めて30単位以上を修得しなければならない。
- 2) 単位の認定は、各教科目に記された評価基準にのっとり、総合的に行う。
なお、各科目の成績は次の区分により評価する。

評 定	合 格			不 合 格
評 価	100点～80点	79点～70点	69点～65点	64点以下
	優	良	可	不可

- 3) 学生は、4年以上在学し、上述の単位を修得の上、創意研究に基づく学位論文を提出し、かつ最終試験に合格しなければならない。
- 4) 最終試験とは、学位論文を中心とし、これに関係ある科目について行われる。

(3) 履修方法等

- 1) 履修する授業科目は、毎学期の始めに、専攻科目の主任の助言により選定する。
- 2) 同一授業科目の重複履修は認められない。同一授業科目を重複履修した場合は最初に履修した科目以外は無効となる。
- 3) 基礎系を専攻した学生は、必ず臨床科目を必修科目に入れる等の配慮をして履修届をすること。
- 4) 専攻科目の主任は、年度初めに各学生の受講する授業科目を研究科長に届け出るものとする。
- 5) 原則として、2年次には研究計画報告書を提出し、3年次には「研究計画発表会」を行うものとする。

(4) 授業科目の単位数

各授業科目の単位数は、講義・演習は15時間の授業をもって1単位の基準とする。実験・実習は30時間をもって1単位の基準とする。

9. 学生生活について

大学院生が日常の勉学や研究活動あるいは生活で悩みを抱え、カウンセリングを希望する場合は、奥羽大学のカウンセラーによるカウンセリングを受けることができる。

また、セクシャルハラスメントを受けた場合には奥羽大学セクシャル・ハラスメント防止委員会に、その他のハラスメントを受けた場合は奥羽大学ハラスメント防止委員会に相談することができる。

- ・ カウンセリング窓口：024-932-9123
- ・ セクシャルハラスメント相談窓口：024-991-7816
- ・ ハラスメント相談窓口：同上

大学院生の経済的負担軽減のための措置

I 独立法人日本学生支援機構の大学院生に対する奨学金の紹介と支援

日本学生支援機構では、経済的理由により修学困難で成績優秀であると認められる大学院生を援助するために第一種奨学金、第二種奨学金、入学時特別増額奨学金の制度を設けている。これらの制度を積極的に紹介し、申請の支援を行う。

II ティーチング・アシスタントとして教育の補助業務に従事する大学院生への給与の支給

大学院生はティーチングアシスタント（T.A.）に応募することができる。採用された場合は、T.A.として学部教育の補助業務に従事する時間に応じて給与が支給される。給与は時給 900 円とする。ただし、勤務時間は、週 10 時間、月 40 時間を限度とする。このことにより、大学院生の経済的負担を軽減している。

III 非常勤歯科医師として診療に従事する大学院生への給与の支給

大学院生は奥羽大学歯学部附属病院の非常勤歯科医師に応募することができる。

採用された場合は、1 日に 8 時間を限度として歯科診療業務等に従事することで、給与が支給される。このことにより、大学院生の経済的負担を軽減している。

10. 2025年度奥羽大学大学院歯学研究科編成

領 域	専 攻 科 目	担 当 教 員	
口腔機能学	口腔機能解剖学	今井 元 教授	宇佐美晶信 教授
	口腔生理・生化学	山崎 信也 教授	前田 豊信 教授
	口腔機能回復学	高津 匡樹 教授	松本 知生 准教授
	顎顔面口腔矯正学	川鍋 仁 教授	山野辺晋也 准教授
	生体管理学	川合 宏仁 教授	安部 将太 准教授
口腔病態学	口腔病理学	遊佐 淳子 教授	山崎 幹子 講師
	口腔感染症学	清浦 有祐 教授	玉井利代子 教授
	歯科薬理学	柴田 達也 教授	長岡 正博 講師
	放射線診断学	川原 一郎 教授	臼田 真浩 講師
	顎口腔外科学	高田 訓 教授	金 秀樹 教授
口腔健康科学	口腔保健学	南 健太郎 准教授	小林美智代 講師
	生体材料・医用工学	石田 喜紀 教授	齋藤 龍一 講師
	保存修復学	山田 嘉重 教授	菊井 徹哉 准教授
	咬合機能修復学	羽鳥 弘毅 教授	富士 岳志 准教授
	総合診療歯科学	鈴木 史彦 教授	北條健太郎 准教授
加齢口腔科学	口腔組織構造生物学	安部 仁晴 教授	荒木 啓吾 准教授
	小児歯科学	島村 和宏 教授	神庭 優衣 講師
	歯内・歯周療法学	高橋 慶壮 教授	佐藤 穂子 准教授

11. 教員の研究内容

専攻科目担当教員と研究内容

領域	専攻科目	担当教員	研究内容
口腔機能学	口腔機能解剖学	今井 元	・哺乳類における歯の発生機構の解明 ・哺乳類における下垂体の発生機構の解明 ・哺乳類における脳神経の発生機構の解明
		宇佐美晶信	・骨内部構造の三次元的解析 ・頭頸部の肉眼的解剖
	口腔生理・生化学	山崎信也	・顎・顎骨への手術操作による局所麻酔効果の解析 ・顎骨への浸潤麻酔法の効果の解析 ・身体抑制強制開口下での低酸素症発現の解析 ・歯科治療での心肺停止報告の解析 ・全身麻酔と静脈内鎮静法の回復の解析
		前田豊信	・骨造成に関わる代謝産物の検索 ・間葉系幹細胞分化を制御する物質の検索 ・味覚受容体遺伝子の発現制御と機能解析
	口腔機能回復学	高津匡樹	・高齢者の顎口腔機能と口腔QOLに関する研究 ・咬合支持喪失と脳機能に関する研究
		松本知生	・インプラント上部構造の適合性に関する研究 ・付加製造(積層造形)法による有床義歯フレームワークの精確性に関する研究
	顎顔面口腔矯正学	川鍋 仁	・口唇口蓋裂児に対する一期治療の評価 ・矯正治療に用いる新しい材料に関する研究 ・顎変形症治療に関する研究 ・現代日本人の頭蓋顎顔面形態解析 ・不正咬合と睡眠呼吸動態との関連性に関する研究 ・矯正歯科治療前後の顎顔面形態の三次元的解析
		山野辺晋也	・不正咬合者の姿勢と筋活動 ・機能的矯正装置の治療効果 ・不正咬合者と嗅覚の関連性 ・矯正歯科治療における早期治療の有用性
	生体管理学	川合宏仁	・デクスメトミジンの多角的解析 ・麻酔薬と口腔粘膜血流量の解析 ・経鼻挿管における気管チューブの解析 ・日帰り全身麻酔の多角的解析 ・麻酔薬と唾液分泌機能
		安部将太	・全身麻酔と呼気温の多角的解析 ・気管挿管に伴う組織的变化に関する研究 ・精神鎮静法と酸素投与の多面的アプローチ

領域	専攻科目	担当教員	研 究 内 容
口 腔 病 態 学	口腔病理学	遊佐淳子	・自己免疫疾患における口腔粘膜病変の解析 ・頭頸部疾患の診断病理学
		山崎幹子	・インプラント治療およびインプラント周囲疾患に関する疫学研究 ・歯周病患者におけるSDMに基づいた個別化医療および患者満足度評価
	口腔感染症学	清浦有祐	・カンジダ血症の発症メカニズムに関する研究 ・口腔カンジダ症マウスにおけるカンジダの拡大メカニズム ・ビスフォスフォネートによる歯肉繊維芽細胞のNF-κB活性化の亢進メカニズム ・研究倫理及び大学院における歯学教育学
		玉井利代子	・口腔微生物と真菌の混合感染に対する宿主細胞の応答に関する研究 ・ビスフォスフォネートによる宿主細胞のサイトカイン産生調整メカニズム ・歯周病原性細菌の口腔上皮細胞侵入に関する研究
	歯科薬理学	柴田達也	・体液のメタボローム解析による疾患マーカーの探索 ・歯根膜の粘弾性に関する研究
		長岡正博	・マイクロダイアリシス法を用いた脳内神経伝達物質の研究 ・新規骨代謝疾患治療薬MPMBPの基礎研究
	放射線診断学	川原一郎	・歯科口腔外科疾患の診断に関する研究 ・地震・原子力災害における歯科医療対応に関する研究 ・歯科診療における患者の自律神経活動に関する研究 ・発汗（精神性発汗・味覚性発汗）に関する研究 ・神経発生における神経誘導因子に関する研究
		臼田真浩	・CTによる骨の形態分析 ・頭頸部疾患の画像診断に関する研究 ・画像による骨密度変化の解析 ・神経の走行に関する研究
	顎口腔外科学	高田 訓	・神経伝達物質と神経機能に関する実験的研究 ・味覚・口腔乾燥などの口腔機能に関する臨床的研究 ・インプラント材料の外科的侵襲に関する実験的研究
		金 秀樹	・各種骨補填材による骨増成に関する実験的研究 ・嚥下・咀嚼・睡眠時における各種顎口腔領域の筋機能について ・顎口腔領域の各種骨格筋損傷後の形態的・機能的回復に関する研究 ・加齢や損傷に伴う運動神経および知覚神経の形態的・機能的変化

領域	専攻科目	担当教員	研究内容
口腔健康科学	口腔保健学	南 健太郎	・エナメル質の再石灰研究 ・フッ化物配合口腔保湿剤による象牙質再石灰研究 ・リン酸化オリゴ糖による歯質の再石灰化研究
		小林美智代	・ラクトフェリンの抗ウイルス作用 ・感染症を予防するための機能性食品の探索 ・破骨細胞分化抑制因子OPGと歯周疾患との関わり
	生体材料・医用工学	石田喜紀	・CAD/CAMシステムによる修復物の適合精度に関する研究 ・歯科材料の接着技法へのイトロ処理の応用 ・インプラント部材と貴金属合金との鋳接に関する研究
		齋藤龍一	・コンポジットレジン修復における歯面処理の研究 ・歯科材料の粘弾性に関する研究
	保存修復学	山田嘉重	・光線力学療法を応用した根管内細殺菌に対する研究 ・新規化学的・物理学的齲蝕除去剤の開発および臨床応用に対する研究 ・ガラスアイオノマーセメント、レジンセメントを応用した最適な歯冠修復法に対する研究
		菊井徹哉	・歯科用接着材、接着修復材料および仮封材の性質に関する研究 ・歯の漂白および漂白後の歯質保護に関する研究 ・レーザーを用いた神経損傷修復、知覚異常改善に関する研究
	咬合機能修復学	羽鳥弘毅	・補綴装置の接着向上に関する研究 ・補綴装置装着と咀嚼機能に関する研究 ・補綴装置装着と下顎運動に関する研究 ・新規歯冠補綴材料に関する研究
		富士岳志	・補綴装置と咀嚼機能および顎運動に関する研究 ・補綴装置と歯周組織状態に関する研究 ・睡眠時無呼吸症候群の実態調査に関する研究 ・学生実習の効果に関する研究 ・金属冠の使用状況に関する研究
	総合診療歯科学	鈴木史彦	・脳血管障害患者の摂食嚥下障害 ・認知症高齢者の摂食嚥下障害 ・オーラルフレイルに関する疫学研究
		北條健太郎	・高齢者施設入所者の口腔内状況に関する研究 ・口腔機能低下症に関する研究 ・摂食嚥下障害に関する研究

領域	専攻科目	担当教員	研 究 内 容
加 齢 口 腔 科 学	口腔組織構造生物学	安部仁晴	・ 口腔の各組織における活性酸素の産生、分布とその動態解析 ・ 骨の発生様式におけるフリーラジカル関連遺伝子の発現と機能解明 ・ 唾液腺の成長発育における細胞増殖因子の発現と関連性の研究
		荒木啓吾	・ がんの悪性化における細胞の形態学的研究 ・ がん化に関与する因子の同定 ・ がんの再発を抑制する治療法の開発
	小児歯科学	島村和宏	・ 乳歯・幼若永久歯の歯冠修復に関する研究 ・ 歯の発育・萌出並びに顎骨の発育変化に関するエックス線CTによる解析 ・ 味覚等口腔機能発達に関する基礎的研究 ・ 小児の歯科治療中の呼吸および循環動態の変化に関する研究
		神庭優衣	・ 歯の発育・顎骨の発育変化に関するエックス線の分析 ・ 小児の歯科治療中の呼吸変化に関する研究 ・ 視線計測装置による認知度把握の研究
	歯内・歯周療法学	高橋慶壮	・ 歯周病の病態における細胞生物および分子生物学的研究 ・ インプラント周囲疾患の病態解明および治療法の確立 ・ 歯周病の病態を複雑系の理論から解析する研究 ・ マイクロCTを用いた根管系の拡大形成に関する研究
		佐藤穂子	・ Ni-Tiロータリーファイルの彎曲根管形成能についての研究 ・ ポリプロピレン製ポイントの安全性に関する研究 ・ 歯磨剤による着色除去効果についての研究

12. オフィスアワー

オフィスアワー（Office Hour）は、大学院生が各教員に対して学業や学校生活全般について質問や相談をしたり、個人的な指導等を受けたりするために設定された時間です。有効に活用してください。

また、各教員のメールアドレスをお知らせします。同じく有効に利用してください。

専攻科目	教員名	曜日	時 間	場 所
				メールアドレス
口腔機能解剖学	今井 元	木	16:30～17:30	解剖学棟 ha-imai@den.co.jp
	宇佐美晶信	木	17:30～18:30	解剖学棟 a-usami@den.ohu-u.ac.jp
口腔生理・生化学	山崎信也	金	16:00～17:00	歯科麻酔科医局 s-yamazaki@den.ohu-u.ac.jp
	前田豊信	金	17:30～18:30	口腔生化学大学院研究室 t-maeda@den.ohu-u.ac.jp
口腔機能回復学	高津匡樹	金	17:30～18:30	教授室 m-takatsu@den.ohu-u.ac.jp
	松本知生	金	17:00～17:30	歯科補綴学研究室 c-matsumoto@den.ohu-u.ac.jp
顎顔面口腔矯正学	川鍋 仁	月	16:30～17:30	教授室 h-kawanabe@den.ohu-u.ac.jp
	山野辺晋也	月	17:00～17:30	成長発育歯学講座 3 s-yamanobe@den.ohu-u.ac.jp
生体管理学	川合宏仁	木	16:30～17:30	歯科麻酔科医局 h-kawai@den.ohu-u.ac.jp
	安部将太	木	16:30～17:30	歯科麻酔科医局 sh-abe@den.ohu-u.ac.jp
口腔病理学	遊佐淳子	木	16:30～17:30	口腔病理学第2研究室 j-yusa@den.ohu-u.ac.jp
	山崎幹子	木	16:30～17:30	口腔病理学第2研究室 mi-suzuki@den.ohu-u.ac.jp
口腔感染症学	清浦有祐	月	16:30～17:30	口腔感染免疫学大学院生研究室 y-kiyoura@den.ohu-u.ac.jp
	玉井利代子	月	16:30～17:30	口腔感染免疫学大学院生研究室 r-tamai@den.ohu-u.ac.jp
歯科薬理学	柴田達也	月	17:00～17:30	歯科薬理学研究室 t-shibata@den.ohu-u.ac.jp
	鈴木礼子	月	17:00～17:30	歯科薬理学研究室 r-suzuki@den.ohu-u.ac.jp
放射線診断学	川原一郎	木	16:30～17:00	教授室 i-kawahara@den.ohu-u.ac.jp
	臼田真浩	木	16:30～17:30	歯科放射線学研究室 m-usuda@den.ohu-u.ac.jp

専攻科目	教員名	曜日	時 間	場 所
				メールアドレス
顎口腔外科学	高田 訓	木	16:00～17:00	教授室
				s-takada@den.ohu-u.ac.jp
	金 秀樹	木	16:00～17:00	教授室
				h-kon@den.ohu-u.ac.jp
口腔保健学	南 健太郎	月	16:30～17:30	口腔衛生学研究室
				k-minami@den.ohu-u.ac.jp
	小林美智代	月～金	17:00～17:30	基礎棟5階 口腔衛生学第1研究室
				m-kobayashi@den.ohu-u.ac.jp
生体材料・医用工学	石田喜紀	月	16:30～17:30	歯科理工学研究室
				y-ishida@den.ohu-u.ac.jp
	齋藤龍一	火	17:00～17:30	生体材料学研究室
				r-saito@den.ohu-u.ac.jp
保存修復学	山田嘉重	月	17:00～17:30	教授室
				y-yamada@den.ohu-u.ac.jp
	菊井徹哉	木	17:00～18:00	歯科保存学研究室4
				t-kikui@den.ohu-u.ac.jp
咬合機能修復学	羽鳥弘毅	月	16:30～17:30	教授室
				k-hatori@den.ohu-u.ac.jp
	富士岳志	月	17:00～17:30	歯科補綴学講座研究室5
				t-fuji@den.ohu-u.ac.jp
総合診療歯科学	鈴木史彦	金	16:30～17:30	教授室
				f-suzuki@den.ohu-u.ac.jp
	北條健太郎	月	16:30～17:30	高齢者歯科医局
				k-hojyo@den.ohu-u.ac.jp
口腔組織構造生物学	安部仁晴	月・金	16:30～17:30	教授室
				k-ambe@den.ohu-u.ac.jp
	荒木啓吾	水	17:00～17:30	基礎棟4階組織学研究室
				k-araki@den.ohu-u.ac.jp
小児歯科学	島村和宏	月	17:00～18:00	教授室
				k-shirnamura@den.ohu-u.ac.jp
	神庭優衣	水	17:00～17:30	
				y-asaka@den.ohu-u.ac.jp
歯内・歯周療法学	高橋慶壮	水	17:00～17:30	教授室あるいは研究室
				ke-takahashi@den.ohu-u.ac.jp
	佐藤穏子	金	17:00～17:30	歯科保存学講座研究室7
				ya-sato@den.ohu-u.ac.jp

13. 2025年度大学院歯学研究科カリキュラム

A. 一般大学院生 カリキュラム表

▲印は2026年度開講科目

○印は2025年度開講科目

区分	授業科目名称		対象 年次	開講 年度	開設科目	担当	単位	必要単位		備考
								必修	選択	
必修	専攻科目	講義 実習	1～2	毎年	専攻科目		20	8 12		専攻科一任
	大学院講義		1～2	毎年	専攻科目		4	4		2年間履修すること
	定例セミナー		1～2	毎年	専攻科目		2	2		3年間履修すること
選択 必修	コアカリキュラム		1～2	▲	C-01 病原微生物学実験法	清浦・玉井	0.7	2		各科目単位数 の合計が 2単位以上
				○	C-02 統計処理の基礎	山崎	1.0			
				○	C-03 統計処理の演習	山崎	1.1			
				○	C-04 形態学的研究手法	安部	0.7			
				○	C-05 頭頸部の臨床解剖学	宇佐美	0.7			
				○	C-06 分子腫瘍生物学	前田	0.7			
				▲	C-07 薬物療法学	柴田	0.7			
				○	C-08 感染・免疫学	清浦・玉井	0.7			
				▲	C-09 病因・病態学	遊佐	0.2			
				▲	C-10 生体材料応用学	石田	0.7			
				○	C-11 感覚・運動生理学	山崎	0.7			
				▲	C-12 顎関節症のエックス線学的研究と根拠	川原	0.7			
				毎年	C-13 研究の進め方	清浦	0.7			
				▲	C-14 摂食嚥下	鈴木史	0.7			
	専門カリキュラム		1～2	○	B-01 病理診断のための顕微鏡学	遊佐	0.4	2		各科目単位数 の合計が 2単位以上
				○	B-02 細胞培養と器官培養の実際	荒木	0.4			
				○	B-03 実験動物学	安部	0.3			
				▲	B-04 電気生理学の基礎と応用	山崎	0.7			
				○	B-05 分子口腔感染症学	清浦・玉井	0.7			
				▲	B-06 形態病理学	遊佐	0.4			
				○	B-07 歯科材料学総論	石田	0.7			
				○	B-08 予防歯科・疫学	南	0.3			
				○	B-09 社会歯科学	南	0.4			
				▲	B-10 口腔加齢現象論	島村	0.7			
				○	B-11 齲蝕治療論	菊井	0.7			
				○	B-12 口腔機能低下論	北條	0.7			
				○	B-14 生体機能工学	羽鳥	0.7			
				▲	B-15 歯内療法学	佐藤	0.7			
				▲	B-16 口腔インプラント学	羽鳥	0.7			
				▲	B-17 インプラント上部構造の科学	富士	0.7			
				▲	B-18 顎顔面口腔矯正学	川鍋	0.7			
				○	B-19 顎口腔外科学	金	0.7			
				○	B-20 総合診療歯科学	鈴木史	0.7			
				▲	B-21 放射線診断学・治療学	川原	0.7			
				○	B-22 生体管理と基礎と臨床	川合	0.7			
				▲	B-23 歯周病学	高橋	0.7			
				▲	B-25 生命科学実験法	前田	0.7			
				▲	B-26 薬物の発生毒性解析法の実験	柴田	0.7			
				○	B-27 画像評価法の基礎	川原	0.4			
選択	特別セミナー		1～4						4	
合計	修得単位数							30	4	

B. 社会人大学院生 カリキュラム表

○印は2026年度開講科目

▲印は2025年度開講科目

区分	授業科目名称		対象 年次	開講 年度	開設科目	担当	単位	必要単位		備考
								必修	選択	
必修	専攻科目	講義 実習	1～4	毎年	専攻科目		20	8 12		専攻科一任
	大学院講義		1～4	毎年	専攻科目		4	4		2年間履修すること
	定例セミナー		1～4	毎年	専攻科目		2	2		3年間履修すること
選択 必修	コアカリキュラム		1～4	▲	C-01 病原微生物学実験法	清浦・玉井	0.7	2		各科目単位数 の合計が 2単位以上
				○	C-02 統計処理の基礎	山崎	1.0			
				○	C-03 統計処理の演習	山崎	1.1			
				○	C-04 形態学的研究手法	安部	0.7			
				○	C-05 頭頸部の臨床解剖学	宇佐美	0.7			
				○	C-06 分子腫瘍生物学	前田	0.7			
				▲	C-07 薬物療法学	柴田	0.7			
				○	C-08 感染・免疫学	清浦・玉井	0.7			
				▲	C-09 病因・病態学	遊佐	0.2			
				▲	C-10 生体材料応用学	石田	0.7			
				○	C-11 感覚・運動生理学	山崎	0.7			
				▲	C-12 顎関節症のエックス線学的研究と根拠	川原	0.7			
				毎年	C-13 研究の進め方	清浦	0.7			
				▲	C-14 摂食嚥下	鈴木史	0.7			
	専門カリキュラム		1～4	○	B-01 病理診断のための顕微鏡学	遊佐	0.4	2		各科目単位数 の合計が 2単位以上
				○	B-02 細胞培養と器官培養の実際	荒木	0.4			
				○	B-03 実験動物学	安部	0.3			
				▲	B-04 電気生理学の基礎と応用	山崎	0.7			
				○	B-05 分子口腔感染症学	清浦・玉井	0.7			
				▲	B-06 形態病理学	遊佐	0.4			
				○	B-07 歯科材料学総論	石田	0.7			
				○	B-08 予防歯科・疫学	南	0.3			
				○	B-09 社会歯科学	南	0.4			
				▲	B-10 口腔加齢現象論	島村	0.7			
				○	B-11 齲蝕治療論	菊井	0.7			
				○	B-12 口腔機能低下論	北條	0.7			
				○	B-14 生体機能工学	羽鳥	0.7			
				▲	B-15 歯内療法学	佐藤	0.7			
				▲	B-16 口腔インプラント学	羽鳥	0.7			
				▲	B-17 インプラント上部構造の科学	富士	0.7			
				▲	B-18 顎顔面口腔矯正学	川鍋	0.7			
				○	B-19 顎口腔外科学	金	0.7			
				○	B-20 総合診療歯科学	鈴木史	0.7			
				▲	B-21 放射線診断学・治療学	川原	0.7			
				○	B-22 生体管理と基礎と臨床	川合	0.7			
				▲	B-23 歯周病学	高橋	0.7			
				▲	B-25 生命科学実験法	前田	0.7			
				▲	B-26 薬物の発生毒性解析法の実際	柴田	0.7			
				○	B-27 画像評価法の基礎	川原	0.4			
選択	特別セミナー		1～4							
合計	修得単位数							30	0	

〈履修上の注意点〉

- (1) 一般大学院生は2年次までに30単位以上を修得しなければならない。
- (2) 社会人大学院生は4年間で30単位以上を修得しなければならない。
- (3) 専攻科目の単位認定には、学会発表・論文や抄読会などを振り分けることができる。
- (4) 「コアカリキュラム」「専門カリキュラム」は、2年間で1クールとしたカリキュラム編成になっている。各々、設定されている科目から選択し、2年間で2単位以上履修しなければならない。
- (5) 「コアカリキュラム」、「専門カリキュラム」については、いずれも15回の講義をもって2単位とする。
- (6) 「特別セミナー」は、学外講師により適宜に配して行う。
4年間で4単位を予定する。

◆ 大学院生の臨床実習について

大学院の課程においては、歯科医学についての広く深い知識と技術を基に研究を進展させるために、本学附属病院で臨床実習を行うことがある。

1) 臨床実習の目標

大学院歯学研究科の学生が臨床実習を行うにあたっては、歯学研究科の担当教員の指導のもとに、臨床における症例から歯科医療・歯科医学に関する知識、各種診療技能および患者に対する態度を修得する。

2) 臨床実習の進め方

- (1) 大学院歯学研究科授業概要で定められている大学院講義、定例セミナー、コアカリキュラム、専門カリキュラム等の履修計画をもとに、指導教員と十分相談の上、診療日時等の設定を行う。
- (2) 本学附属病院において診療を行うために必要な事務手続きを経ってから臨床を行う。

3) 臨床実習場所

附属病院棟

2階 矯正・小児歯科診療室、予診科

3階 総合歯科第1診療室

4階 総合歯科第2診療室、口腔外科診療室、手術室

14. 2025年度大学院生授業時間割(一般大学院生用)

【 前 期 】			B=専門カリキュラム		C=コアカリキュラム	
時限	1	2	3		4	
	9:00～10:30	10:45～12:15	13:15～14:45		15:00～16:30	
月	専攻科目	専攻科目	専攻科目	B-01 (遊佐)	専攻科目	B-09 (南)
				B-02 (荒木)		B-11 (菊井)
火	専攻科目	専攻科目	専攻科目	C-04 (安部)	専攻科目	C-05 (宇佐美)
				C-13 (清浦)		C-06 (前田)
水	専攻科目	専攻科目	専攻科目		専攻科目	C-02 (山崎)
						C-03 (山崎)
木	専攻科目	専攻科目	専攻科目	B-05 (清浦・玉井)	専攻科目	
				B-08 (南)		
金	専攻科目	専攻科目	専攻科目		大学院講義 定例セミナー	

【 後 期 】			B=専門カリキュラム		C=コアカリキュラム	
時限	1	2	3		4	
	9:00～10:30	10:45～12:15	13:15～14:45		15:00～16:30	
月	専攻科目	専攻科目	専攻科目	C-08 (清浦・玉井)	専攻科目	B-22 (川合)
				B-27 (川原)		B-03 (安部)
火	専攻科目	専攻科目	専攻科目	B-12 (北條)	専攻科目	C-11 (山崎)
				B-20 (鈴木史)		B-14 (羽鳥)
水	専攻科目	専攻科目	専攻科目		専攻科目	
木	専攻科目	専攻科目	専攻科目	B-19 (金)	専攻科目	
				B-07 (石田)		
金	専攻科目	専攻科目	専攻科目		大学院講義 定例セミナー	

2025年度大学院生授業時間割(一般大学院生用)

【前期】

B=専門カリキュラム

C=コアカリキュラム

曜日	3時限目 (13:15～14:45)			4時限目 (15:00～16:30)		
	科目コード*	科目	担当	科目コード*	科目	担当
月	B-01 3コマ	病理診断のための顕微鏡学 ①4/14 ②4/21 ③4/28	遊佐	B-09 3コマ	社会歯科学 ①4/14 ②4/21 ③4/28	南
	B-02 3コマ	細胞培養と器官培養の実際 ①5/12 ②5/19 ③5/26	荒木	B-11 5コマ ④6/9 ⑤6/27	齲蝕治療論 ①5/12 ②5/19 ③5/26	菊井
火	C-04 5コマ ④5/20 ⑤5/27	形態学的研究手法 ①4/15 ②4/22 ③5/13	安部	C-05 5コマ ④5/20 ⑤5/27	頭頸部の臨床解剖学 ①4/15 ②4/22 ③5/13	宇佐美
	C-13 5コマ ④6/24 ⑤7/1	研究の進め方 ①6/3 ②6/10 ③6/17	清浦	C-06 5コマ ④6/24 ⑤7/1	分子腫瘍生物学 ①6/3 ②6/10 ③6/17	前田
水				C-02 7コマ ④5/28 ⑤6/4 ⑥6/11 ⑦6/18	統計処理の基礎 ①4/23 ②5/14 ③5/21	山崎
				C-03 8コマ ④7/16 ⑤7/22 ⑥7/30 ⑦9/6 ⑧8/20	統計処理の演習 ①6/25 ②7/2 ③7/9	山崎
木	B-05 5コマ ④5/15 ⑤5/22	分子口腔感染症学 ①4/17 ②4/24 ③5/8	清浦 玉井			
	B-08 2コマ	予防歯科・疫学 ①5/29 ②6/5	南			
金					大学院講義 定例セミナー	専攻科 専攻科

※上記履修時間以外は全て専攻科目に充てる

※詳細は別紙授業日程表参照

2025年度大学院生授業時間割(一般大学院生用)

【 後 期 】

B=専門カリキュラム C=コアカリキュラム

曜日	3 時限目 (13:15～14:45)			4 時限目 (15:00～16:30)		
	科目コード	科目	担当	科目コード	科目	担当
月	C-08	感染・免疫学	清浦 玉井	B-22	生体管理と基礎と臨床	川合
	5コマ	①9/1 ②9/8 ③9/22 ④9/29 ⑤10/6		5コマ	①9/1 ②9/8 ③9/22 ④9/29 ⑤10/6	
	B-27	画像評価法の基礎	川原	B-03	実験動物学	安部
	3コマ	①10/20 ②10/27 ③11/10		2コマ	①10/20 ②10/27	
火	B-12	口腔機能低下論	北條	C-11	感覚・運動生理学	山崎
	5コマ	①9/2 ②9/9 ③9/16 ④9/30 ⑤10/7		5コマ	①9/2 ②9/9 ③9/16 ④9/30 ⑤10/7	
	B-20	総合診療歯科学	鈴木(史)	B-14	生体機能工学	羽鳥 富士
	5コマ	①10/14 ②10/21 ③10/28 ④11/4 ⑤11/11		5コマ	①10/14 ②10/21 ③10/28 ④11/4 ⑤11/11	
水						
木	B-19	顎口腔外科学	金			
	5コマ	①9/4 ②9/11 ③9/18 ④9/25 ⑤10/2				
	B-07	歯科材料学総論	石田			
	5コマ	①10/9 ②10/16 ③10/23 ④10/30 ⑤10/6				
金					大学院講義 定例セミナー	専攻科 専攻科

※上記履修時間以外は全て専攻科目に充てる

※詳細は別紙授業日程表参照

2025年度大学院生授業時間割(社会人大学院生用)

【 前 期 】

B=専門カリキュラム

C=コアカリキュラム

曜日	5・6時限目 (18:00～19:30・19:45～21:15)		
	科目コード	科目	担当
水	C-12 5コマ	顎関節症のエックス線学的研究と根拠 ①4/16 ②4/16 ③4/23 ④4/23 ⑤5/7	川原
	B-06 3コマ	形態病理学 ①5/14 ②5/14 ③5/21	遊佐
	C-01 5コマ	病原微生物学実験法 ①6/4 ②6/4 ③6/11 ④6/11 ⑤6/18	清浦・玉井
	C-07 5コマ	薬物療法学 ①6/25 ②6/25 ③7/2 ④7/2 ⑤7/19	柴田
	B-26 5コマ	薬物の発生毒性解析法の実際 ①7/23 ②7/23 ③7/30 ④7/30 ⑤8/6	柴田
木	C-13 5コマ	研究の進め方 ①4/17 ②4/17 ③4/24 ④4/24 ⑤5/8	清浦
	B-10 5コマ	口腔加齢現象論 ①5/15 ②5/15 ③5/22 ④5/22 ⑤5/29	島村
	B-15 5コマ	歯内療法学 ①6/4 ②6/4 ③6/11 ④6/11 ⑤6/18	佐藤
	B-16 5コマ	口腔インプラント学 ①6/26 ②6/26 ③7/3 ④7/3 ⑤7/10	羽鳥
	C-09 1コマ	病因・病態学 ①6/19	遊佐

※詳細は別紙授業日程表参照

2025年度大学院生授業時間割(社会人大学院生用)

【 後 期 】

B=専門カリキュラム

C=コアカリキュラム

曜日	5・6時限目 (18:00～19:30・19:45～21:15)			
	科目コード	科目		担当
水	B-17 5コマ	インプラント上部構造の科学 ①9/3 ②9/3 ③9/10 ④9/10 ⑤9/17		富士
	B-18 5コマ	顎顔面口腔矯正学 ①9/24 ②9/24 ③10/1 ④10/1 ⑤10/8		川鍋
	B-04 5コマ	電気生理学の基礎と応用 ①10/15 ②10/15 ③10/22 ④10/22 ⑤10/29		山崎
木	C-10 5コマ	生体材料応用学 ①9/4 ②9/4 ③9/11 ④9/11 ⑤9/18		石田
	B-21 5コマ	放射線診断学・治療学 ①9/25 ②9/25 ③10/2 ④10/2 ⑤10/9		川原
	B-23 5コマ	歯周病学 ①10/16 ②10/16 ③10/23 ④10/23 ⑤10/30		高橋
	B-25 5コマ	生命科学実験法 ①11/6 ②11/6 ③11/13 ④11/13 ⑤11/20		前田
	C-14 5コマ	摂食嚥下 ①11/27 ②11/27 ③12/4 ④12/4 ⑤12/11		鈴木(史)

※詳細は別紙授業日程表参照

15. 2025年度大学院講義・定例セミナー日程

A.一般大学生

■場所：講義棟 研修室 1

■時限：4 時限目（15:00 ～ 16:30）

講 義					
	月 日	曜	専攻科目	担当者	テーマ
1	4月25日	金	口腔機能解剖学	今井 元	歯や下垂体は、どこからくるのか？
2	5月16日	金	口腔生理・生化学	前田 豊信	口腔感覚の遺伝子発現制御
3	5月30日	金	口腔機能回復学	高津 匡樹	顎関節症治療の現在
4	6月13日	金	顎顔面口腔矯正学	川鍋 仁	矯正治療における固定
5	6月27日	金	生体管理学	安部 将太	全身麻酔による動物実験の課題
6	7月11日	金	口腔病理学	山崎 幹子	辺縁性歯周炎と全身疾患との関わりについて
7	7月25日	金	口腔感染症学	玉井利代子	骨吸収抑制薬ビスフォスフォネートが宿主細胞の免疫応答に与える影響について
8	8月8日	金	生体材料・医用工学	齋藤 龍一	コンポジットレジン接着について
9	8月29日	金	放射線診断学	臼田 真浩	頭頸部疾患の画像診断
10	9月12日	金	顎口腔外科学	金 秀樹	骨増生の基礎と臨床
11	9月26日	金	口腔保健学	南 健太郎	フッ化物配合口腔保湿材の効果について
12	10月10日	金	歯科薬理学	長岡 正博	新規骨代謝疾患治療薬の基礎研究
13	10月24日	金	保存修復学	菊井 徹哉	歯科用接着システムの変遷と新たな展開
14	11月7日	金	咬合機能修復学	富士 岳志	補綴装置装着による咀嚼機能への影響
15	11月21日	金	総合診療歯科学	北條健太郎	口腔機能低下症について
16	12月5日	金	口腔組織構造生物学	荒木 啓吾	正常細胞とがん細胞の形態学的違いについて
17	12月19日	金	小児歯科学	島村 和宏	小児の特徴について
18	1月23日	金	歯内・歯周療法学	高橋 慶壮	歯周病患者に対するインプラント治療の現状

定例セミナー					
	月 日	曜	専攻科目	担当者	テーマ
1	4月18日	金	口腔機能解剖学	宇佐美晶信	頭頸部の臨床解剖
2	5月9日	金	口腔組織構造生物学	安部 仁晴	活性酸素の発現とその機能
3	5月23日	金	口腔機能回復学	松本 知生	補綴装置製作におけるデジタル技術の応用
4	6月6日	金	顎顔面口腔矯正学	山野辺晋也	上顎前突における歯列矯正のマネジメント
5	6月20日	金	口腔生理・生化学	山崎 信也	顎骨と局所麻酔
6	7月4日	金	口腔病理学	遊佐 淳子	病理診断について
7	7月18日	金	口腔感染症学	清浦 有祐	真菌感染症と腸内フローラ
8	8月1日	金	歯科薬理学	柴田 達也	COVID-19 と薬物
9	8月22日	金	放射線診断学	川原 一郎	放射線と歯科医療の歴史について
10	9月5日	金	顎口腔外科学	高田 訓	顎口腔外科領域の治療に直結する実験手技
11	9月19日	金	口腔保健学	小林美智代	感染症の予防と公衆衛生
12	10月3日	金	生体材料・医用工学	石田 喜紀	セラミックの特性と加工
13	10月17日	金	保存修復学	山田 嘉重	各種コンポジットレジン及び前処理材について
14	10月31日	金	咬合機能修復学	羽鳥 弘毅	クラウンブリッジ治療について
15	11月14日	金	総合診療歯科学	鈴木 史彦	摂食嚥下リハビリテーションの臨床と研究
16	11月28日	金	生体管理学	川合 宏仁	小動物に行う実験のための全身麻酔について ー特に、ウサギに対してー
17	12月12日	金	小児歯科学	神庭 優衣	小児の口腔外傷
18	1月16日	金	歯内・歯周療法学	佐藤 穂子	彎曲根管の拡大・根管形成について

2025年度 社会人大学院夏期集中講義日程

【社会人大学院生・一般大学院生】

■場所 第1 講義棟 研修室1

■時限 1 時限 (9:00 ~ 10:30) , 2 時限 (10:45 ~ 12:15) , 3 時限 (13:15 ~ 14:45) , 4 時限 (15:00 ~ 16:30)

月 日	時限	履修区分	専攻科目	担当者	テーマ
7月30日(水)	1	講義	口腔感染症学	玉井利代子	ビスフォスフォネートが宿主の免疫応答に与える影響
	2	講義	咬合機能修復学	羽鳥弘毅	クラウンブリッジ治療について
	3	セミナー	小児歯科学	島村和宏	小児口腔内診査における注意点
	4	セミナー	放射線診断学	川原一郎	画像診断の最新動向
7月31日(木)	1	講義	総合診療歯科学	鈴木史彦	オーラルフレイルについて
	2	講義	口腔病理学	山崎幹子	辺縁性歯周炎と全身疾患との関わりについて
	3	セミナー	保存修復学	山田嘉重	各種コンポジットレジン及び前処理材について
	4	セミナー	口腔機能解剖学	今井 元	歯や下垂体は、どこからくるのか？
8月6日(水)	1	講義	生体材料・医用工学	石田喜紀	セラミックスと各種材料の接着について
	2	講義	口腔機能回復学	高津匡樹	顎関節症治療の現在
	3	セミナー	顎顔面口腔矯正学	山野辺晋也	上顎前突における歯列矯正のマネジメント
	4	セミナー	口腔組織構造生物学	安部仁晴	生体における活性酸素の発現とその機能
8月7日(木)	1	講義	顎口腔外科学	高田 訓	顎口腔領域の手術に直結する実験手技
	2	講義	口腔機能解剖学	宇佐美晶信	頭頸部の臨床解剖
	3	セミナー	口腔組織構造生物学	荒木啓吾	正常細胞とがん細胞の形態学的違いについて
	4	セミナー	顎顔面口腔矯正学	川鍋 仁	顎顔面の成長発育
8月20日(水)	1	講義	歯科薬理学	柴田達也	COVID-19 と薬物
	2	講義	口腔保健学	小林美智代	感染症の予防と公衆衛生
	3	セミナー	口腔機能回復学	前田豊信	遺伝子導入と基本的な分子生物学的手法
	4	セミナー	生体管理学	川合宏仁	動物実験に用いる全身麻酔薬について
8月21日(木)	1	講義	口腔病理学	遊佐淳子	病理診断について
	2	講義	歯内・歯周療法学	佐藤穂子	彎曲根管の拡大・根管形成について
	3	セミナー	顎口腔外科学	金 秀樹	骨増生の基礎と臨床
	4	セミナー	放射線診断学	臼田真浩	頭頸部疾患の画像診断
8月27日(水)	1	講義	保存修復学	菊井徹哉	医療用レーザーと生体との相互作用
	2	講義	歯内・歯周療法学	高橋慶壮	歯周病患者に対するインプラント治療の現状
	3	セミナー	社会歯科学	南 健太郎	歯の再石灰化について
	4	セミナー	生体管理学	安部将太	全身麻酔による動物実験の課題
8月28日(木)	1	講義	口腔生理・生化学	山崎信也	顎骨と局所麻酔
	2	講義	生体材料・医用工学	齋藤龍一	CR 接着における前処理について
	3	大学院研究経過発表会（セミナー 2 回分の出席となります）			
	4				

■講義単位：1 コマ出席 = 0.2 単位

■セミナー単位：1 コマ出席 = 0.1 単位

2025年度 大学院特別研修セミナー・特別セミナー開催予定一覧

	開催日時	講 師		内 容
		氏 名	所属機関・職名	
1	4月18日(金) 17:15～18:45	末松 誠 博士	国立研究開発法人日本医療研究 開発機構（AMED）前理事長 慶応義塾大学 名誉教授 公益財団法人実中駿 所長	グローバルデータシェアリ ングによる医療研究開発の 課題克服 ：新型コロナからの教訓
2	未定	佐谷 秀行 博士	藤田医科大学腫瘍医学研究 センター 教授 慶応義塾大学 名誉教授	癌研究における3つのI： Integration・Informa- tion・ International
3	未定	飯室 聡 博士	国際医療福祉大学大学院医学 研究科 教授 研究倫理支援部門長	研究データの品質管理
4	未定	米山 文弥 博士	Baylor College of Medicine Texas Children's Hospital Assistant Professor	右手にメスを左手には筆を

16. 授業概要

A. 専攻科目（必修）

科目の種類	専攻科目	科目ナンバリングコード	M-01	科目名	口腔機能解剖学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	今井 元・宇佐美晶信
場 所	解剖棟 大学院生研究室				

1. 科目の概要

頭頸部の解剖学（骨学、脈管学、筋学、神経学、口腔内臓学）について総合的に理解する。
研究倫理と研究不正防止及び臨床研究の倫理指針等に関する知識を学び実践できるようにする。

2. 一般目標

頭頸部の構造の三次元的な理解とともに、肉眼解剖学手技ならびに研究課題に取り組む能力を習得する。
文献検索により論文を収集し、研究計画を立案できる。

3. 到達目標

- 1) 頭頸部の構造を三次元的に理解することができる。
- 2) 骨の内部構造を三次元的に評価ができる。

4. 学位授与の方針との関連

解剖学的知識の理解と技術の修得を目標としているので、ディプロマポリシーの1に関連する。
研究計画の立案ができるようになることを目標としているのでディプロマポリシーの2に関連する。

5. 授業方法

- 1) 講義：系統解剖学的に人体の構造を理解する。
- 2) 実習：局所解剖学的に三次元的な人体の構造を理解するとともに、肉眼解剖学的手技を習得する。

6. 成績評価の方法

年度末に研究成果をまとめた研究成果報告書と次年度のための研究計画書を提出し、これらによって評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

事前に配布される教科書および研究論文の授業当該部位を事前に読んで、知識を整理しておく(30分間)。

8. 教科書・参考書

教科書：なし
参考書：口腔解剖学 1～5 アナトーム社 2001年

9. 履修上の注意事項

講義で使用した参考書・論文のコピーをさらにコピーしたり、電子化することは禁ずる。やむを得ない理由で欠席や遅刻をする際には事前にメールで連絡すること。

10. 英語による授業

授業はすべて日本語でおこなう。

11. 履修登録について

必修科目のため、履修登録は不要。

12. 備考

担当教員への連絡は原則としてメールで行うこと。質問もメールで行うことは可能である。

科目の種類	専門カリキュラム	科目ナンバリングコード	M-02	科目名	口腔生理・生化学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	山崎信也・前田豊信
場 所	基礎医学棟3階 口腔生理学大学院研究室 基礎医学棟5階 口腔生化学教室				

1. 科目の概要

口腔生理・生化学では、口腔機能を生理学的あるいは生化学的解析によって明らかにしていく。具体的には、顎口腔機能時における頭頸部運動の解析あるいは骨芽細胞分化の制御機能の癌細胞の悪性形質の解析を最新の研究手法を交えて詳細に行っていく。

2. 一般目標

高度な歯学研究を行うために、口腔生理・生化学の研究で必要とされる高度な専門知識と最新の実験手技を身に付けながら、研究課題に対する解決力と創造力を身に学ぶ。

3. 到達目標

- 1) 研究テーマに関する最新の情報を把握する。
- 2) 既報の論文より得られた情報から、未解決の部分を把握し実験計画を立てる。
- 3) 電気生理学的測定機器あるいは分子生物学的測定機器の操作法やデータ解析ソフトウェアの使用法を学ぶ。
- 4) 顎口腔機能時の顎頸部運動や顎運動が測定できる。
- 5) 骨芽細胞や癌細胞の分化を制御できる。
- 6) 研究の途中経過をまとめて発表できる。
- 7) 研究成果をまとめて発表することができ、その内容に関する質問に対応できる。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、専攻科目における専門知識の修得と、研究者としての教養、社会性、倫理観を身に付けることなので、ディプロマポリシーの1および3に関連する。

5. 授業方法

- 1) 講義：指定した教科書、参考書および学術雑誌に掲載された論文のコピーなどを使用して、口腔生理・生化学の最新の知識を習得する。
- 2) 実習：口腔生理・生化学の研究に必要な実験テクニックを習得する。

6. 成績評価の方法

日常の研究成果をまとめて年度末に提出する研究成果報告書(70%)と次年度の研究計画書(30%)の二つによって評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

指定された教科書の授業該当ページを事前に読み、疑問がある時にはそれを整理しておくこと。必要時間約30分。事前配布の論文を読み、論点をまとめておくこと。必要時間約60分

8. 教科書・参考書

標準生理学 第8版 医学書院 2014年
細胞の分子生物学 第5版 ニュートン出版 2010年

9. 履修上の注意事項

講義で使用した資料のコピーや電子化は禁ずる。使用した資料の内容によっては講義後に回収する場合もある。

10. 英語による授業

授業は原則的に日本語で行うが、英語論文を講義資料として用いる時には、英語による討論を行うことがある。

11. 履修登録について

必修項目のため、履修登録は不要である。

12. 備考

講義担当教員に質問や意見がある場合には、メールで対応することは可能である。

科目の種類	専攻科目	科目ナンバリングコード	M-03	科目名	口腔機能回復学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	高津匡樹・松本知生
場 所	附属病院棟3階 歯科補綴学研究室				

1. 科目の概要

本専攻科目は、歯・口腔・顎・その他の関連組織の先天性欠如・後天的欠損および喪失や異常を人工装置等を用いて修復し、喪失した形態・機能を回復するために必要な理論と技術を考究する科目である。

2. 一般目標

喪失した口腔機能を回復するために、形態的、機能的回復手法と回復度の評価法を修得する。

3. 到達目標

- 1) 全部および部分欠損症例の機能回復評価に関する研究手法を習得する。
- 2) 顎口腔機能の回復手法を習得する。
- 3) 顎口腔機能評価の手法を習得する。
- 4) 三次元有限要素法の解析法を修得する。
- 5) 三次元有限要素法を応用した口腔インプラントの研究手法を習得する。
- 6) 味覚関連タンパク質の検出法を修得する。
- 7) 生体情報の導出法を修得する。

4. 学位授与の方針との関連

本科目は、口腔機能の回復手法と回復度の評価法を習得するものであるため、ディプロマポリシーの1、3に関連する。

5. 授業方法

- 1) 講義：専門書、学術雑誌掲載の論文などを使用して上記到達目標に関連する最新の知識を習得する。
- 2) 実習：大学院生毎に選択した上記到達目標に必要な手技を実習により修得する。
- 3) その他
 - (1) 抄読会とセミナー：毎週1回開催し、最新の情報を修得する。
 - (2) 研究報告会：毎月1回開催し、研究の進捗状況を報告して指導を受ける。
 - (3) 症例検討会：隔週1回開催し、臨床における口腔機能回復の実際を学ぶ。
 - (4) 学会参加：国内外の専門学会に積極的に参加し、また研究成果を発表する。

6. 成績評価の方法

講義、抄読会、セミナーおよび研究報告会の出席(40%)、研究報告会の発表内容とプレゼンテーション能力(40%)、専門学会での発表(20%)により評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

なし

8. 教科書・参考書

必要に応じて資料を配布する。

9. 履修上の注意事項

やむを得ない理由で遅刻・欠席をする場合は、事前に講義担当教員にメールでその旨を伝えること。

10. 英語による授業

授業は日本語を原則とするが、英文論文を講義資料として用いた場合に英語による討論を行う場合がある。

11. 履修登録について

必修科目のため、履修登録は不要

12. 備考

科目の種類	専攻科目	科目ナンバリングコード	M-04	科目名	顎顔面口腔矯正学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	川鍋 仁・山野辺晋也
場 所	附属病院棟3階 成長発育歯学講座大学院研究室				

1. 科目の概要

顎顔面口腔矯正学では、顎顔面の成長発育を学習し、最新の歯科矯正学理論に基づいて不正咬合と顎顔面携帯異常の診断学と治療学について理解する。

2. 一般目標

高度な歯学研究を行うために、歯科矯正学の研究で必要とされる高度な専門知識と最新治療技術ならびに研究課題へ取り組む能力を身に付ける。

3. 到達目標

- 1) 歯科矯正学と隣接する一般生物学・医学を説明できる。
- 2) 歯科矯正学の基礎的内容について説明できる。
- 3) 歯科矯正学の一般内容（診察・検査・診断、治療目標の設定）を説明できる。
- 4) 矯正歯科の治療技術を身につける。
- 5) 他専門分野に及ぶ包括的歯科治療を説明できる。
- 6) 矯正歯科における健康と安全性の管理を説明できる。
- 7) 臨床マネージメントと社会への展望を説明できる。
- 8) 矯正歯科医としての倫理的配慮を説明できる。
- 9) 研究の企画および成果を発表できる。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、歯科矯正学における高度な専門知識と技能を修得する事なのでディプロマポリシーの1に関連する。

5. 授業方法

- 1) 講義：指定した参考書および国際的な学術雑誌掲載論文を利用して、歯科矯正学の最新の知識を習得する。
- 2) 実習：矯正歯科治療に必要な治療技術を模型および臨床実習によって習得する。
- 3) その他
 - (1) 研究：歯科矯正学に関する研究を指導教員と綿密な連携を取って行う。
 - (2) 症例検討会：担当した患者について立案した診断結果・治療方針を報告し、治療効果を経過報告で確認する。
 - (3) 学会参加：毎年開催される歯科矯正学の専門学会ならびに関連学会へ積極的に参加・発表する。

6. 成績評価の方法

講義内容のレポート(30%)、実習(30%)、抄読会(15%)、症例検討会(15%)、学会参加(10%)の5項目で評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

- ・ 指定した教科書の授業該当頁を事前に読み、疑問点がある場合はそれを整理しておくこと(30分)。
- ・ 担当した患者の検査資料について分析・診断・治療方針をまとめて整理しておくこと(60分)。
- ・ 事前配布の論文を読み、論点を整理しておくこと(60分)。

8. 教科書・参考書

教科書：矯正臨床の基礎、クインテッセンス 2009
骨学実習の手引き第4版 南山堂 2000年

参考書：Radiographic Cephalometry : From Basics 3-D Imaging, Quintessence Pub Co;2版(2006/8/30)
その他、適宜論文や資料を配布する。

9. 履修上の注意事項

- ・ 具体的な症例に基づく講義の際は守秘義務を厳守し、資料の取扱いは教員の指示に従うこと。講義後に資料を回収することもある。
- ・ 講義で使用した資料のコピー及び電子化は禁ずる。
- ・ やむを得ない理由で遅刻・欠席をする場合は、事前に講義担当教員にメールでその旨を伝えること。

10. 英語による授業

- ・ 授業は日本語を原則とするが、英文論文を講義資料として用いた場合に英語による討論を行う場合がある。
- ・ 受講者に外国人留学生がいる場合は、英語による講義を行う場合がある。

11. 履修登録について

必修科目のため、履修登録は不要

12. 備考

- ・ 講義担当教員に質問などがある場合、メールでも対応することは可能である。
- ・ 他施設の症例検討会やセミナーに参加希望の場合、その旨を講義担当教員に申し出れば考慮する。

科目の種類	専攻科目	科目ナンバリングコード	M-05	科目名	生体管理学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	川合宏仁・安部将太
場 所	病院棟5階 歯科麻酔学研究室				

1. 科目の概要

生体管理学（歯科麻酔学）は、歯科における周術期の種々のストレスから患者を守り、安全に全身管理を行うための学問であり、解剖、生理、生化、薬理から始まり、術前管理、全身麻酔、局所麻酔、精神鎮静法、ペインクリニック、全身合併症、偶発症、救急救命処置などを豊富に含む課題について、臨床および基礎に踏み込んだ研究を実践し、より安全な歯科医療に貢献する。

2. 一般目標

歯科医療を安全に行うために必要な全身的な生体管理学の臨床および基礎的研究能力を身につける。

3. 到達目標

- 1) 生体管理学に必要な解剖、生理、生化、薬理を説明する。
- 2) 生体管理学に必要な術前、術中、術後管理を説明する。
- 3) 全身麻酔が生体に与える影響やメカニズムについて説明する。
- 4) 局所麻酔効果を解析できる実験系について立案する。
- 5) 精神鎮静法の安全な管理を解析できる実験系について立案する。
- 6) ペインクリニックの効果判定を解析できる実験系について立案する。
- 7) 全身合併症を有する患者の安全な歯科治療について研究を立案する。
- 8) 歯科治療時の偶発症の防止とより有効な対処法についての研究を立案する。
- 9) 歯科治療時におけるより有効な救急救命処置についての研究を立案する。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、研究活動の遂行に必要な能力と教養を身につけることなので、ディプロマポリシーの2、3に関連する。

5. 授業方法

- 1) 講義：指定教科書、参考書、国内外論文を抄読し、生体管理に関する最新の知識を習得する。
- 2) 実習：臨床実験および動物実験において生体管理学に必要な研究のテクニックを習得する。
- 3) その他：
 - (1) 生体管理、歯科麻酔学分野における研究セミナー、研究会への参加
 - (2) アメリカ心臓協会主催の1次救命処置講習会、2次救命処置講習会への参加および資格取得
 - (3) 日本救急医学会主催の即時救命処置講習会への参加および資格取得
 - (4) 日本各地の医学部、歯学部や、医師会、歯科医師会などで開催される救急救命講習会への参加
 - (5) 国内学会、国際学会（IADR、国際歯科麻酔学会、アジア歯科麻酔学会など）への参加

6. 成績評価の方法

日常の研究成果をまとめて年度末に提出する研究成果報告書(70%)と次年度のための研究計画書(30%)の2つによって評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

指定された教科書の授業該当頁を事前に読み、疑問点がある場合はそれを整理しておくこと(30分間)。事前配布の論文を読み、論点を整理しておくこと(60分間)。

8. 教科書・参考書

教科書：スタンダード全身管理・歯科麻酔学 第4版
学建書院 2017
参考書：なるほど統計学とおどろき Excel 統計処理
第8版 医学図書出版 2017

9. 履修上の注意事項

具体的な症例に基づく講義の際は守秘義務を厳守し、資料の取扱いは教員の指示に従うこと。講義後に資料を回収することもある。
講義で使用した資料のコピー及び電子化は禁ずる。
やむを得ない理由で遅刻・欠席をする場合は、事前に講義担当教員にメールでその旨を伝えること。

10. 英語による授業

授業はすべて日本語で行う。
授業は日本語を原則とするが、英文論文を講義資料として用いた場合に英語による討論を行う場合がある。
受講者に外国人留学生がいる場合は、英語による講義を行う場合がある。

11. 履修登録について

必修科目のため、履修登録は不要

12. 備考

講義担当教員に質問などがある場合、メールでも対応することは可能である。
症例検討会・ジャーナルクラブに参加希望の場合、その旨を講義担当教員に申し出れば考慮する。

科目の種類	専攻科目	科目ナンバリングコード	M-06	科目名	口腔病理学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	遊佐淳子・山崎幹子
場 所	基礎医学研究棟4階 口腔病理学大学院研究室・口腔病理学第2研究室				

1. 科目の概要

口腔病理学では、形態学的手技を習得するとともに、実験病理学的研究の方法と病理組織診断の基礎を学ぶ。

2. 一般目標

病理組織標本の作製技術、実験病理学的手技および病理組織診断に必要な外科病理学的知識を身に付ける。

3. 到達目標

- 1) 凍結切片とパラフィン切片を作製できる。
- 2) ヘマトキシリン・エオジン染色を実施できる。
- 3) 免疫染色を行うことができる。
- 4) 動物実験を立案できる。
- 5) 奥羽大学附属病院から提出された病理検査材料の病理組織所見を英語で記載できる。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、病理学研究のための基本的な手技を習得することであるので、ディプロマポリシーの1と2に関連する。

5. 授業方法

- 1) 講義：教科書・論文により病理学研究のための手技、実験病理学的方法および診断病理学に関する知識を習得する。
- 2) 実習：標本作製、動物実験実施および病理検査報告書の作製を行って、諸技術を習得する。
- 3) その他：
 - (1) 成果発表：定期的に研究成果を指導教員に報告する。
 - (2) 抄読会：病理学分野で行う抄読会に参加し、最新の論文を紹介する。
 - (3) 学会参加：口腔病理学会に参加し、最新の知見を見聞する。

6. 成績評価の方法

成果発表(70%)、病理検査報告書の記述(15%)および抄読会での発表(15%)により評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

指定された教科書の授業該当頁を事前に読み、疑問点がある場合はそれを整理しておくこと(30分間)。

8. 教科書・参考書

教科書：Neville BW et al. : Oral and maxillofacial Pathology, 4th ed. ELSEVIER, St.Louis, 2016.

参考書：Marx RE, Stern RE. : Oral and maxillofacial Pathology, 2nd ed. Quintessence Publishing Chicago, 2012.

9. 履修上の注意事項

具体的な症例に基づく講義の際は守秘義務を厳守し、資料の取扱いは教員の指示に従うこと。

10. 英語による授業

授業はすべて日本語で行う。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

宛先：口腔病理学専攻 遊佐淳子准教授
j-yusa@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

講義担当教員に質問などがある場合、メールでも対応することは可能である。

科目の種類	専攻科目	科目ナンバリングコード	M-07	科目名	口腔感染症学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	清浦有祐・玉井利代子
場 所	基礎医学研究棟 5 階 口腔感染免疫学大学院生研究室・口腔感染免疫学第 1 研究室				

1. 科目の概要

口腔感染症学では、感染を起こす微生物の病原因子と宿主の免疫応答を分子レベルで解明する。具体的には微生物の侵入に対する宿主応答のメカニズムを最新の分子免疫学の研究手法を使用して詳細に明らかにする。

2. 一般目標

国際的に通用する高度な口腔感染症学研究を行うために、研究に必要な高度な専門知識と最新の実験テクニックと研究課題に取り組む能力を身に着ける。

3. 到達目標

- 1) 病原微生物を取扱う高いレベルの複雑な実験系を立案する。
- 2) 病原微生物の侵入メカニズムを分子レベルで説明する。
- 3) 免疫担当細胞の細胞内シグナル伝達の分子メカニズムを説明する。
- 4) サイトカインネットワークについて分子レベルで説明する。
- 5) In vivo 及び in vitro の感染モデルを説明する。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、高度な口腔感染症学研究を行うために、研究に必要な高度な専門知識と最新の実験テクニックと研究課題に取り組む能力を身に着けることなので、ディプロマポリシーの 1 に関連する。

5. 授業方法

- 1) 講義：指定した参考書及び国際的な学術雑誌に掲載された論文のコピーを使用して、感染症学の最新の知識を修得する。
- 2) 実習：感染症学の研究に必要な実験テクニックを実習によって修得する。
- 3) その他：感染症学関連の学会への参加及び発表を行う。

6. 成績評価の方法

学位研究に関する研究計画書とそれに対する質疑応答を含めて評価する(70%)と共に学位研究の進展状況で評価する(30%)。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

講義及び実習の際は、それに関連する参考書及び学術雑誌掲載論文を事前に読み、疑問点がある場合はそれを整理する(30分間)。

8. 教科書・参考書

教科書：適宜論文や資料を配布する。

参考書：分子細胞免疫学 第 9 版 エルゼビア・ジャパン 2018 年
標準微生物学 第 14 版 医学書院 2021 年

9. 履修上の注意事項

講義で使用した参考書・論文のコピーをさらにコピーしたり、電子化することは禁ずる。やむを得ない理由で欠席や遅刻をする際は事前にメールで連絡すること。

10. 英語による授業

原則として日本語で行うが、外国人留学生がいる場合は英語を使用する場合がある。

11. 履修登録について

必修科目のため、履修登録は不要である。

12. 備考

担当教員への連絡は原則として電子メールで行うこと。質問もメールで行うことは可能である。

科目の種類	専門カリキュラム	科目ナンバリングコード	M-08	科目名	歯科薬理学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	柴田達也・長岡正博
場 所	基礎医学研究棟3階 歯科薬理学研究室				

1. 科目の概要

近年、既存薬物の適応症の広がりが目覚ましく、その発生毒性を再解析する重要性が高まっている。本科目では、薬物の発生毒性を解析するための研究手技を修得すると同時に、妊娠初期における適切な薬物療法について考究する。

2. 一般目標

薬物の発生毒性を解析するための研究手技、並びに、研究課題に主体的に取り組む姿勢を修得する。

3. 到達目標

- 1) 胎児の発生過程と、先天異常を引き起こす環境因子に対する感受性との関係を説明できる。
- 2) 薬物の発生毒性を解析するための発生生物学的手法を説明できる。
- 3) 独自の作業仮説を構築できる。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、薬物の発生毒性の解析法を修得すると同時に、研究課題に主体的に取り組む姿勢を修得することなので、ディプロマポリシーの1および2に関連する。

5. 授業方法

- 1) 講義：参考書や、国内・国外の論文コピーを使用し、薬物の発生毒性についての基礎的知識を学修するとともに、最新の知見を吸収する。
- 2) 実習：発生毒性を解析するために必要な、発生生物学の実験テクニックを修得する。
- 3) その他：歯科基礎医学会、日本薬理学会などの学会に積極的に参加し、最新の知見を吸収する。

6. 成績評価の方法

日常の研究成果をまとめて年度末に提出する研究成果報告書(70%)と次年度のための研究計画書(30%)により評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

項目8に挙げる参考書や、自らがこれまでの学修で使用した成書を事前に読み、自らが興味のある薬物の発生毒性について、薬物候補をリストアップしておくこと(60分)。

8. 教科書・参考書

教科書：なし（適宜、論文コピー等の資料を配布する）
参考書：ラングマン人体発生学 第12版
メディカルサイエンスインターナショナル
2024年

9. 履修上の注意事項

講義で使用した資料のコピー及び電子化は禁ずる。また、やむを得ない理由で遅刻・欠席をする場合は、事前に講義担当教員にメールでその旨を伝えること。

10. 英語による授業

授業は日本語を原則とするが、受講者に外国人留学生がいる場合は、英文レジュメ等を配布の上、英語での研究成果報告書等の提出を認める。

11. 履修登録について

必須科目のため、履修登録は不要。

12. 備考

担当教員への連絡は原則としてメールで行うこと。質問もメールで行うことは可能である。

科目の種類	専攻科目	科目ナンバリングコード	M-09	科目名	放射線診断学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	川原一郎・臼田真浩
場 所	附属病院棟1階 放射線科大学院研究室・放射線科外来				

1. 科目の概要

放射線診断をより正確に行うための診断理論の発展、診断装置の開発を行うためには、放射線の物理的・生物学的性質をはじめ、診断装置の画像形成原理の理解と、さらに臨床における画像診断を通して、画像診断装置の性質や限界も理解しておかなければならない。ここでは各画像診断装置の撮影原理や画像形成原理、またそれぞれの被曝線量についても学ぶ。

2. 一般目標

歯科医学の発展を担う大学院生に必要な放射線診断学に関する学識を高めるために、放射線画像診断に関する原理、撮影技術、診断学、被曝線量および防護方法について、最新の知識を習得する。

3. 到達目標

- 1) デジタルエックス線装置の原理を説明する。
- 2) CTの原理を説明する。
- 3) CBCTの原理を説明する。
- 4) CTの画像処理を行う。
- 5) 画像処理理論を説明する。
- 6) 画像診断理論を説明する。
- 7) エックス線画像検査の被曝線量を説明する。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、放射線診断学に関する専門知識および技能の習得なのでディプロマポリシーの1に関連する。

5. 授業方法

- 1) 論文・参考書の事前配布
- 2) 一講義および見学
- 3) インストラクターの下でのCT撮影・画像処理の実践

6. 成績評価の方法

撮影・画像処理実習(50%)講義・実習終了後にレポート(50%)

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

事前配布の論文を読み、論点を整理しておくこと(60分間)。

8. 教科書・参考書

必要な資料を適宜配布する。

9. 履修上の注意事項

やむを得ない理由で遅刻・欠席をする場合は、事前に講義担当教員にメールでその旨を伝えること。

10. 英語による授業

授業はすべて日本語で行う。

11. 履修登録について

必修科目のため、履修登録は不要。

12. 備考

講義担当教員に質問などがある場合、メールでも対応することは可能である。

科目の種類	専攻科目	科目ナンバリングコード	M-10	科目名	顎口腔外科学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	高田 訓・金 秀樹
場 所	附属病院5階 顎口腔外科学大学院研究室・口腔外科学研究室				

1. 科目の概要

顎口腔領域に生じる各種疾患を正しく診断し、外科療法を主体とした適切な治療法を行うために必要な生物学的知識、人体の解剖学的知識、口腔の生理学的機能や病理学的変化を学修する。また、治療学の最先端をリサーチし手技を学ぶ。

2. 一般目標

最先端の知識と高度な技術をもって顎口腔領域の疾患に対するために、動物を用いて研究し、治療手技を修得する。

3. 到達目標

- 1) 顎口腔領域の疾患を理解する。
- 2) 顎口腔領域の機能を理解する。
- 3) 再建・機能回復に必要な知識を理解する。
- 4) 実験動物や実験材料を用いて治療に必要な手技を修得する。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、疾患の診断と治療を実験的に修得することなので、ディプロマ・ポリシーの「1」に関連する。

5. 授業方法

研究室および動物実験施設での講義・実験を通じてデータを蓄積する。
研究結果を学会発表することで、業績作成を学ぶ。

6. 成績評価の方法

研究成果報告書(70%)と次年度のための研究計画書(30%)をもって評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

実験を行うための事前準備には1週間以上の時間を要する。
学会発表の事前準備のための学会参加は3回／年以上必要である。

8. 教科書・参考書

必要な教科書・参考書は適宜準備するが、常に最新の学術論文を参考にする。

9. 履修上の注意事項

守秘義務を厳守し、研究者としての教養・社会性・倫理観を常に持ち続けるよう努力する。

10. 英語による授業

授業は日本語で行うが、英文論文を講義資料として用いた場合は英語による討論を行う場合がある。

11. 履修登録について

必修科目のため、履修登録は不要

12. 備考

メール対応可能である。

科目の種類	専攻科目	科目ナンバリングコード	M-11	科目名	口腔保健学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	南 健太郎・小林美智代
場 所	基礎医学研究棟5階 口腔衛生学大学院研究室				

1. 科目の概要

口腔保健学では、口腔疾患の予防対策立案のための基礎研究と、歯科医療を安全に社会に供給するための歯科医療管理との両面からのアプローチを行なう。

2. 一般目標

口腔疾患の予防のための宿主・寄生体要因を検索するための高度な知識と研究手技を修得する。
歯科医療を取り巻く社会情勢について関連法令を引用しながら検討する。

3. 到達目標

- 1) 細菌培養及び動物細胞培養を行える。
- 2) 細胞挙動を分子生物学的手法で解析できる。
- 3) 歯科医療に関連する法令の詳細を説明できる。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、専攻分野における高度な専門知識と技能を修得することなのでディプロマポリシーの1に関連する。

5. 授業方法

- 1) 講義 視覚投影媒体を用いた講義で学ぶ。
- 2) 実習 研究室の実技で行う。
- 3) 討論 テーマにより討論を行う。

6. 成績評価の方法

講義・演習に関するレポート(70%)と討論(30%)により評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

事前に指定された学術論文を読み、論点や疑問点を整理して記述しておくこと(40分)。

8. 教科書・参考書

Molecular Cloning : A Laboratory Manual, Fourth Edition (3-Volume Set)

9. 履修上の注意事項

講義で使用した資料の取り扱いは教員の指示に従うこと。視覚投影媒体で映写された画像の撮影を禁止する。

10. 英語による授業

原則として日本語で行なうが、外国人留学生が居る場合は英語を使用する場合がある。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。
宛先：口腔保健学専攻

12. 備考

メール対応可能である。

科目の種類	専攻科目	科目ナンバリングコード	M-12	科目名	生体材料・医用工学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	石田喜紀・齋藤龍一
場 所	基礎棟3階 歯科理工学研究室				

1. 科目の概要

生体材料の基礎的な性質を理解し、歯科領域へのどのように反映されているかを理解する。

2. 一般目標

生体材料の研究領域で必要とされる知識と研究を遂行する能力を習得する。

3. 到達目標

- 1) 研究用機器により各種実験のデータを収集することができる。
- 2) 収集したデータを分析し、考察することができる。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、生体材料の高度な知識の習得なので、ディプロマポリシーの3に関連する。

5. 授業方法

- 1) 参考図書や研究論文などについて講義形式で検討、解説する。
- 2) 実験用、分析用器械を用いて実習形式で実演、体験する。

6. 成績評価の方法

実習の進捗状況(50%)と提出するレポート(50%)で評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

- 1) 指定された教科書の授業該当頁を事前に読み、疑問点がある場合はそれを整理する(30分間)。
- 2) 事前配布の参考図書、論文を読み、論点を整理する(30分間)。

8. 教科書・参考書

適宜論文や資料を配布する。

9. 履修上の注意事項

- (1) 具体的な症例に基づく講義の際は守秘義務を厳守し、資料の取扱いは教員の指示に従うこと。講義後に資料を回収することもある。
- (2) 講義で使用了資料のコピー及び電子化は禁ずる。
- (3) やむを得ない理由で遅刻・欠席をする場合は、事前に講義担当教員にメールでその旨を伝えること。

10. 英語による授業

原則として日本語で行うが、外国人留学生がいる場合は英語を使用する場合がある。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

宛先：生体材料・医用工学 石田喜紀
y-ishida@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

担当教員への連絡は原則としてメールで行うこと。質問もメールで行うことは可能である。

科目の種類	専攻科目	科目ナンバリングコード	M-13	科目名	保存修復学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	山田嘉重・菊井徹哉
場 所	附属病院棟2階 歯科保存学研究室・大学院研究室				

1. 科目の概要

歯の硬組織疾患とその治療法の研究に必要な①臨床工学、②修復術式、③臨床成績評価方法について解説する。

2. 一般目標

高度な歯の保存治療法研究のために、硬組織の修復方法に関する研究に必要な専門知識と最新の研究手法・分析方法を身に付け、発展的な研究に取り組める能力を習得させる。

3. 到達目標

- 1) 歯の硬組織修復について説明する。
- 2) 歯質接着に関する物理化学的な過程を説明する。
- 3) 硬組織修復におけるレーザー光応用に関する物理化学的過程を説明する。
- 4) 最新の硬組織修復について説明する。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、歯の硬組織疾患の修復を様々な術式・修復材料を用いて検討することなので、ディプロマシーの1に関連する。

5. 授業方法

- 1) 事前に講義範囲を指定するので、参考書及び関連文献を熟読しておくこと。
- 2) 講義の際は討論を頻繁に行い双方性の講義を行うことを前提とする。
- 3) 講義後にはレポートの提出を求める。

6. 成績評価の方法

提出されたレポート(70%)と関連事項を含むレポートの内容についての討論(30%)で評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

講義の際は、それに関連する参考書及び学術雑誌掲載論文を事前に読んでおくこと(1時間)。

8. 教科書・参考書

教科書：保存修復学 21 第5版（永末書店）
保存修復学 クリニカルガイド 第2版
（医歯薬出版）

参考書：接着歯学 第2版（日本接着歯学会）
また必要時には適宜、関連論文や資料を配布する。

9. 履修上の注意事項

講義で使用した参考書・論文のコピーをさらにコピーしたり、電子化することは禁ずる。やむおえない理由で欠席や遅刻をする際は事前にメールで連絡すること。

10. 英語による授業

原則として日本語で行うが、外国人留学生がいる場合は英語を使用する場合がある。

11. 履修登録について

必修科目のため、履修登録は不要

12. 備考

担当教員への連絡は原則として電子メールで行うこと。質問もメールで行うことは可能である。

科目の種類	専攻科目	科目ナンバリングコード	M-14	科目名	咬合機能修復学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	羽鳥弘毅・富士岳志
場 所	奥羽大学歯学部附属病院棟3階 歯科補綴学大学院研究室				

1. 科目の概要

咬合機能修復学では、クラウンブリッジ補綴学に関する基本的な知識・技能・態度を習得した後、咬合に関連する口腔解剖学や口腔生理学的見地から解明することや、歯科材料の特性を理工学的見地から明らかにすることにある。

2. 一般目標

歯科医学の発展に繋がる研究を行うために咬合機能修復学に関する専門知識と技能および研究課題に取り組む能力を身につける。

3. 到達目標

- 1) クラウンブリッジの治療計画を立案できる。
- 2) 歯科材料の特徴を説明できる。
- 3) 咬合に関連した顎運動機能を説明できる。
- 4) 顎堤粘膜の正常像ならびに異常像を説明できる。
- 5) CAD/CAM装置について説明できる。
- 6) 実験方法などの立案ができる。

4. 学位授与の方針との関連

本科目では、クラウンブリッジの臨床上の問題点およびそれらに対する研究手法に関する知識を修得することを目標としているため、ディプロマポリシーの1、2に関連する。

5. 授業方法

- 1) 講義：教科書・学位論文を用いてクラウンブリッジの最新の知識を学ぶ、
- 2) 実習：臨床実習により最新の技能を学び、さらに実験に必要なテクニックを学ぶ、

6. 成績評価の方法

レポートとしての報告書(50%)と診療計画もしくは実験計画の立案書(50%)により評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

なし

8. 教科書・参考書

教科書：クラウンブリッジ補綴学 第6版 医歯薬出版 2021年
参考書：クラウンブリッジテクニック 第2版 医歯薬出版 2017年

9. 履修上の注意事項

やむを得ない理由で遅刻・欠席とする場合は、事前に講義担当教員にメールでその旨を伝える。

10. 英語による授業

原則として日本語で行うが、外国人学生がいる場合は英語を使用する場合がある。

11. 履修登録について

必修科目のため、履修登録は不要である。

12. 備考

担当教員への連絡は原則としてメール行うこと。質問などメールで行うことは可能である。
羽鳥弘毅 k-hatori@den.ohu-u.ac.jp
富士岳志 t-fuji@den.ohu-u.ac.jp

科目の種類	専攻科目	科目ナンバリングコード	M-15	科目名	総合診療歯科学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	鈴木史彦・北條健太郎
場 所	附属病院棟5階総合診療歯科学研究室				

1. 科目の概要

総合診療歯科学では、総合診療が必要な歯科疾患と全身の関わりについて、疫学的手法を用いて解明する。特に、高齢者におけるオーラルフレイルや摂食嚥下障害と、全身機能との関係について、多変量解析を用いて詳細を考究する。

2. 一般目標

歯科疾患と全身機能との関係を解析するための研究の手法と、研究課題に主体的に取り組む姿勢を修得する。

3. 到達目標

- 1) 歯科疾患と全身機能との関係に関して、エビデンスの高い先行研究を収集する。
- 2) 先行研究ではまだ解明されていない疑問点の解明に必要な仮説を構築する。
- 3) 統計ソフトの使用方法を習得する。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、総合診療が必要な歯科と全身との関わりについて高度な疫学的解明を行うために、研究に必要な専門知識、研究に必要な解析能力、および研究者に必要な倫理観の涵養を行うことなので、ディプロマポリシーの1、2、3に関連する。

5. 授業方法

- 1) 講義：専門書、学術雑誌に掲載された論文などを使用して到達目標に関連する最新の知識を習得する。
- 2) 実習：到達目標達成に必要なテクニックを実習により習得する。
- 3) その他：
 - (1) 研究セミナー：総合診療歯科学で開催するセミナーに参加する。
 - (2) 症例検討会：担当患者において、総合診療が必要な患者の問題点抽出と治療計画立案を指導医と協議する。
 - (3) 学会参加：関連学会に積極的に参加・発表する。

6. 成績評価の方法

日常の研究成果を纏めて年度末に提出す研究成果報告書(70%)と次年度のための研究計画書(30%)の2つによって評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

事前配布資料あるいは学術雑誌の抄録・論文を読み、論点を整理しておくこと(60分)。

8. 教科書・参考書

教科書：なし

参考書：よくわかる高齢者歯科学 第2版 永末書店
 老年歯科医学 第2版 医歯薬出版
 歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学 医歯薬出版

9. 履修上の注意事項

具体的な症例に基づく講義の際は守秘義務を厳守し、資料の取り扱いには教員の指示に従うこと。講義で利用した参考書・論文のコピーをさらにコピーすることや、電子化することは禁ずる。やむを得ない理由で欠席をする場合は、事前に講義担当者にメールで連絡すること。

10. 英語による授業

授業はすべて日本語で行う。
 授業は日本語を原則とするが、英語論文を講義論文として用いた場合に英語による討論を行う場合がある。
 受講者に外国人留学生いる場合は、英語による講義を行う場合がある。

11. 履修登録について

履修を希望する大学院生は、下記宛にメールにて連絡すること。

宛先：総合診療歯科学専攻 鈴木史彦教授
 f-suzuki@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

講義担当教員に質問などがある場合、メールでも対応することは可能である。

科目の種類	専攻科目	科目ナンバリングコード	M-16	科目名	口腔組織構造生物学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	安部仁晴・荒木啓吾
場 所	基礎医学研究棟4階 口腔組織学大学院生研究室・口腔組織学第1研究室				

1. 科目の概要

口腔組織構造生物学では、歯をはじめとして口腔周囲器官の微細構造とそれぞれの機能発現に不可欠な因子を探求し、解析する。具体的には形態学的手法を学び修得することにより、口腔組織の構造と機能との関連性を解明する。

2. 一般目標

口腔組織の微細構造とそれぞれの機能を理解するために、形態学的手法を修得し、研究課題に取り組む能力を修得する。

3. 到達目標

- 1) 形態学的観察法について説明する。
- 2) 口腔組織の微細構造について説明する。
- 3) フリーラジカルについて説明する。
- 4) 研究計画を立案し、実施する。
- 5) 研究成果をまとめ、学会発表する。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、研究活動を実施するための基盤となる知識を理解し実施することなので、ディプロマポリシー2に関連する。

5. 授業方法

- 1) 講義：論文や資料を用いて、口腔組織の微細構造とフリーラジカルの関連性などを説明する。
- 2) 実習：形態学的手法（切片作製と各種染色）について説明し、自ら実施する。
- 3) その他：研究成果をまとめ、各学会にて発表する。

6. 成績評価の方法

研究成果をまとめて年度末に提出する研究成果報告書(70%)と次年度研究計画書(30%)で評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

授業の際は、事前に配布された資料・論文を事前に読み、論点を整理しておくこと(60分間)。

8. 教科書・参考書

適宜、必要な資料を配布する。

9. 履修上の注意事項

授業で使用した参考書・論文のコピーをさらにコピーしたり、電子化することは禁ずる。

10. 英語による授業

原則として日本語で行うが、外国人留学生がいる場合は英語を使用する場合がある。

11. 履修登録について

必修科目のため、履修登録は不要。

12. 備考

担当教員への連絡や質問は、直接行うこと（メールで行うことも可能）。

宛先 口腔組織構造生物学 安部仁晴教授
k-ambe@den.ohu-u.ac.jp

科目の種類	専攻科目	科目ナンバリングコード	M-17	科目名	小児歯科学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	島村和宏・神庭優衣
場 所	附属病院棟3階 成長発育歯学講座1研究室 附属病院棟2階 矯正・小児歯科診療室				

1. 科目の概要

小児歯科学では、小児の口腔領域の健全な発育・健康管理ならびに歯科診療全般を担うことから、小児の成長は付き、口腔の発育変化に関わる知識と理論、および歯科診療に関わる知識と技能を習得する。また研究に必要な研究機器の取り扱いや研究手法についても学ぶ。

2. 一般目標

小児歯科学の研究に必要な小児の成長発育、歯・歯列咬合、顎顔面頭蓋の成長発育の知識、理論を習得する。乳歯・幼若永久歯の歯科治療全般についての知識、理論を習得する。小児の口腔疾患に対する診断力を身につける。また研究に必要な専門知識と研究の手法、実験の手法等を習得する。

3. 到達目標

- 1) 小児の成長発育（歯列・咬合を含む）について説明できる。
- 2) 乳歯・幼若永久歯の歯科治療について説明できる。
- 3) エックス線写真等を診断し、治療計画が立案できる。
- 4) 乳歯・永久歯の外傷の診断と処置ができる。
- 5) 心身障害児の歯科治療・口腔管理ができる。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、小児歯科学の研究に必要な小児の成長発育、歯・歯列咬合、乳歯・幼若永久歯の歯科治療全般の知識の習得と疾患に対する診断力を身につけ、また研究に必要な専門知識と手法、実験の手法等を習得することなので、ディプロマポリシーの1, 2, 3に関連する。

5. 授業方法

- 1) 講義：適宜配布する資料や論文をもとに、小児歯科学全般の知識を深めるとともに、最新の知識を学ぶ。
- 2) 実習：小児歯科治療の基本的技術の習得と、障害児を含む小児の歯科的対応法・治療を習得する。
- 3) その他：小児歯科学会他、関連する学会に参加する。

6. 成績評価の方法

講義・実習で行ったことあるいは学会参加に関する討論、レポート、口頭試問（70%）、実習成果（患者・模型実習、計画立案など）（30%）を総合して評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

事前配布資料あるいは学術雑誌の抄録・論文を読み、疑問点を整理する。（60分）

8. 教科書・参考書

教科書：適宜必要な資料を配布する。
参考書：小児歯科学ベーシックテキスト 第3版
永末書店 2023

9. 履修上の注意事項

具体的な症例に基づく講義の際は守秘義務を厳守し、資料の取扱いは教員の指示に従うこと。講義後に資料を回収することもある。講義で使用した資料のコピー及び電子化は禁ずる。やむを得ない理由で遅刻・欠席をする場合は、事前に講義担当教員にメールでその旨を伝えること。

10. 英語による授業

授業はすべて日本語で行う。

11. 履修登録について

必修科目のため、履修登録は不要

12. 備考

講義担当者への質問などは、メールでも対応可能である。

科目の種類	専攻科目	科目ナンバリングコード	M-18	科目名	歯内・歯周療法学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	高橋慶壮・佐藤穂子
場 所	病院棟2階 歯科保存学研究室2				

1. 科目の概要

近年の歯内療法分野での機器の改良や開発、新材料の導入はめざましく、最新の知識を取り入れながら歯内療法に関する診査、診断、処置、予防を確実に学び、研究するための技術を習得する必要がある。
歯周病学の研究および臨床の発展の歴史を学び、将来的な展望を考察する。さらに関連する最新の情報と術式について高度な知識および技能、研究を進めるための計画の立案、実験手技の習得を図る。

2. 一般目標

高度な歯学研究を行うために、歯内療法学の研究で必要とされる高度で先進的な専門的知識・技能や研究課題に取り組む能力を修得する。
歯周病学分野における研究を継続的に実行するための論文読解能力、問題解決型思考能力、全方位的な柔軟な思考能力、実験計画の立案および論文の作成能力を修得する。

3. 到達目標

- 1) レーザーの歯科保存領域への応用について説明する。
- 2) ニッケル・チタンファイルの根管形成への応用について説明する。
- 3) フォトダイナミックセラピー(PDT)の歯内療法領域への応用について説明する。
- 4) 歯周病学における臨床研究を立案する。
- 5) 歯周病学における細胞生物学および分子生物学的研究方法を説明する。
- 6) 骨増大術に関する動物実験を説明する。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、高度な専門的知識を修得する、研究活動の遂行に必要な能力を修得することなので、ディプロマポリシーの1と2に関連する。

5. 授業方法

- 1) 講義：指定した教科書と国際的な学術雑誌に掲載された論文のコピーなどを使用して、歯内療法学と歯周病学の最新の知識を修得する。
- 2) 実習：歯内療法学と歯周病学の研究に必要な実験テクニックを修得する。
- 3) その他：研究：歯内療法学と歯周病学に関する研究を指導教員と綿密な連携をとって行う。研究セミナーへの参加：定期的の実験成果の報告を行うと共に国際誌掲載論文の紹介を行うことで研究能力を高める。学会参加：日本歯科保存学会、日本歯内療学会、日本歯周病学会、国際歯科研究学会に積極的に参加する。

6. 成績評価の方法

日常の研究成果をまとめて年度末に提出する研究成果報告書(70%)と次年度のための研究計画書(30%)の2つによって評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

指定された教科書、参考書の授業該当頁を事前に読み、論点を整理して、疑問点がある場合はそれを整理しておくこと(1時間)。

8. 教科書・参考書

教科書：Pathways of the pulp 第11版
Mosby Elsevier 2016年

参考書：考えるペリオドンティクスー病因論と臨床推論から導かれる歯周治療ー クイんテッセンス
出版 2018年

9. 履修上の注意事項

やむを得ない理由で欠席や遅刻をする際には事前にメールで連絡をすること。

10. 英語による授業

原則として日本語で行うが、外国人留学生がいる場合には英語を使用する場合がある。

11. 履修登録について

必修科目のため、履修登録は不要である。

12. 備考

- ・講義担当教員に質問がある場合、メールでも対応することは可能である。
- ・症例検討会、学会に参加希望の場合、その旨を講義担当教員に申し出れば考慮する。

科目の種類	コア・カリキュラム	科目ナンバリングコード	C-01	科目名	病原微生物実験法
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①清浦有祐 ②玉井利代子
場 所	基礎医学研究棟5階 口腔感染免疫学大学院生研究室・口腔感染免疫学第1研究室				

1. 科目の概要

病原微生物を用いた実験では、微生物の誤った取扱いを行った場合は重篤な感染を実験者のみならず周囲の人々に引き起こす場合がある。そのため、病原微生物の取扱いに関しては、他の生命科学の実験以上に正しい理論と細かい実験技術が要求される。そのため、講義と実習によって病原微生物の正しい取扱いと感染防止の技術についても学ぶ。

2. 一般目標

大学院生としての学識を高めるために病原微生物学実験法の正しい理論と実験技術を修得する。

3. 到達目標

- (1)病原微生物の性状の概略を説明する。
- (2)バイオハザードについて説明する。
- (3)病原性細菌の取扱い方を説明する。
- (4)病原性真菌の取扱い方を説明する。
- (5)In vitro と in vivo における感染実験を説明する。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は病原微生物の正しい取扱いと感染防止の技術についても学ぶので、ディプロマポリシーの2に関連する。

5. 授業方法

- 1)事前に実験マニュアルを配布するので、熟読しておくこと。
- 2)講義のみでなく実習も行うことで病原微生物の取扱い方を修得できるようにする。
- 3)プロトコルに基づいた実習を大学院生自身で行うことで、実験技術を修得する。

6. 成績評価の方法

提出されたレポート(70%)とそのレポートに関する口頭試問(30%)で評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

講義及び実習の際は、授業内容に関連する参考書及び学術雑誌掲載論文を事前に読んでおくこと(30分間)。

8. 教科書・参考書

教科書：適宜論文や資料を配布する。
参考書：戸田新細 標準微生物学 第14版
医学書院 2021年

9. 履修上の注意事項

講義で使用した参考書・論文のコピーをさらにコピーしたり、電子化することは禁ずる。やむを得ない理由で欠席や遅刻をする際は事前にメールで連絡すること。

10. 英語による授業

原則として日本語で行うが、外国人留学生がいる場合は英語を使用する場合がある。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。
宛先：口腔感染症学専攻
清浦有祐教授 y-kiyoura@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

担当教員への連絡は原則として電子メールで行うこと。質問もメールで行うことは可能である。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	6月4日	病原微生物の性状	病原微生物の性状について	①
2	6月4日	バイオハザード	バイオハザードについて	①
3	6月11日	病原性細菌	病原性細菌の取扱い方について	②
4	6月11日	病原性真菌	病原性真菌の取扱い方について	②
5	6月18日	感染実験	In vitro と in vivo の感染実験について	①

科目の種類	コア・カリキュラム	科目ナンバリングコード	C-02	科目名	統計処理の基礎
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①山崎信也
場 所	病院棟5階 歯科麻酔学研究室				

1. 科目の概要

研究にはデータが必要であり、そのデータは統計しなければ生きてこない。すなわち、統計学は、研究を立案、解析、分析し理論的に考察や結論を導くために必須の学問であり、この講義でその基本的な理論を理解する。

2. 一般目標

研究におけるデータおよび研究内容を適切に解析して把握する能力を身につけるために必須である統計学および統計処理の基礎を理解する。

3. 到達目標

- 1) データ型としての対応ありと対応なしを理解する。
- 2) データ型としてのパラメトリックとノンパラメトリックを理解する。
- 3) 比較統計法の種類と適応を理解する。
- 4) 多重比較検定の種類と目的を理解する。
- 5) カイ二乗検定の原理と適応を理解する。
- 6) 相関と回帰分析を理解する。
- 7) データ代表値とデータ分布表示の使い分けを理解する。
- 8) 実際に自由度、帰無仮説、過誤率を理解する。
- 9) 両側検定と片側検定を理解する。
- 10) グラフ表示やデータマネジメントを理解する。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、研究活動の遂行に必要な能力と教養を身につけることなので、ディプロマポリシーの2、3に関連する。

5. 授業方法

- 1) 教科書をベースに進め、統計処理の基礎について理解する。

6. 成績評価の方法

講義中の討論の内容(20%)と各自の発表データ(80%)によって評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

指定された教科書の授業該当頁を事前に読み、疑問点がある場合はそれを整理しておくこと(30分間)。事前配布の論文を読み、論点を整理しておくこと(60分間)

8. 教科書・参考書

教科書：なるほど統計学とおどろき Excel 統計処理 第8版 医学図書出版 2017

参考書：その他の統計学書、また、適宜論文や資料を配布する

9. 履修上の注意事項

具体的な症例に基づく講義の際は守秘義務を厳守し、資料の取扱いは教員の指示に従うこと。講義後に資料を回収することもある。
講義で使用した資料のコピー及び電子化は禁ずる。
やむを得ない理由で遅刻・欠席をする場合は、事前に講義担当教員にメールでその旨を伝えること。

10. 英語による授業

授業はすべて日本語で行うが、統計ソフトは全て英語で構成されている。
授業は日本語を原則とするが、英文論文を講義資料として用いた場合に英語による討論を行う場合がある。
受講者に外国人留学生がいる場合は、英語による講義を行う場合がある。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

宛先：口腔生理・生化学 山崎信也教授
s-yamazaki@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

講義担当教員に質問などがある場合、メールでも対応することは可能である。
症例検討会・ジャーナルクラブに参加希望の場合、その旨を講義担当教員に申し出れば考慮する。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	4月23日	インフォメーション	インフォメーションを行う	①
2	5月14日	汎用比較統計	教科書 P8-29	①
3	5月21日	その他の比較統計 P30-51	教科書 P8-29	①
4	5月28日	統計に関する基本的事項 P52-63	教科書 P52-63	①
5	6月4日	データマネジメント P64-75	教科書 P64-75	①
6	6月11日	統計処理の実際	教科書 P76-	①
7	6月18日	統計処理の実際	教科書 P76-	①

科目の種類	コア・カリキュラム	科目ナンバリングコード	C-03	科目名	統計処理の演習
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①山崎信也
場 所	病院棟5階 歯科麻酔学研究室				

1. 科目の概要

研究にはデータが必要であり、そのデータは統計しなければ生きてこない。すなわち、統計学は、研究を立案、解析、分析し理論的に考察や結論を導くために必須の学問であり、この演習で実際に生のデータや模擬データなどをあつかい統計処理を実践する。

2. 一般目標

研究におけるデータおよび研究内容を適切に解析して把握する能力を身につけるために必須である統計学および統計処理の演習を体験する。

3. 到達目標

- 1) データ型としての対応ありと対応なしにおいて統計処理を実践する。
- 2) データ型としてのパラメトリックとノンパラメトリックにおいて統計処理を実践する。
- 3) 比較統計法の種類と適応の選択を実践する。
- 4) 多重比較検定の統計処理を実践する。
- 5) カイ二乗検定の統計処理を実践する。
- 6) 相関と回帰分析の統計処理を実践する。
- 7) データ代表値とデータ分布表示の使い分けを実践する。
- 8) 実際に自由度、帰無仮説、過誤率を用いた統計処理を実践する。
- 9) 両側検定と片側検定を使い分けた統計処理を実践する。
- 10) グラフ表示やデータマネジメントを適切に行う。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、研究活動の遂行に必要な能力と教養を身につけることなので、ディプロマポリシーの2, 3に関連する。

5. 授業方法

- 1) 模倣データや実際のデータを使用して、各種統計処理を実践し発表会を行い討論する。

6. 成績評価の方法

講義中の討論の内容(20%)と各自の発表データ(80%)によって評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

指定された教科書の授業該当頁を事前に読み、疑問点がある場合はそれを整理しておくこと(30分間)。事前配布の論文を読み、論点を整理しておくこと(60分間)

8. 教科書・参考書

教科書：なるほど統計学とおどろき Excel 統計処理 第8版 医学図書出版 2017

参考書：その他の統計学書、また、適宜論文や資料を配布する

9. 履修上の注意事項

具体的な症例に基づく講義の際は守秘義務を厳守し、資料の取扱いは教員の指示に従うこと。講義後に資料を回収することもある。
講義で使用した資料のコピー及び電子化は禁ずる。
やむを得ない理由で遅刻・欠席をする場合は、事前に講義担当教員にメールでその旨を伝えること。

10. 英語による授業

授業はすべて日本語で行うが、統計ソフトは全て英語で構成されている。

授業は日本語を原則とするが、英文論文を講義資料として用いた場合に英語による討論を行う場合がある。

受講者に外国人留学生がいる場合は、英語による講義を行う場合がある。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

宛先：口腔生理・生化学 山崎信也教授

s-yamazaki@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

講義担当教員に質問などがある場合、メールでも対応することは可能である。

症例検討会・ジャーナルクラブに参加希望の場合、その旨を講義担当教員に申し出れば考慮する。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	6月25日	実際または模擬統計研究発表	実際または模擬的な統計研究発表を院生にしてもらい討論する	①
2	7月2日	実際または模擬統計研究発表	実際または模擬的な統計研究発表を院生にしてもらい討論する	①
3	7月9日	実際または模擬統計研究発表	実際または模擬的な統計研究発表を院生にしてもらい討論する	①
4	7月16日	実際または模擬統計研究発表	実際または模擬的な統計研究発表を院生にしてもらい討論する	①
5	7月22日	実際または模擬統計研究発表	実際または模擬的な統計研究発表を院生にしてもらい討論する	①
6	7月30日	実際または模擬統計研究発表	実際または模擬的な統計研究発表を院生にしてもらい討論する	①
7	8月6日	実際または模擬統計研究発表	実際または模擬的な統計研究発表を院生にしてもらい討論する	①
8	8月20日	実際または模擬統計研究発表	実際または模擬的な統計研究発表を院生にしてもらい討論する	①

科目の種類	コア・カリキュラム	科目ナンバリングコード	C-04	科目名	形態学的研究手法
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①安部仁晴
場 所	基礎医学研究棟4階 口腔組織学大学院生研究室・口腔組織学第1研究室				

1. 科目の概要

研究活動では、形態学的データを用いる場合が多く、近年その手法は目覚ましく発展してきている。本科目では、様々な形態学的手法を学び、研究計画の立案とその実行のために必要な方法を選択し、適確な実験を実施できるようにする。

2. 一般目標

形態学的手法を理解し、研究活動に必要な方法を選択、適確な実験手技を修得する。

3. 到達目標

- 1) 形態学的観察法について説明する。
- 2) 観察法に応じた試料作製法について説明する。
- 3) 各種染色法の特徴と差異について説明する。
- 4) 研究活動に応じた形態学的手法を選択する。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、研究活動を実施するための基盤となる知識を理解し実施することなので、ディプロマポリシー2に関連する。

5. 授業方法

- 1) 配布した資料内容に沿った授業を行う。
- 2) 授業中に教員と大学院生間及び大学院生間の討議を行う。
- 3) 指定した課題に関するレポートを作成し、それに関する討議を行う。

6. 成績評価の方法

提出されたレポート(50%)とレポートに基づく討論(50%)で評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

授業の際は、事前に配布された資料を事前に読み、疑問点を整理しておくこと(20分間)。

8. 教科書・参考書

適宜、必要な資料を配布する。

9. 履修上の注意事項

授業で使用した資料・論文のコピーをさらにコピーしたり、電子化することは禁ずる。やむを得ない理由で欠席や遅刻をする際には事前にメールで連絡すること。

10. 英語による授業

原則として日本語で行うが、外国人留学生がいる場合は英語を使用する場合がある。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

宛先：口腔組織構造生物学専攻 安部仁晴教授
k-ambe@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

担当教員への連絡は原則としてメールで行うこと。質問もメールで行うことは可能である。

13. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授業内容	担当
1	4月15日	観察方法	各形態学的観察法の概説	①
2	4月22日	試料作製法	固定法と切片作製法	①
3	5月13日	染色法 (1)	H-E 染色と種々の染色法	①
4	5月20日	染色法 (2)	免疫組織化学的染色と in situ hybridization 法	①
5	5月27日	考 察	研究の発展と研究手法の選択	①

科目の種類	専攻科目	科目ナンバリングコード	C-05	科目名	頭頸部の臨床解剖学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①宇佐美晶信
場 所	解剖棟 大学院生研究室				

1. 科目の概要

頭頸部の解剖学（骨学、脈管学、筋学、神経学、口腔内臓学）について総合的に理解する。

2. 一般目標

頭頸部の構造の三次元的な理解とともに、肉眼解剖学手技ならびに研究課題に取り組む能力を習得する。

3. 到達目標

- 1) 頭頸部の構造を三次元的に理解することができる。
- 2) 骨の内部構造を三次元的に評価ができる。

4. 学位授与の方針との関連

解剖学的知識の理解と技術の修得を目標としているので、ディプロマポリシーの1に関連する。

5. 授業方法

- 1) 講義：系統解剖学的に人体の構造を理解する。
- 2) 実習：局所解剖学的に三次元的な人体の構造を理解するとともに、肉眼解剖学的手技を習得する。

6. 成績評価の方法

提出されたレポート(50%)とレポートに基づく討論(50%)で評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

事前に配布される教科書および研究論文の授業当該部位を事前に読んで、知識を整理しておく(30分間)。

8. 教科書・参考書

教科書：なし

参考書：口腔解剖学 1～5 アナトーム社 2001年

9. 履修上の注意事項

講義で使用した参考書・論文のコピーをさらにコピーしたり、電子化することは禁ずる。やむを得ない理由で欠席や遅刻をする際には事前にメールで連絡すること。

10. 英語による授業

授業はすべて日本語でおこなう。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

宛先：口腔機能解剖学専攻 宇佐美晶信
a-usami@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

担当教員への連絡は原則としてメールで行うこと。質問もメールで行うことは可能である。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	4月15日	頭頸部の骨学 1	頭頸部の骨	①
2	4月22日	頭頸部の骨学 2	無歯顎顎骨の特徴	①
3	5月13日	頭頸部の脈管学	局所解剖 1	①
4	5月20日	頭頸部の神経学	局所解剖 2	①
5	5月27日	頭頸部の臨床解剖	三次元的画像診断	①

科目の種類	コア・カリキュラム	科目ナンバリングコード	C-06	科目名	分子腫瘍生物学
対象年次	1・2年次			担当者	①前田豊信
場 所	口腔生化学研究室				

1. 科目の概要

がん細胞の増殖機構や転移機構について、分子レベルでの理解を深める。

2. 一般目標

がん研究における分子生物学の視点から説明できる。

3. 到達目標

- 1) 細胞増殖制御機構とその破綻によるがん化機構を説明できる。
- 2) がん転移の分子機構について説明できる。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、論理的思考を養うのでディプロマポリシーの2に関連する。

5. 授業方法

新たな解釈の契機となった重要な論文を読み、これまでの定説と異なる点とその影響について教員が中心となって議論する。

6. 成績評価の方法

授業中の討論(100%)

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

配布資料に記載されている専門用語（日本語・英語）について調べておく(30分)。

8. 教科書・参考書

適宜論文を配布する。

9. 履修上の注意事項

討論に積極的に参加すること。

10. 英語による授業

授業はすべて日本語で行うが、受講者に外国人留学生がいる場合は、英語による講義を行う場合がある。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

宛先：口腔生理生化学専攻 前田豊信
t-maeda@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

メールによる質問にも対応する。抄読会に参加希望の場合、その旨を講義担当教員に申し出れば考慮する。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	6月3日	がんの多様性	がん細胞における代謝と表現形の多様性について	①
2	6月10日	がんの代謝 (1)	ワールブルグ効果	①
3	6月17日	がんの代謝 (2)	グルタミン代謝	①
4	6月24日	がんの増殖機構	主な細胞内シグナル	①
5	7月1日	がんの転移機構	マトリックスメタロプロテアーゼの種類と活性化機序	①

科目の種類	コア・カリキュラム	科目ナンバリングコード	C-07	科目名	薬物療法学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①柴田達也
場 所	基礎医学研究棟3階 歯科薬理学研究室				

1. 科目の概要

全身疾患ならびに歯科疾患の治療に際して行われる薬物療法を学ぶ。

2. 一般目標

全身疾患を有する患者の歯科診療を安全に行うために、処方されている薬物に関する知識を修得する。また歯科診療で用いられる薬物が全身に及ぼす影響を理解する。

3. 到達目標

- 1) 必要な医薬品情報を収集できる。
- 2) 骨粗鬆症治療薬ならびに抗血栓薬を処方されている患者の歯科診療における留意点を説明できる。
- 3) 歯科診療で処方される機会が多い抗菌薬と抗炎症薬の特徴を説明できる。

4. 学位授与の方針との関連

医薬品に関する情報収集と薬物療法に関する専門的知識の修得を目標とするので、ディプロマ・ポリシーの1に関連する。

5. 授業方法

初回の医薬品情報の収集は実際にWEBでいくつかの薬物の医薬品添付文書やインタビューフォームにアクセスする。2回目以降は初回にダウンロードした資料に加えてポジションペーパー、診療ガイドラインなどを用いて講義を行う。

6. 成績評価の方法

講義中の質疑応答や口頭試問(100%)で評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

初回にダウンロードした資料を事前に読んでおく(30分)。

8. 教科書・参考書

教科書：なし

参考書：今日の治療薬 2024 南江堂 2024

9. 履修上の注意事項

やむを得ない理由で欠席・遅刻する場合は、事前に講義担当教員にメールで連絡すること。

10. 英語による授業

授業は原則として日本語で行う。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

宛先：歯科薬理学 柴田達也
t-shibata@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

担当教員への連絡は原則としてメールで行うこと。質問もメールで行うことは可能である。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	6月25日	医薬品情報の収集	医薬品添付文書、インタビューフォームなどの活用	①
2	6月25日	骨粗鬆症治療薬	薬剤関連顎骨壊死をめぐる問題	①
3	7月2日	抗血栓薬	観血的な歯科治療との関係	①
4	7月2日	抗菌薬	適正使用と有害事象	①
5	7月19日	抗炎症薬	酸性非ステロイド性抗炎症薬、解熱鎮痛薬、副腎皮質ステロイド薬	①

科目の種類	コア・カリキュラム	科目ナンバリングコード	C-08	科目名	感染・免疫学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①清浦有祐 ②玉井利代子
場 所	基礎医学研究棟5階 口腔感染免疫学大学院生研究室・口腔感染免疫学第1研究室				

1. 科目の概要

病原微生物の感染とそれに対する宿主の免疫応答を起こす分子メカニズムを理解する。まず、病原微生物の形態学的・生理学的特徴を学ぶ。そして、それに対する宿主の免疫応答を最新の分子免疫学の研究成果を交えて講義する。

2. 一般目標

大学院生としての学識を高めるために病原微生物の感染と宿主の免疫システムに関する最新の知識を修得する。

3. 到達目標

- (1)病原微生物について説明する。
- (2)感染の起こるメカニズムを分子レベルで説明する。
- (3)免疫担当細胞の機能について分子レベルで説明する。
- (4)自然免疫について分子レベルで説明する。
- (5)獲得免疫について分子レベルで説明する。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、病原微生物の感染と宿主の免疫応答を起こす分子メカニズムを理解することなので、ディプロマポリシーの2に関連する。

5. 授業方法

- 1)事前に講義範囲を指定するので参考書及び関連文献を熟読しておくこと。
- 2)講義の際は討論を頻繁に行うことで双方性の講義となるようにする。
- 3)講義後にレポートの提出を求める。

6. 成績評価の方法

提出されたレポート(70%)と講義中の討論(30%)で評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

講義及び実習の際は、授業内容に関連する参考書及び学術雑誌掲載論文を事前に読んでおくこと(30分間)。

8. 教科書・参考書

教科書：適宜論文や資料を配布する。
参考書：分子細胞免疫学 第9版 エルゼビア・ジャパン 2018年 標準微生物学 第14版 医学書院 2021年

9. 履修上の注意事項

講義で使用した参考書・論文のコピーをさらにコピーしたり、電子化することは禁ずる。やむを得ない理由で欠席や遅刻をする際は事前にメールで連絡すること。

10. 英語による授業

原則として日本語で行うが、外国人留学生がいる場合は英語を使用する場合がある。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。
宛先：口腔感染症学専攻 清浦有祐教授
y-kiyoura@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

担当教員への連絡は原則として電子メールで行うこと。質問もメールで行うことは可能である。

13. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授業内容	担当
1	9月1日	病原微生物	病原微生物について	①
2	9月8日	感染の起こるメカニズム	感染の起こるメカニズムについて	①
3	9月22日	免疫担当細胞	免疫担当細胞の機能について	①
4	9月29日	自然免疫	自然免疫について	②
5	10月6日	獲得免疫	獲得免疫についての講義	②

科目の種類	コア・カリキュラム	科目ナンバリングコード	C-09	科目名	病因・病態学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①遊佐淳子
場 所	基礎医学研究棟4階 口腔病理学第2研究室				

1. 科目の概要

奥羽大学付属病院から提出された病理検査材料を題材とし、病因・病態について口頭試問形式で講義を進めていく。

2. 一般目標

病理検査材料の病因病態についての知識を習得する。

3. 到達目標

奥羽大学病院病理検査材料の病因・病態について説明できる。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、専門分野における高度な専門知識と技能を習得することなので、ディプロマポリシーの1に関連する。

5. 授業方法

- 1) 病理検査依頼書を読む。
- 2) 病理検査標本を観察する。
- 3) 観察した症例の病因・病態について担当教員が口頭試問を行う。

6. 成績評価の方法

口頭試問(100%)により評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

指定された参考書を事前に読み、疑問点がある場合はそれを整理しておくこと(60分間)。

8. 教科書・参考書

教科書】なし。必要な資料を適宜配布する。

参考書：WHO Classification of Head and Neck Tumors
WHO A. K. El-Naggar, J. R. Grandies, T. Takata,
P. J. Slootweg

9. 履修上の注意事項

具体的な症例に基づく講義なので守秘義務を厳守し、資料の取扱いは教員の指示に従うこと。講義後に資料を回収する。

10. 英語による授業

授業はすべて日本語で行う。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

宛先：口腔病理学専攻 遊佐淳子
j-yusa@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

担当教員への連絡は原則としてメールで行うこと。質問もメールで行うことは可能である。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	6月19日	病因・病態	口腔疾患の病因・病態について	①

科目の種類	コア・カリキュラム	科目ナンバリングコード	C-10	科目名	生体材料応用学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①石田喜紀
場 所	基礎棟3階 歯科理工学研究室				

1. 科目の概要

生体材料の基礎的な性質を理解し、歯科領域へのどのように反映されているかを理解する。

2. 一般目標

生体材料の研究領域で必要とされる知識と研究を遂行する能力を習得する。

3. 到達目標

- 1) 研究用機器により各種実験のデータを収集することができる。
- 2) 収集したデータを分析し、考察することができる。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、生体材料の高度な知識の習得なので、ディプロマポリシーの3に関連する。

5. 授業方法

- 1) 参考図書や研究論文などについて講義形式で検討、解説する。
- 2) 実験用、分析用器械を用いて実習形式で実演、体験する。

6. 成績評価の方法

実習の進捗状況(50%)と提出するレポート(50%)で評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

- (1) 指定された教科書の授業該当頁を事前に読み、疑問点がある場合はそれを整理する(30分間)。
- (2) 事前配布の参考図書、論文を読み、論点を整理する(30分間)。

8. 教科書・参考書

適宜論文や資料を配布する。

9. 履修上の注意事項

- (1) 具体的な症例に基づく講義の際は守秘義務を厳守し、資料の取扱いは教員の指示に従うこと。講義後に資料を回収することもある。
- (2) 講義で使用した資料のコピー及び電子化は禁ずる。
- (3) やむを得ない理由で遅刻・欠席をする場合は、事前に講義担当教員にメールでその旨を伝えること。

10. 英語による授業

原則として日本語で行うが、外国人留学生がいる場合は英語を使用する場合がある。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

宛先：生体材料・医用工学 石田喜紀
y-ishida@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

担当教員への連絡は原則としてメールで行うこと。質問もメールで行うことは可能である。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	9月4日	歯科材料の接着性	被着体と接着材料の結合するメカニズムについて	①
2	9月4日	接着試験1	被着体の作製	①
3	9月11日	接着試験2	接着試料の作製	①
4	9月11日	接着試験3	接着試験	①
5	9月18日	データの考察	実験条件の違いが及ぼす影響について検討する	①

科目の種類	コア・カリキュラム	科目ナンバリングコード	C-11	科目名	感覚・運動生理学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①山崎信也
場 所	基礎医学棟1階 実習室				

1. 科目の概要

口腔領域の生理機能の研究を通して、健康とQOLの増進に寄与することを目的とし、特に咀嚼・嚥下における神経と筋肉の生理学的な機能関係を総合的に解析する。

2. 一般目標

口腔諸器官およびこれを制御する神経系の生理学的機能を理解する。また、生理機能を研究する上で、必要な実験手技を理解するとともに、研究上の問題を発見し、解析する研究意識を習得する。

3. 到達目標

- 1) 研究方法について、実験手技とそこから得られる情報について推論する。
- 2) 個々の研究課題に必要な研究方法や実験手技について説明できる。
- 3) 研究結果から得られる情報をもとに議論を展開でき、関連した研究課題に対しても考察できる。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、専攻科目における専門知識と研究手法の修得と、研究者としての教養、社会性、倫理観を身に付けることなので、ディプロマポリシーの1および3に関連する。

5. 授業方法

実習は指導教員の指示に従い、以下の項目について学習する。

- 1) 研究の基礎的方法論と実験手技の修得
- 2) 実験データの収集と解析の修得
- 3) 実験データの提示と発表能力の修得
- 4) 研究の展開と探求心の修得

6. 成績評価の方法

提出されたレポートで評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

指定された教科書の授業該当ページを事前に読み、疑問がある時にはそれを整理しておくこと。必要時間約30分。事前配布の論文を読み、論点をまとめておくこと。必要時間約60分。

8. 教科書・参考書

必要な場合には、適宜、論文や資料を配布する。

9. 履修上の注意事項

講義で使用した資料のコピーや電子化は禁ずる。使用した資料の内容によっては講義後に回収する場合もある。

10. 英語による授業

授業は原則的に日本語で行うが、英語論文を講義資料として用いる時には、英語による討論を行うことがある。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

宛先：口腔生理学分野 山崎信也教授
s-yamazaki@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

講義担当教員に質問や意見がある場合には、メールで対応することは可能である。

13. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授業内容	担当
1	9月2日	感覚・運動生理学①	感覚の種類と受容器	① ②
2	9月9日	感覚・運動生理学②	刺激強度と受容器の応答との関係	① ②
3	9月16日	感覚・運動生理学③	痛覚の特徴	① ②
4	9月30日	感覚・運動生理学④	下降性痛覚抑制系について	① ②
5	10月7日	感覚・運動生理学⑤	口腔の体性感覚の特徴	① ②

科目の種類	コア・カリキュラム	科目ナンバリングコード	C-12	科目名	顎関節症のエックス線学的研究と根拠
対象年次	【一般】1・2年次			担当者	①川原一郎
場 所	講義棟 研修室1（人数や担当者によって変更）				

1. 科目の概要

顎関節症は歯科の三大疾患に挙げられ、その成因も微細な領域までの検索がなされつつある。この科目では本疾患の診断・治療に必要な画像診断の立場からアプローチし、最新の画像診断技術も加味しながら形態的特徴や機能的適応との関連を精査して治療に結びつけるエビデンス(根拠)を検討する。

2. 一般目標

顎関節症に関する詳細な研究をするために、必要な基礎的および臨床的知識を習得する。

3. 到達目標

- 1) 顎関節症の特徴を説明する。
- 2) 顎関節症による口腔機能への影響について説明する。
- 3) 顎関節症の画像診断を説明する。
- 4) 顎関節症の治療とその根拠を説明する。
- 5) 画像処理理論を説明する。
- 6) 画像診断理論を説明する。
- 7) エックス線画像検査の被曝線量を説明する。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、顎関節症診断に関する専門知識および技能の習得なのでディプロマポリシーの1に関連する。

5. 授業方法

論文の事前配布とこれに関する講義説明。

6. 成績評価の方法

講義担当者との討論(50%)
講義終了後にレポート(50%)

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

事前配布の論文を読み、論点を整理しておくこと(60分間)。

8. 教科書・参考書

必要な資料を適宜配布する。

9. 履修上の注意事項

やむを得ない理由で遅刻・欠席をする場合は、事前に講義担当教員にメールでその旨を伝えること。

10. 英語による授業

授業はすべて日本語で行う。

11. 履修登録について

講義担当教員に質問などがある場合、メールでも対応することは可能である。
宛先：放射線診断学専攻 川原一郎教授

12. 備考

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	4月16日	顎関節疾患	顎関節疾患の概要について	①
2	4月16日	顎関節症	顎関節症の概要について	①
3	4月23日	顎関節の画像検査	顎関節の画像検査について	①
4	4月23日	顎関節症の診断基準	顎関節症の診断基準について	①
5	5月7日	顎関節症診断の最新動向	顎関節症診断の最新動向について	①

科目の種類	コア・カリキュラム	科目ナンバリングコード	C-13	科目名	研究の進め方
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①清浦有祐
場 所	基礎医学研究棟5階 口腔感染免疫学大学院生研究室・口腔感染免疫学第1研究室				

1. 科目の概要

研究活動を開始するにあたり、研究とはいかなるものかを理解する。そして、研究計画の立案とその実行のために必要な研究倫理と研究不正防止及び臨床研究の倫理指針等に関する知識を学び実践できるようにする。

2. 一般目標

研究計画の立案とそれを実行して学位論文を作成するための基盤となる知識を理解する。

3. 到達目標

- 1) 研究倫理と研究不正防止について説明する。
- 2) 臨床研究の倫理指針について説明する。
- 3) 研究計画の立案の仕方を説明する。
- 4) 研究計画に基づく研究の進め方を説明する。
- 5) 論文の作成方法について説明する。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、学位論文を作成するための基盤となる知識を理解することなので、ディプロマポリシーの2に関連する。

5. 授業方法

- 1) 指定した教科書の内容に沿った授業を行う。
- 2) 教員の説明後に教員と大学院生間及び大学院生間の討議を行う。
- 3) 指定した課題に関するレポートを作成し、それに関する討議を行う。
- 4) 研究倫理に関するセミナーを受講する。
- 5) 研究倫理に関するeラーニングを受講する。

6. 成績評価の方法

提出されたレポート(70%)とレポートに基づく討論(30%)で評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

授業の際は、教科書及び関連する参考書・資料を事前に読んでおくこと(30分間)。

8. 教科書・参考書

教科書：科学の健全な発展のために
～誠実な科学者の心得～丸善出版 2015年
文部科学省・厚生労働省などの政府機関から研究倫理に関する通達

参考書：なぜあなたの研究は進まないのか
メディカルレビュー社 2016年
なぜ臨床医なのに研究するのか？
中外医学社 2017年

9. 履修上の注意事項

講義で使用した参考書・論文のコピーをさらにコピーしたり、電子化することは禁ずる。やむを得ない理由で欠席や遅刻をする際には事前にメールで連絡すること。

10. 英語による授業

原則として日本語で行うが、外国人留学生がいる場合は英語を使用する場合がある。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。
宛先：口腔感染症学専攻 清浦有祐教授
y-kiyoura@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

担当教員への連絡は原則としてメールで行うこと。質問もメールで行うことは可能である。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	6月3日 (4月17日)	歯科医学研究	歯科医学研究の概略について	①
2	6月10日 (4月17日)	研究倫理	研究倫理とは何か・なぜ必要なのか	①
3	6月17日 (4月24日)	研究不正	研究不正とは何か・どのように防止するか	①
4	6月24日 (4月24日)	研究計画	研究計画の立案とその進め方	①
5	7月1日 (5月8日)	論文の作成	論文とは何か・どのようにして作成するか	①

() は社会人カリキュラム

科目の種類	コア・カリキュラム	科目ナンバリングコード	C-14	科目名	摂食嚥下
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①鈴木史彦
場 所	講義棟 研修室1				

1. 科目の概要

摂食嚥下障害は重症化すると誤嚥性肺炎や低栄養をきたし、高齢者にとっては死亡の原因にもなる。したがって摂食嚥下機能を適切に評価することが重要となってくる。本科目は摂食嚥下障害に対して、歯科医師としてどのように関わるのかを学習する。

2. 一般目標

摂食嚥下リハビリテーションを実施するために必要な知識と診断能力を習得する。

3. 到達目標

- 1) 摂食嚥下のプロセスモデルを理解する。
- 2) 摂食嚥下障害の評価方法を理解する。
- 3) 誤嚥性肺炎予防のための口腔ケアを理解する。
- 4) 摂食嚥下障害への対応法を理解する。
- 5) 低栄養への対応法を理解する。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、摂食嚥下リハビリテーションに関する知識と診断能力の習得なのでディプロマポリシーの3に関連する。

5. 授業方法

スライドと講義資料を用いて到達目標に関するの要点、症例、および関連論文について解説し、教員の説明後に教員と大学院生間及び大学院生間の討議を行う。

6. 成績評価の方法

提出されたレポート(100%)で評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

指定された参考書の授業該当頁を事前に読み、疑問点がある場合はそれを整理しておくこと(30分間)。

8. 教科書・参考書

教科書：指定はないが、講義資料を配布する。
参考書：摂食嚥下リハビリテーション 第3版
医歯薬 出版

9. 履修上の注意事項

- (1) 講義で使用した資料のコピー及び電子化は禁ずる。
- (2) やむを得ない理由で遅刻・欠席をする場合は、事前に講義担当教員にメールでその旨を伝えること。

10. 英語による授業

受講者に外国人留学生がいる場合は、英語による講義を行う場合がある。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

宛先：総合診療歯科学専攻 鈴木史彦 教授
f-suzuki@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

講義担当教員に質問などがある場合、メールでも対応することは可能である。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	11月27日	摂食嚥下モデル	5期モデルとプロセスモデル	①
2	11月27日	スクリーニング検査と精密検査	改定水飲みテスト、嚥下造影、嚥下内視鏡検査等	①
3	12月4日	口腔ケア	口腔ケアと誤嚥性肺炎予防	①
4	12月4日	リハビリテーションと支援	治療的アプローチと代償的アプローチ	①
5	12月11日	食事形態と代替栄養	嚥下調整食と経管栄養	①

科目の種類	専門カリキュラム	科目ナンバリングコード	B-01	科目名	病理診断のための顕微鏡学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①遊佐淳子
場 所	基礎医学研究棟4階 口腔病理学第2研究室、電顕鏡体室				

1. 科目の概要

病理組織診断では免疫染色標本を通常の光学顕微鏡のほか蛍光顕微鏡や共焦点レーザー顕微鏡使用することがしばしばある。そこで、本講義では通常光学顕微鏡と蛍光顕微鏡および共焦点レーザー顕微鏡の構造と光学的結像原理を学習する。

2. 一般目標

光学顕微鏡、蛍光顕微鏡および共焦点レーザー顕微鏡についての知識を習得する。

3. 到達目標

- 1) 蛍光顕微鏡の構造と結像原理を説明できる。
- 2) 共焦点レーザー顕微鏡の構造と結像原理を説明できる。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、光学顕微鏡、蛍光顕微鏡と共焦点レーザー顕微鏡それぞれの構造と結像原理を説明できることであるのでディプロマポリシーの1と2に関連する。

5. 授業方法

人体の病変組織から作製された試料を光学顕微鏡、蛍光顕微鏡と共焦点レーザー顕微鏡で観察することにより、それぞれの顕微鏡の構造と結像原理を学ぶ。

6. 成績評価の方法

講義中の口頭試問に(100%)より評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

指定された教科書の授業該当頁を事前に読み、疑問点がある場合はそれを整理しておくこと(30分間)。

8. 教科書・参考書

教科書：ライフサイエンス顕微鏡学ハンドブック
山科正平、高田邦昭編 朝倉書店 2018年

9. 履修上の注意事項

具体的な症例に基づく講義の際は守秘義務を厳守し、顕微鏡の取扱いは教員の指示に従うこと。

10. 英語による授業

授業はすべて日本語で行う。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

宛先：口腔病理学専攻 遊佐淳子
j-yusa@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

講義担当教員に質問などがある場合、メールでも対応することは可能である。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	4月14日	光学顕微鏡	光学顕微鏡の構造と結像原理を学ぶ	①
2	4月21日	蛍光顕微鏡	蛍光顕微鏡の構造と結像原理を学ぶ	①
3	4月28日	共焦点顕微鏡	共焦点レーザー顕微鏡の構造と結像原理を学ぶ	①

科目の種類	専門カリキュラム	科目ナンバリングコード	B-02	科目名	細胞培養と器官培養の実際
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①荒木啓吾
場 所	基礎医学研究棟4階 口腔組織学大学院生研究室				

1. 科目の概要

近年の医学・歯科領域における研究の遂行にあたっては細胞培養はかせないものとなっている。一方、専用の設備が必要であることなどの特殊性から実際に接する機会も少ないのが現状で、細胞培養に実際や詳細についての知識を得、経験できる機会を有することが重要であると考えられている。そこで本カリキュラムでは細胞培養を実際を知ることで知識、技術として研究・利用法を学ぶ。

2. 一般目標

細胞培養の特徴および主要な培養系でなされる研究の現状について学ぶことにより、大学院での研究に応用できる知識を習得する。

3. 到達目標

- 1) 細胞・器官培養の手技を説明する。
- 2) 細胞の種類と培養環境の差異について説明する。
- 3) 近年の細胞培養を用いた研究、成果および応用性を説明する。

4. 学位授与の方針との関連

研究を遂行する上で、また優れた発表・論文の作製に細胞培養に実際や詳細についての知識を得、経験できる機会を有することが重要であり、近年の医学・歯科領域において細胞培養の知識、得られるデータは研究にかかせないものとなっている。

5. 授業方法

- 1) 講義に先立ち参考文献、資料を配布する。
- 2) 講義では資料やスライドだけではなく実際に培養をおこなっている施設を見学する。

6. 成績評価の方法

講義でのディスカッション(20%)、レポート(30%)とその添削を含めた口頭試問(50%)により評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

事前配布の論文を読み、論点を整理しておくこと(60分間)

8. 教科書・参考書

教科書は用いず、適宜論文や資料を配布する。

9. 履修上の注意事項

資料の取扱いは教員の指示に従うこと。講義後に資料を回収することもある。
講義で利用した資料のコピー及び電子化は禁ずる。
やむを得ない理由で遅刻・欠席をする場合は、事前に講義担当教員にその旨を伝えること。

10. 英語による授業

授業は日本語を原則とするが、英文論文を講義資料として用いた場合に英語による討論を行う場合がある。
受講者に外国人留学生がいる場合は、英語による講義を行う場合がある

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。
宛先：口腔組織構造生物学 荒木啓吾准教授
k-araki@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

担当教員への連絡は原則としてメールで行うこと。質問もメールで行うことは可能である。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	5月12日	細胞培養とは	細胞培養の概略について学ぶ	①
2	5月19日	細胞培養の手技	細胞培養で必要な知識・手技を学ぶ	①
3	5月26日	細胞培養の実際	細胞培養施設、様子を見学、実際に行う	①

科目の種類	専門カリキュラム	科目ナンバリングコード	B-03	科目名	実験動物学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①安部仁晴
場 所	基礎医学棟4階 第4演習室				

1. 科目の概要

動物実験に関する法令や規程等について学ぶ。

2. 一般目標

「動物の愛護及び管理に関する法律」(昭和48年法律第105号)において記載されている、動物実験の3Rについて学ぶ。

3. 到達目標

- 1) 動物実験の3Rを説明できる。
- 2) 実験動物の苦痛の軽減について説明できる。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、学位論文を作成するための基盤となる知識を理解することなので、ディプロマポリシーの2に関連する。

5. 授業方法

- 1) 指定した資料を読み、動物実験の関連法令について学ぶ。
- 2) e-learning で動物実験の実践倫理を学ぶ。
- 3) 指定資料により、実験動物の麻酔法を学ぶ。

6. 成績評価の方法

口頭試問により評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

授業の際は、教科書及び関連する参考書・資料を事前に読んでおくこと(30分間)。

8. 教科書・参考書

資料：公立私立大学実験動物施設協議会編
「実験動物管理者の教育訓練」教本

9. 履修上の注意事項

やむを得ない理由で欠席や遅刻をする際には事前にメールで連絡すること。

10. 英語による授業

原則として日本語で行うが、外国人留学生がいる場合は英語を使用する場合がある。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

宛先：口腔組織構造生物学専攻
k-ambe@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

担当教員への連絡は原則としてメールで行うこと。質問もメールで行うことは可能である。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	10月20日	動物愛護法	動物愛護法における動物実験の規程について	①
2	10月27日	動物実験の3R	動物実験の3Rについて	①

科目の種類	専門カリキュラム	科目ナンバリングコード	B-04	科目名	電気生理学の基礎と応用
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①山崎信也
場 所	基礎医学棟1階 実習室				

1. 科目の概要

電気生理学の基礎知識を習得後、実際に実習を行い、神経や筋肉の電気生理学を学ぶ。

2. 一般目標

研究課題解決の一助となる実験手技や研究方法を習得するために、実験器具や医療電子機器の取り扱いを学ぶ。

3. 到達目標

本科目の目標は、専攻科目における専門知識と研究手法の修得と、研究者としての教養、社会性、倫理観を身に付けることなので、ディプロマポリシーの1および3に関連する。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、専攻科目における専門知識と研究手法の修得と、研究者としての教養、社会性、倫理観を身に付けることなので、ディプロマポリシーの1および3に関連する。

5. 授業方法

実習は指導教員の指示に従い、以下の項目について学習する。

- 1) 研究の基礎的方法論と実験手技の修得
- 2) 実験データの収集と解析の修得
- 3) 実験データの提示と発表能力の修得
- 4) 研究の展開と探求心の修得

6. 成績評価の方法

提出されたレポートで評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

指定された教科書の授業該当ページを事前に読み、疑問がある時にはそれを整理しておくこと。必要時間約30分。事前配布の論文を読み、論点をまとめておくこと。必要時間約60分

8. 教科書・参考書

必要な場合には、適宜、論文や資料を配布する。

9. 履修上の注意事項

講義で使用した資料のコピーや電子化は禁ずる。使用した資料の内容によっては講義後に回収する場合もある。

10. 英語による授業

授業は原則的に日本語で行うが、英語論文を講義資料として用いる時には、英語による討論を行うことがある。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

宛先：口腔生理学分野 山崎信也教授
s-yamazaki@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

講義担当教員に質問や意見がある場合には、メールで対応することは可能である。

13. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授業内容	担当
1	10月15日	電気生理学の基礎と応用①	心電図(1)	①
2	10月15日	電気生理学の基礎と応用②	心電図(2)	①
3	10月22日	電気生理学の基礎と応用③	心電図(3)	①
4	10月22日	電気生理学の基礎と応用④	細胞外電解質による心筋への影響	①
5	10月29日	電気生理学の基礎と応用⑤	神経伝達物質による心筋への影響	①

科目の種類	専門カリキュラム	科目ナンバリングコード	B-05	科目名	分子口腔感染症学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①清浦有祐 ②玉井利代子
場 所	基礎医学研究棟 5 階 口腔感染免疫学大学院生研究室・口腔感染免疫学第1研究室				

1. 科目の概要

全身性炎症反応症候群(SIRS)に的を絞り、微生物感染とそれに引き続いてSIRSが発症するメカニズムを分子レベルで学ぶことで、免疫応答の詳細なメカニズムを分子レベルで理解できるようになる。

2. 一般目標

大学院生としての学識を高めるためにSIRSの発症メカニズムを分子レベルで修得する。

3. 到達目標

- 1) SIRSの全体像を説明する。
- 2) hypercytokinemia からMODSへの進行を分子レベルで説明する。
- 3) Toll-like receptor について説明する。
- 4) サイトカインのSIRS発症における役割を説明する。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、SIRSの発症メカニズムを分子レベルで修得することなので、ディプロマポリシーの2に関連する。

5. 授業方法

- 1) 事前に講義範囲を指定するので参考書及び関連文献を熟読しておくこと。
- 2) 講義の際は討論を頻繁に行うことで双方性の講義となるようにする。
- 3) 講義後にレポートの提出を求める。

6. 成績評価の方法

提出されたレポート(70%)とレポートに基づく討論(30%)で評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

講義の際は、授業内容に関連する参考書及び学術雑誌掲載論文を事前に読んでおくこと(30分間)。

8. 教科書・参考書

教科書：適宜論文や資料を配布する。

参考書：分子細胞 免疫学 第9版
エルゼビア・ジャパン 2018年
標準微生物学 第14版 医学書院 2021年

9. 履修上の注意事項

講義で使用した参考書・論文のコピーをさらにコピーしたり、電子化することは禁ずる。やむを得ない理由で欠席や遅刻をする際は事前にメールで連絡すること。

10. 英語による授業

原則として日本語で行うが、外国人留学生がいる場合は英語を使用する場合がある。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。宛先】口腔感染症学専攻 清浦有祐教授 y-kiyoura@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

担当教員への連絡は原則として電子メールで行うこと。質問もメールで行うことは可能である。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	4月17日	全身性炎症反応症候群(SIRS)	SIRSの全体像について	①
2	4月24日	高サイトカイン血症	高サイトカイン血症が起こるメカニズムについて	①
3	5月8日	SIRSによる多臓器障害(MODS)	SIRSによるMODSについて	①
4	5月15日	サイトカイン①	各サイトカインの役割について	②
5	5月22日	サイトカイン②	各サイトカインの役割について	②

科目の種類	専門カリキュラム	科目ナンバリングコード	B-06	科目名	形態病理学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①遊佐淳子
場 所	基礎医学研究棟4階 口腔病理学第2研究室				

1. 科目の概要

奥羽大学附属病院から提出された検査組織の病理組織診断を行う。

2. 一般目標

奥羽大学附属病院から提出された検査組織の病理組織診断を行い、病理検査報告書を作製できる。

3. 到達目標

病理組織所見を英語で記述した病理検査報告書を作製できる。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、病理検査報告書を作製できることであるので、ディプロマポリシーの1に関連する。

5. 授業方法

奥羽大学附属病院から提出された検査組織の標本を顕微鏡で観察し、病理検査報告書を作製する。

6. 成績評価の方法

作製した報告書に(100%)より評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

指定された参考書の授業該当頁を事前に読み、疑問点がある場合はそれを整理しておくこと(30分間)。

8. 教科書・参考書

教科書：なし

参考書：Neville BW et al.: Oral and maxillofacial Pathology, 4th ed. ELSEVIER, St.Louis, 2016.

9. 履修上の注意事項

具体的な症例に基づく講義の際は守秘義務を厳守し、組織標本の取扱いは教員の指示に従うこと。

10. 英語による授業

授業はすべて日本語で行う。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。
宛先：口腔病理学専攻 遊佐淳子
j-yusa@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

講義担当教員に質問などがある場合、メールでも対応することは可能である。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	5月14日	口腔癌	口腔癌の病理組織診断を学ぶ	①
2	5月14日	顎骨内病変	歯源性腫瘍などの顎骨内病変の病理組織診断を学ぶ	①
3	5月21日	顎骨外病変	唾液腺腫瘍などの顎骨外病変の病理組織診断を学ぶ	①

科目の種類	専門カリキュラム	科目ナンバリングコード	B-07	科目名	歯科材料学総論
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①石田喜紀
場 所	基礎医学棟 4 階 電顕共同研究施設、基礎医学棟 3 階 歯科理工学大学院生研究室				

1. 科目の概要

歯科材料の総論（機械的、物理的、化学的性質）について解説する。またEDX付き走査型電子顕微鏡を用いて歯科材料の観察、および元素分析を実際に行ない、取り扱いを習得する。

2. 一般目標

歯科材料の観察および分析を行うための実験技法を習得する。

3. 到達目標

- 1) 歯科材料の基本的性質について理解する。
- 2) 主な分析機器について理解する。
- 3) 走査型電子顕微鏡を用いて材料の表面状態を観察できる。
- 4) 分析機器を用いて材料の成分分析を行うことができる。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、歯科材料の評価方法を習得し、分析技法を習得することなのでディプロマポリシーの1および2に関連する。

5. 授業方法

- 1) 講義により歯科材料の総論、および分析機器の解説を行う。
- 2) SEMやEDXなどの機器を使用して歯科材料の観察や分析を行う。
- 3) 得られたデータに対して全員で質疑応答を行い、考察する。

6. 成績評価の方法

授業中の討論内容(20%)、実技の進行状況(30%)、データの提出および考察内容(50%)により評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

あらかじめ配布された資料を事前に読み、疑問点がある場合はそれを整理しておくこと(30分間)。

8. 教科書・参考書

必要な資料を適宜配布する。

9. 履修上の注意事項

やむを得ない理由で遅刻・欠席をする場合は、事前に講義担当教員にメールでその旨を伝えること。

10. 英語による授業

授業はすべて日本語で行う。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

宛先：歯科材料学総論専攻 石田喜紀准教授
y-ishida@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

担当教員への連絡は原則としてメールで行うこと。質問もメールで行うことは可能である。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	10月9日	歯科材料の分析(1)	歯科材料の総論と分析機器について	①
2	10月16日	歯科材料の分析(2)	SEMの理論と使用方法について	①
3	10月23日	歯科材料の分析(3)	SEMによる歯科材料の観察	①
4	10月30日	歯科材料の分析(4)	EDXの使用方法和歯科材料の分析	①
5	11月6日	歯科材料の分析(5)	SEMとEDXの分析結果について	①

科目の種類	専門カリキュラム	科目ナンバリングコード	B-08	科目名	予防歯科・疫学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①南 健太郎
場 所	講義棟 研修室1				

1. 科目の概要

地域における歯科保健活動を行なうためには、実施手法の基となる根拠（証拠）が必要であり。これを得るひとつの方法として基礎研究がある。そこで本科目では、講義者が行なった基礎研究から得られた成果を基にした歯科保健活動の実例を挙げ、より実効性のある歯科保健活動を実施できる改善策を考察することを目的に講義と討論を行う。

2. 一般目標

歯科保健活動における基礎研究の重要性を理解し、これまで行なっているさまざまな歯科保健活動の根拠を検証し改善策を立案できる基本的能力を修得する。

3. 到達目標

- 1) 地域における歯科保健ニーズの把握を行なうための手法を説明できる。
- 2) 把握した問題を解決する方策の根拠となる基礎研究の重要性を説明できる。
- 3) 基礎研究の成果を歯科保健に還元する手法の概要を説明できる。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、専攻分野における高度な専門知識と技能を修得することなのでディプロマポリシーの1に関連する。

5. 授業方法

- 1) 講義 視覚投影媒体を用いた講義で学ぶ。
- 2) 討論 テーマにより討論を行う。

6. 成績評価の方法

講義・演習に関するレポート(70%)と討論(30%)により評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

事前に指定された学術論文を読み、論点や疑問点を整理して記述しておくこと(40分)。

8. 教科書・参考書

参考書：公衆衛生がみえる メディック メディア
2022 - 2023

9. 履修上の注意事項

講義で使用した資料の取り扱いは教員の指示に従うこと。
視覚投影媒体で映写された画像の撮影を禁止する。

10. 英語による授業

原則として日本語で行なうが、外国人留学生が居る場合は英語を使用する場合がある。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

宛先：口腔保健学専攻 南 健太郎准教授
k-minami@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

なし

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	5月29日	疫学の基礎	地域における歯科保健の課題を見い出すための疫学手法について	①
2	6月5日	基礎研究と歯科保健活動との融合	基礎研究成果を反映させた歯科保健活動の例	①

科目の種類	専門カリキュラム	科目ナンバリングコード	B-09	科目名	社会歯科学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①南 健太郎
場 所	基礎医学研究棟5階 第5演習室				

1. 科目の概要

歯科医師には学問的な正しさ、法的な正当性、倫理的な正しさが求められる。医療の元となる研究活動を、倫理規定のもと、公平性および信頼性を確保し国民に提供することを目的とする。

2. 一般目標

研究活動を通じて、歯科医療についての倫理や法令を理解し、地域住民の健康や生活を確保するために必要とされる知識を習得する。

3. 到達目標

- 1) 医の倫理について説明できる。
- 2) 歯科医師法について説明できる。
- 3) 医療法について説明できる。
- 4) 研究計画を立案できる。
- 5) 歯の再石灰化について説明できる。
- 6) 齲蝕の予防について説明できる。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目的は、歯学研究者としての教養、社会性、倫理観を身に着けることなのでディプロマポリシーの3に関連する。

5. 授業方法

- 1) 講義 視覚投影媒体
- 2) 実際にウシの歯を用いての試料作製、分析を行う。
- 3) 得られたデータについて考察する。

6. 成績評価の方法

講義、演習に関するレポート(70%)と討論(30%)により評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

事前に指定された学術論文を読み、論点や疑問点を整理しておくこと。

8. 教科書・参考書

必要な資料を適宜配布する。

9. 履修上の注意事項

講義で使用した資料の取り扱いは教員の指示に従うこと。

10. 英語による授業

原則として講義は日本語で行う。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

宛先：口腔衛生学講座 南 健太郎
k-minami@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

教員に質問がある場合はメールでも対応可能である。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	4月14日	社会歯科学①	医の倫理	①
2	4月21日	社会歯科学②	歯科医師法 医療法	①
3	4月28日	齲蝕の予防	歯の再石灰化	①

科目の種類	専門カリキュラム	科目ナンバリングコード	B-10	科目名	口腔加齢現象論
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①島村和宏
場 所	附属病院棟3階 成長発育歯学講座1研究室 講義棟 研修室1				

1. 科目の概要

乳幼児・小児期から思春期を経て成人にいたる間、心身の成長発育・発達とともに口腔領域では形態・機能面で著明な発育変化を示す。また成人から壮年期を経て高齢者へと移行する時期は、口腔諸機能の変化がみられる。本科目ではこうした加齢に伴う口腔領域の発育変化について学ぶ。

2. 一般目標

小児期の口腔療育の発育変化と特徴について学ぶ。若年期（思春期）の口腔領域の発育変化について学ぶ。成人・高齢者の口腔の加齢変化について学ぶ。

3. 到達目標

- 1) 乳幼児口腔の形態・機能的発育発達について説明できる。
- 2) 無歯期から混合歯列期への変化と特徴を説明できる。
- 3) 永久歯の発育および歯周組織の発育変化を説明できる。
- 4) 顎顔面頭蓋の発育変化を説明できる。
- 5) 味覚の発達および離乳について説明できる。
- 6) 成人・高齢者の加齢に伴う口腔の変化について説明

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、加齢に伴う口腔変化の特徴に関する知識を習得することなので、ディプロマポリシーの1に関連する。

5. 授業方法

- 1) 講義：適宜配布する資料や論文をもとに、加齢に関する口腔変化の知識を深めるとともに、最新の知識を学ぶ。
- 2) 実習：適宜、模型を観察し口腔の加齢変化について理解する。
- 3) その他：相互討論を行う。

6. 成績評価の方法

講義・実習で行ったことあるいは学会に参加した場合はその内容に関するレポート(80%)、討論、口頭試問内容など(20%)を総合して評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

事前配布資料あるいは学術雑誌の抄録・論文を読み、疑問点を整理する。(60分)

8. 教科書・参考書

教科書：適宜必要な資料を配布する。
参考書：小児歯科学 ベーシックテキスト 第3版
永末書店 2023

9. 履修上の注意事項

具体的な症例に基づく講義の際は守秘義務を厳守し、資料の取扱いは教員の指示に従うこと。講義後に資料を回収することもある。講義で使用した資料のコピー及び電子化は禁ずる。やむを得ない理由で遅刻・欠席をする場合は、事前に講義担当教員にメールでその旨を伝えること。

10. 英語による授業

授業はすべて日本語で行う。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

宛先：加齢口腔科学専攻 島村和宏教授
k-shimamura@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

講義担当者への質問などは、メールでも対応可能である。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	5月15日	歯列の変化	無歯期・乳歯列期から混合歯列期の歯列咬合変化	①
2	5月15日	歯の発育と異常	歯の発育異常	①
3	5月22日	口腔機能の発達	小児期の口腔機能の発達	①
4	5月22日	口腔疾患	口腔疾患	①
5	5月29日	成人・高齢者の口腔変化	成人・高齢者の加齢に伴う口腔の変化	①

科目の種類	専門カリキュラム	科目ナンバリングコード	B-11	科目名	齲蝕治療論
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1年次			担当者	①菊井徹哉
場 所	附属病院 2 階 歯科保存学研究室 No. 5				

1. 科目の概要

齲蝕を中心とする歯の硬組織疾患の診断とその治療の研究に必要な知識の習得。①診断方法、②病変の処置方法、③欠損部の修復方法、④臨床成績の評価方法、について説明する。また、新たな治療法の開発のために材料学的研究、生物学的研究に関する説明をする。

2. 一般目標

生物学的な歯の治療方法の開発のために、硬組織の修復方法、歯髄の保護方法に関する専門知識と最新の研究手法を身に付け、発展的な研究に取り組める能力を習得させる。

3. 到達目標

- 1) 齲蝕の発生・進行について説明できる。
- 2) 齲蝕以外の歯の硬組織疾患の発生および原因を説明できる。
- 3) 歯の硬組織修復について説明できる。
- 4) 修復材料の特性を説明できる。
- 5) 修復方法について説明できる。
- 6) 修復歯の術後管理について説明できる。
- 7) 組織再生療法に関する技術を説明できる。
- 8) 医用レーザーの硬組織疾患への応用について説明できる。

4. 学位授与の方針との関連

本科目は歯の硬組織疾患に対する治療方法について材料および治療術式を検討し、新たな治療方法の開発を目標にするので、ディプロマポリシーの1と2に該当する。

5. 授業方法

講義：前期5コマ；指定した参考書および学術雑誌に掲載された論文などを用いて、最新の研究情報を収集する。
実習：歯の硬組織の研究についてその特性と手技、生物学的な評価方法を実習によって習得する。

6. 成績評価の方法

日常の研究成果報告書を年度末に提出(70%)、次年度の研究計画書の策定(30%)によって評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

講義の際は、それに関連する参考書および学術雑誌掲載論文を事前に読んでおくこと。

8. 教科書・参考書

参考書：①保存修復学21 第5版 永末書店 2017年版。
②Ten Cate 口腔組織学 第5版 医歯薬出版 2002年版。
③Hard Tissue 硬組織研究ハンドブック MON 出版 2002年版。
④接着歯学 第2版 2015年版。
⑤齲蝕治療ガイドライン 第2版 永末書店 2015年版

9. 履修上の注意事項

講義で使用した参考書および学術雑誌掲載論文のさらなる複写または電子データ化は禁止する。また、やむを得ない事情で欠席や遅刻をする場合は事前に電子メールで連絡すること。

10. 英語による授業

授業は基本的に日本語で行うが、留学生がいる場合には英語で行うことがある。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する者は、下記のメールアドレスに氏名・所属専攻科目・自身のメールアドレスを連絡すること。

宛先：保存修復学 菊井徹哉 准教授
e-mail : t-kikui@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

担当教員への連絡は原則として電子メールで行うこと。また、質問についても電子メールで受け付けます。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	5月12日	齲蝕による歯の喪失	齲蝕罹患の転換とカリオロジー	①
2	5月19日	齲蝕治療ガイドライン	歯冠歯質の修復と材料	①
3	5月26日	齲蝕治療ガイドライン	根面う蝕の評価と治療	①
4	6月2日	長寿社会における治療	根面齲蝕への対処法	①
5	6月9日	象牙質知覚過敏	象牙質・歯髄複合体の治療	①

科目の種類	専門カリキュラム	科目ナンバリングコード	B-12	科目名	口腔機能低下論
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①北條健太郎
場 所	附属病院棟5階 会議室				

1. 科目の概要

口腔機能低下論は、高齢者の口腔と心身との関係について、疫学的方法を用いて探究していく学問である。この専門カリキュラムにおいては、口腔機能低下症の定義、検査項目、ならびにフレイルとの関係についての知識を深めていく。

2. 一般目標

口腔機能低下症および、その検査法の知識・技能を修得する。

3. 到達目標

- 1) 口腔機能低下症の概念を理解する。
- 2) 口腔機能低下症とフレイルの関係性を理解する。
- 3) 口腔機能低下症と身体機能の関係を理解する。
- 4) 口腔機能低下症の検査を実施する。
- 5) 口腔機能低下症に関する今後の展望・問題点を述べる。

4. 学位授与の方針との関連

本科目は高度な専門的知識の習得を目標としているので、ディプロマポリシーの1に関連する。

5. 授業方法

- 1) 講義：教科書、学術雑誌に掲載された論文などを使用して到達目標に関連する最新の知識を習得する。
- 2) 実習：到達目標に必要な適切な検査方法を習得する。

6. 成績評価の方法

授業中の討論内容（20％）、講義後のレポート（80％）で評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

使用する教科書の該当部分に目を通しておく。事前学習時間約60分。

8. 教科書・参考書

よくわかる高齢者歯科学 第2版 永末書店 2023

9. 履修上の注意事項

講義で使用した資料の複写または電子データ化は禁止する。
また、やむを得ない事情で欠席や遅刻をする場合は事前にメールで連絡をすること。

10. 英語による授業

原則として日本語で行う。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

宛先：総合診療歯科学 北條健太郎
k-hojyo@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

講義担当教員に質問や意見がある場合には、メールで対応することは可能である。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	9月2日	口腔機能低下症の定義と検査方法	口腔機能低下症の定義と検査方法を解説。	①
2	9月9日	口腔機能低下症の検査①	口腔機能低下症の検査を経験する。	①
3	9月16日	口腔機能低下症の検査②	口腔機能低下症の検査を経験する。	①
4	9月30日	口腔機能低下症の研究①	口腔機能低下症に関する研究を解説。	①
5	10月7日	口腔機能低下症の検査方法の問題点と今後の展望	先行研究ではまだ研究されていないテーマについてディスカッション。	①

科目の種類	専門カリキュラム	科目ナンバリングコード	B-14	科目名	生体機能工学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①羽鳥弘毅 ②富士岳志
場 所	講義棟 研修室1				

1. 科目の概要

生体の知識・知見と工学上の研究・応用を関連づけて理解する。

2. 一般目標

生体の定義、生体の構造や機能における特徴、人工物と生体の違いについての基礎知識を習得する。

3. 到達目標

- 1) 生体の構造と機能、生体工学について説明できる。
- 2) 感覚情報系の構造と器官を説明できる。
- 3) 細胞や筋の構造と機能を説明できる。
- 4) 筋肉を目指すアクチュエータを説明できる。
- 5) バイマテリアルを説明できる。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、学位論文を作成するための基盤となる知識を理解することなので、ディプロマポリシーの2に関連する。

5. 授業方法

- 1) プリントならびに視覚素材を用いた講義を行う。
- 2) スモールグループディスカッションによる討論会を行う。
- 3) 生体機能工学に関する発表会を開催する。

6. 成績評価の方法

討論会・発表会の内容(50%)とレポートの内容(50%)で評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

授業の際は、参考書を事前に読んでおくこと(30分間)。

8. 教科書・参考書

参考書：生体機能工学(松丸隆文著) 東京電機大学
出版局 2008年

9. 履修上の注意事項

講義で使用した参考書・論文のコピーをさらにコピーしたり、電子化することは禁ずる。やむを得ない理由で欠席や遅刻をする際には事前にメールで連絡すること。

10. 英語による授業

原則として日本語で行うが、外国人留学生がいる場合は英語を使用する場合がある。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

宛先：口腔機能修復学専攻 羽鳥弘毅
k-hatori@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

担当教員への連絡は原則としてメールで行うこと。質問もメールで行うことは可能である。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	10月14日	生体工学	生体の構造と機能の特徴、生体工学について	①
2	10月21日	感覚情報	感覚情報系の構造、感覚情報の器官について	①
3	10月28日	細胞と筋	細胞、筋の構造・機能の解析について	②
4	11月4日	筋肉を目指すアクチュエータ	筋肉を目指すアクチュエータについて	②
5	11月11日	バイオマテリアル	バイオマテリアルについて	②

科目の種類	専門カリキュラム	科目ナンバリングコード	B-15	科目名	歯内療法学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①佐藤穂子
場 所	講義棟 研修室1				

1. 科目の概要

時代の進歩とともに、歯内療学分野においても知識や技術において刻々と変化がみられる。したがって、大学院における本講義では最新の知識を取り入れながら高度で先進的・専門的な歯内療法に関する診査、診断、処置、予防を確実に学ぶ必要がある。

2. 一般目標

大学院生としての学識を高めるため、歯内療学分野において話題になっているいくつかの項目について最新でしかも高度で先進的・専門的な知識・技能、そして態度を修得する。

3. 到達目標

- 1) レーザーの歯科保存領域への応用について説明する。
- 2) ニッケル・チタンファイルの根管形成への応用について説明する。
- 3) 最新の外科的歯内治療について説明する。
- 4) 根管治療における各ステップでの最新の考え方について説明する。
- 5) 非歯原性疾患のなかで歯内療法と関連のある疾患について説明する。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、高度な専門的知識を修得することなので、ディプロマポリシーの1に関連する。

5. 授業方法

- 1) 事前に重要な英語論文を配布するので必ず読んでおく。
- 2) 講義の際は討論を頻繁に行い、双方向性の講義となるようにする。
- 3) 予め指定した項目について発表する時間を設ける。

6. 成績評価の方法

出席(40%)と態度(課題に対する取り組みや熱意)(10%)、そして講義終了後に提出するレポート(50%)によって評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

授業の際は、配布した資料、それに関連する参考書を事前に読んでおくこと(1時間)。

8. 教科書・参考書

教科書：なし。国際的な学術雑誌に掲載され、講義内容と関連した英語論文のコピーを配布する。

参考書：Pathways of the pulp 11版 エルゼビア出版

9. 履修上の注意事項

やむを得ない理由で欠席や遅刻をする際には事前にメールで連絡をすること。

10. 英語による授業

原則として日本語で行うが、外国人留学生がいる場合には英語を使用する場合がある。なお、資料はすべて英語のものを使用する。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記のメール宛に希望する旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

歯内・歯周療法学専攻 佐藤穂子

ya-sato@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

担当教員への連絡は原則として電子メールで行うこと。質問もメールで行うことは可能である。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	6月4日	歯科用レーザー	レーザーの歯科領域への応用について	①
2	6月4日	Ni-Ti ロータリーファイル	Ni-Ti ロータリーファイルの変遷について	①
3	6月11日	外科的歯内治療	外科的歯内治療における最近の流れについて	①
4	6月11日	根管治療の潮流	最新の根管治療の変化について	①
5	6月18日	非歯原性疾患	非歯原性疾患の種類と対処法について	①

科目の種類	専門カリキュラム	科目ナンバリングコード	B-16	科目名	口腔インプラント学
対象年次	【一般】1・2年次			担当者	①羽鳥弘毅
場 所	講義棟 研修室 I				

1. 科目の概要

口腔インプラント治療に関する基礎的、臨床的事項を学習することにより、生体に調和した口腔インプラント治療のあり方とその実際を修得する科目である。

2. 一般目標

生体に調和した口腔インプラント治療を実践するために、現在における口腔インプラントの実際と問題点およびそれらに対する研究手法に関する知識を修得する。

3. 到達目標

- 1) 口腔インプラントの開発の歴史を述べる。
- 2) 口腔インプラント治療の基本的な進め方を列挙する。
- 3) 口腔インプラント治療の計画立案と液額の根拠を述べる。
- 4) メインテナンスにおける感染のコントロールを説明する。
- 5) メインテナンスにおける力のコントロールを説明する。

4. 学位授与の方針との関連

本科目では、口腔インプラントの実際と問題点およびそれらに対する研究手法に関する知識を修得することを目標としているため、ディプロマポリシーの1、2に関連する。

5. 授業方法

- 1) 講義・演習
講義と演習を通して、上記到達目標を順次実践し、一般目標に到達するまで学習する。
カリキュラムに定められた日時に、毎回90分を限度として実施する。

6. 成績評価の方法

講義・演習の出席(30%)、毎回の講義・演習内容に関するレポート(30%)、最終日に実施する口頭試問の成績(40%)により評価する、

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

なし

8. 教科書・参考書

必要に応じて文献、資料などを配布する。

9. 履修上の注意事項

やむを得ない理由で遅刻・欠席をする場合は、事前に講義担当教員にメールでその旨を伝えること。

10. 英語による授業

授業は日本語を原則とするが、英文論文を講義資料として用いた場合に英語による討論を行う場合がある。

11. 履修登録について

なし

12. 備考

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

宛先：口腔機能修復学専攻 羽鳥弘毅教授
k-hatori@den.ohu-u.ac.jp

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	6月26日	口腔インプラントの歴史的考察	口腔インプラントの歴史的考察	①
2	6月26日	口腔インプラント治療の基本的な進め方	口腔インプラント治療の基本的な進め方	①
3	7月3日	口腔インプラント治療の計画立案と疫学的根拠	口腔インプラント治療の計画立案と疫学的根拠	①
4	7月3日	メインテナンスにおける感染のコントロール	メインテナンスにおける感染のコントロール	①
5	7月10日	メインテナンスにおける力のコントロール	メインテナンスにおける力のコントロール	①

科目の種類	専門カリキュラム	科目ナンバリングコード	B-17	科目名	インプラント上部構造の科学
対象年次	【一般】1・2年次			担当者	①富士岳志
場 所	講義棟 研修室 I				

1. 科目の概要

口腔インプラント上部構造に求められる条件について種々の検討がなされている、当科目では、これらについて現在の考え加田屋研究手法を修得する。

2. 一般目標

口腔インプラント治療による機能回復を長期的に維持するために、インプラント上部構造に求められる要件およびそれらに対する研究手法に関する知識を修得する。

3. 到達目標

- 1) 口腔インプラント上部構造の種類と選択を説明する。
- 2) 口腔インプラント上部構造の適合に及ぼす印象法の影響を述べる。
- 3) 口腔インプラント上部構造の適合に及ぼすスクリー縮結の影響を述べる。
- 4) インプラントオーバーデンチャーの適用と液額の根拠を説明する。
- 5) 有限要素解析プログラムSolid Worksを用いた力学解析を実践する。

4. 学位授与の方針との関連

本科目では、インプラント上部構造に求められる要件およびそれらに対する研究手法に関する知識を修得することを目標としているため、ディプロマポリシーの1、2に関連する。

5. 授業方法

- 1) 講義・演習
講義と演習を通して、上記到達目標を順次実践し、一般目標に到達するまで学習する、カリキュラムに定められた日時に、毎回90分を限度として実施する。

6. 成績評価の方法

講義・演習の出席(30%)、毎回の講義・演習内容に関するレポート(30%)、最終日に実施する口頭試問の成績(40%)により評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

なし

8. 教科書・参考書

必要に応じて文献、資料などを配布する。

9. 履修上の注意事項

やむを得ない理由で遅刻・欠席をする場合は、事前に講義担当教員にメールでその旨を伝えること。

10. 英語による授業

授業は日本語を原則とするが、英文論文を講義資料として用いた場合に英語による討論を行う場合がある。

11. 履修登録について

なし

12. 備考

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

宛先：口腔機能回復学専攻 富士岳志准教授

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	9月3日	口腔インプラント上部構造の種類と選択	口腔インプラント上部構造の種類と選択	①
2	9月3日	口腔インプラント上部構造の適合と印象法	口腔インプラント上部構造の適合と印象法	①
3	9月10日	口腔インプラント上部構造の適合とスクリー縮結	口腔インプラント上部構造の適合とスクリー縮結	①
4	9月10日	インプラントオーバーデンチャーの適用と疫学的根拠	インプラントオーバーデンチャーの適用と疫学的根拠	①
5	9月17日	有限要素解析プログラム Solid Works を用いた力学解析	有限要素解析プログラム Solid Works を用いた力学解析	①

科目の種類	専門カリキュラム	科目ナンバリングコード	B-18	科目名	顎顔面口腔矯正学
対象年次	【一般】1・2年次			担当者	①川鍋 仁 ②山野辺晋也
場 所	附属病院棟3階 成長発育歯学講座大学院研究室				

1. 科目の概要

顎顔面口腔矯正学では、顎顔面の成長発育を学習し、最新の歯科矯正学理論に基づいて不正咬合と顎顔面携帯異常の診断学と治療学について理解する。

2. 一般目標

高度な歯学研究を行うために、歯科矯正学の研究で必要とされる高度な専門知識と最新治療技術ならびに研究課題へ取り組む能力を身に付ける。

3. 到達目標

- 1) 歯科矯正学と隣接する一般生物学・医学を説明できる。
- 2) 歯科矯正学の基礎的内容について説明できる。
- 3) 歯科矯正学の一般内容（診察・検査・診断、治療目標の設定）を説明できる。
- 4) 矯正歯科の治療技術を身につける。
- 5) 矯正歯科における健康と安全性の管理を説明できる。
- 6) 臨床マネジメントと社会への展望を説明できる。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、歯科矯正学における高度な専門知識と技能を修得する事なのでディプロマポリシーの1に関連する。

5. 授業方法

- 1) 講義：指定した参考書および国際的な学術雑誌掲載論文を利用して、歯科矯正学の最新の知識を習得する。
- 2) 実習：矯正歯科治療に必要な治療技術を模型および臨床実習によって習得する。

6. 成績評価の方法

授業中の討論の内容(20%)、講義後に提出するレポート(80%)で評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

- ・ 指定した教科書の授業該当頁を事前に読み、疑問点がある場合はそれを整理しておくこと(30分)。
- ・ 担当した患者の検査資料について分析・診断・治療方針をまとめて整理しておくこと(60分)。
- ・ 事前配布の論文を読み、論点を整理しておくこと(60分)。

8. 教科書・参考書

教科書：Contemporary Orthodontics 6ed. Elsevier
2018、歯科矯正学 第6版（医歯薬出版）

参考書：Radiographic Cephalometry: From Basics 3-D Imaging, Quintessence Pub Co; 2版(2006/8/30)
その他、適宜論文や資料を配布する。

9. 履修上の注意事項

- ・ 具体的な症例に基づく講義の際は守秘義務を厳守し、資料の取扱いは教員の指示に従うこと。講義後に資料を回収することもある。
- ・ 講義で使用した資料のコピー及び電子化は禁ずる。
- ・ やむを得ない理由で遅刻・欠席をする場合は、事前に講義担当教員にメールでその旨を伝えること。

10. 英語による授業

- ・ 授業は日本語を原則とするが、英文論文を講義資料として用いた場合に英語による討論を行う場合がある。
- ・ 受講者に外国人留学生がいる場合は、英語による講義を行う場合がある。

11. 履修登録について

必修科目のため、履修登録は不要

12. 備考

- ・ 講義担当教員に質問などがある場合、メールでも対応することは可能である。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	9月24日	心理	小児、青年、成人の心理について	①
2	9月24日	矯正歯科	矯正歯科治療の目的・意義	①
3	10月1日	診断	診察・検査及び分析結果からの歯科矯正学的診断	①
4	10月1日	機能	口腔領域の機能の発達について	②
5	10月8日	発生	頭蓋顔面部の発生	②

科目の種類	専門カリキュラム	科目ナンバリングコード	B-19	科目名	顎口腔外科学
対象年次	【一般】1・2年次			担当者	①金 秀樹
場 所	附属病院棟5階 顎口腔外科学大学院生研究室				

1. 科目の概要

顎口腔外科学では、顎骨切除後の骨欠損や萎縮した顎骨に対する骨移植や骨増生の手法とその骨増生過程を学ぶとともに、神経切断によって生じる障害に対する神経再生のための手法と評価法を学ぶ。

2. 一般目標

大学院生としての学識を高めるために、骨再生および神経再生の研究に必要な最新の知識と実験方法を習得する。

3. 到達目標

- 1) 骨の基本構造を説明する。
- 2) 骨化の機序と骨の成長様式を説明する。
- 3) 骨組織の改造現象とその調整機能を説明する。
- 4) 自家骨を含めた各種移植材の特徴と臨床応用のエビデンスを説明する。
- 5) 萎縮顎骨への骨増生術を説明する。
- 6) 神経系の発生過程を説明する。
- 7) 末梢神経の構成を説明する。
- 8) 神経の活動電位の発生とその伝播の機序を説明する。
- 9) シナプス伝達を説明する。
- 10) 神経伝達物質の機能を説明する。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は歯学研究者としての教養、社会性、倫理観を身につけることにつながるためディプロマポリシーの3に該当する。

5. 授業方法

- 1) 参考書と学術論文のコピーを配布し熟読するように指導する。
- 2) 講義の際は受講学生との討論を行い、双方向性の講義となるように努める。

6. 成績評価の方法

講義の討論内容と講義終了後に提出するレポートによって評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

受講するテーマに該当する論文を読み疑問点がある場合はあらかじめそれを整理しておくこと(60分)

8. 教科書・参考書

適宜論文や資料を配布する。

9. 履修上の注意事項

- ・講義で使用した資料のコピー及び電子化は禁ずる。
- ・具体的な症例に基づく講義の際は守秘義務を厳守し、資料の扱いは教員の指示に従うこと。

10. 英語による授業

- ・授業はすべて日本語で行う。
- ・受講者に外国人留学生がいる場合は、英語による講義を行う場合がある。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

宛先：顎口腔外科学専攻 金
h-kon@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

講義担当教員に質問などがある場合はメールでも対応することは可能である。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	9月4日	骨増生の基礎と臨床(1)	骨増生の基礎と臨床の総論(1)	①
2	9月11日	骨増生の基礎と臨床(2)	骨増生の基礎と臨床の総論(2)	①
3	9月18日	骨増生の基礎と臨床(3)	骨増生の基礎と臨床の各論(1)	①
4	9月25日	骨増生の基礎と臨床(4)	骨増生の基礎と臨床の各論(2)	①
5	10月2日	骨増生の基礎と臨床(5)	骨増生の基礎と臨床の各論(3)	①

科目の種類	専門カリキュラム	科目ナンバリングコード	B-20	科目名	総合診療歯科学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	鈴木史彦
場 所	附属病院棟5階 教授室				

1. 科目の概要

総合診療歯科学は、高齢者の口腔と心身との関係について、疫学的方法を用いて探究していく科目である。この専門カリキュラムにおいては、オーラルフレイルの概念の変遷、ならびに心身機能との関係についての知識を深めていく。

2. 一般目標

オーラルフレイルの概念と心身との関係について、疫学研究を基盤とした知識を深めることで、研究方法を修得する。

3. 到達目標

- 1) オーラルフレイルの概念の変遷を理解する。
- 2) オーラルフレイルの様々な評価方法を理解する。
- 3) オーラルフレイルと身体機能の関係を理解する。
- 4) オーラルフレイルと栄養素等の関係を理解する。
- 5) オーラルフレイルに関する今後の展望を述べる。

4. 学位授与の方針との関連

本科目は高度な専門的知識の習得を目標としているので、ディプロマポリシーの1に関連する。

5. 授業方法

講義で使用する資料(論文)は事前に配布する。
講義は対面またはオンラインにて行い、適宜ディスカッションを行う。

6. 成績評価の方法

ディスカッションの内容にいて100点満点で評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

使用する論文(総説)の該当部分に目を通しておく。事前学習時間約60分。

8. 教科書・参考書

Fumihiko Suzuki, et al. Oral frailty and systemic health including lifestyle-related diseases: a narrative review. Preventive Medicine Research. 2024; 2(2): 20-29.

9. 履修上の注意事項

オンラインで講義を実施する場合、録音・録画は禁止する。また、対面の場合は解説用スライドの写真撮影は禁止する。

10. 英語による授業

原則として日本語で行うが、外国人留学生がいる場合は英語を使用する場合がある。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。
宛先：総合診療歯科学 鈴木史彦教授
f-suzuki@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

講義担当教員に質問や意見がある場合には、メールで対応することは可能である。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	10月14日	オーラルフレイルの定義と評価方法	オーラルフレイルの定義と評価方法を解説。	①
2	10月21日	オーラルフレイルの研究①	オーラルフレイルと身体フレイルとの関係を解説。	①
3	10月28日	オーラルフレイルの研究②	オーラルフレイルと栄養素摂取や認知機能低下との関係を解説。	①
4	11月4日	オーラルフレイルの研究③	Shika study の解説。	①
5	11月11日	オーラルフレイルと今後の展望	先行研究ではまだ研究されていないテーマについてディスカッション。	①

科目の種類	専門カリキュラム	科目ナンバリングコード	B-21	科目名	放射線診断学・治療学
対象年次	【一般】1・2年次			担当者	①川原一郎
場 所	講義棟 研修室1 附属病院棟1階 放射線科（人数や担当者によって変更）				

1. 科目の概要

放射線診断・治療学のうち、特に定量診断として骨塩量の測定、骨梁構造の画像定量評価に特化して理解を深める。定量診断の意義、骨塩量の種々の定量方法、画像解析による骨梁構造の定量的評価法について学ぶ。

2. 一般目標

歯科医学の発展を担う大学院生に必要な放射線診断学に関する学識を高めるために、放射線画像診断における定量評価方法について、最新の知識・技術を習得する。

3. 到達目標

- 1) 画像診断における定量化の意義について説明する。
- 2) 骨塩量を説明する。
- 3) 骨塩量の測定原理を説明する。
- 4) 骨塩量を CT、エックス線画像から測定する。
- 5) 骨梁構造を情報工学の立場から説明する。
- 6) CT・CBCT からエックス線学的形態計測ができる。
- 7) エックス線画像検査の被曝線量を説明する。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、放射線画像診断における定量評価に関する専門知識および技能の習得なのでディプロマポリシーの1に関連する。

5. 授業方法

論文の事前配布とこれに関する講義説明。

6. 成績評価の方法

講義担当者との討論(50%) 講義終了後にレポート(50%)

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

事前配布の論文を読み、論点を整理しておくこと(60分間)。

8. 教科書・参考書

必要な資料を適宜配布する。

9. 履修上の注意事項

やむを得ない理由で遅刻・欠席をする場合は、事前に講義担当教員にメールでその旨を伝えること。

10. 英語による授業

授業はすべて日本語で行う。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

宛先：放射線診断学専攻 川原一郎教授
i-kawahara@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

講義担当教員に質問などがある場合、メールでも対応することは可能である。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	9月25日	画像診断における定量化	画像診断における定量化の概要について	①
2	9月25日	骨塩量	骨塩量の概要について	①
3	10月2日	骨塩量の測定	骨塩量測定の概要について	①
4	10月2日	骨梁構造の評価	画像工学から見た骨梁構造評価の概要について	①
5	10月9日	MR I における信号強度の変化	MR I における信号強度の変化について	①

科目の種類	専門カリキュラム	科目ナンバリングコード	B-22	科目名	生体管理の基礎と臨床
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①川合宏仁
場 所	病院棟4階 手術室、口腔外科第3、動物舎				

1. 科目の概要

生体系から可及的に低侵襲で質の良いデータを採取することは、研究にとって極めて有用であり、なかでも特に重要な、基本的な心電図、血圧、脈拍、呼吸、体温、酸素飽和度などのデータ採取方法を、実際の臨床現場や動物などで学ぶ。さらに、血液データを採取することも重要であり、実際に生体において静脈血採血や動脈血採血を行い、即座に血液データの測定解析を実践する。

2. 一般目標

生体系から良質なデータを採取し解析するために必要な、モニター操作や採血、検査の演習を体験する。

3. 到達目標

- 1) 生体または実験動物に動脈血酸素飽和度計を適切に装着し解析する。
- 2) 生体または実験動物に血圧計を適切に装着し解析する。
- 3) 生体または実験動物に心電計を適切に装着し解析する。
- 4) 生体または実験動物に呼吸モニターを適切に装着し解析する。
- 5) 生体または実験動物から血液データを採取する。
- 6) 血液データの検査を実践する

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、研究活動の遂行に必要な能力と教養を身につけることなので、ディプロマポリシーの2,3に関連する。

5. 授業方法

- 1) 実際に実験動物や臨床の現場で、モニター装着や採血、血液検査を体験する。

6. 成績評価の方法

講義中の討論の内容(20%)と各自の発表データ(80%)によって評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

指定された教科書の授業該当頁を事前に読み、疑問点がある場合はそれを整理しておくこと(30分間)。事前配布の論文を読み、論点を整理しておくこと(60分間)

8. 教科書・参考書

教科書：スタンダード全身管理・歯科麻酔学 第4版
学建書院 2017
参考書：その他の統計学書、また、適宜論文や資料を配布する

9. 履修上の注意事項

具体的な症例に基づく講義の際は守秘義務を厳守し、資料の取扱いは教員の指示に従うこと。講義後に資料を回収することもある。
講義で使用了資料のコピー及び電子化は禁ずる。
やむを得ない理由で遅刻・欠席をする場合は、事前に講義担当教員にメールでその旨を伝えること。

10. 英語による授業

授業はすべて日本語で行う。
授業は日本語を原則とするが、英文論文を講義資料として用いた場合に英語による討論を行う場合がある。
受講者に外国人留学生がいる場合は、英語による講義を行う場合がある。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。
宛先：生体管理学専攻 川合宏仁
h-kawai@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

講義担当教員に質問などがある場合、メールでも対応することは可能である。
症例検討会・ジャーナルクラブに参加希望の場合、その旨を講義担当教員に申し出れば考慮する。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	9月1日	生体管理の基礎と臨床	手術室／外来／動物舎などで全身麻酔、鎮静法等の生体管理を経験する	①
2	9月8日	生体管理の基礎と臨床	手術室／外来／動物舎などで全身麻酔、鎮静法等の生体管理を経験する	①
3	9月22日	生体管理の基礎と臨床	手術室／外来／動物舎などで全身麻酔、鎮静法等の生体管理を経験する	①
4	9月29日	生体管理の基礎と臨床	手術室／外来／動物舎などで全身麻酔、鎮静法等の生体管理を経験する	①
5	10月6日	生体管理の基礎と臨床	手術室／外来／動物舎などで全身麻酔、鎮静法等の生体管理を経験する	①

科目の種類	専門カリキュラム	科目ナンバリングコード	B-23	科目名	歯周病学
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①高橋慶壮
場 所	講義棟 研修室1 附属病院棟5階 教授室				

1. 科目の概要

歯周病学のパラダイムシフトを解説する。さらに、歯周医学、歯周組織再生療法および口腔インプラント治療関連の最新の情報について症例を通して講義する。

2. 一般目標

大学院生としての学識を高めるために、歯周病学のトピックスを学び、専門的な知識・技能を習得する。

3. 到達目標

- 1) 歯周病の病因論におけるパラダイムシフトを説明する。
- 2) 歯周病の病態を慢性の多因子性疾患として、複雑系の理論に沿って多リスク因子の関与を説明する。
- 3) 口腔インプラント治療とインプラント周囲疾患について説明する。
- 4) 歯周医学関連の先進的な知見を説明する。
- 5) 歯周組織再生療法について説明する。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、専攻科目における専門知識の習得と、研究活動の遂行に必要な能力を身につけることなので、ディプロマポリシーの1および2に関連する。

5. 授業方法

指定した教科書、参考書および学術雑誌に掲載された論文のコピーかPDFファイルを用いて、歯周病学の最新の知識を習得し、研究課題の選択についてアドバイスする。

6. 成績評価の方法

講義への出席と態度(30%)、年度末に提出する研究成果報告書(40%)と次年度の研究計画表(30%)によって評価する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

指定された教科書の授業該当頁を事前に読み、疑問点がある場合は質問内容を整理しておくこと(30分間)。事前配布の論文を読み、論点を整理しておくこと(60分間)

8. 教科書・参考書

教科書：考えるペリオドンティクス ―病因論と臨床推論から導かれる歯周治療― クインテッセンス出版 2018年

参考書：歯周治療 失敗回避のためのポイント33 ～なぜ歯周炎が進行するのか、なぜ治らないのか～ クインテッセンス出版 2011年

9. 履修上の注意事項

講義で使用した資料のコピーや電子化は禁ずる。やむを得ない理由で遅刻・欠席をする場合は、事前に講義担当教員にメールでその旨を伝えること。

10. 英語による授業

講義は原則的に日本語で行うが、英語論文を講義資料として用いるときには、英語を読んだり討論する場合がある。

11. 履修登録について

講義担当教員に質問や意見がある場合には、メールで対応することは可能である。

宛先：歯内歯周療法学専攻 高橋慶壮教授
ke-takahasi@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

選択必須（専門カリキュラム）のため、履修登録が必要である。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	10月16日	歯周病学の病因論	病因論のパラダイムシフト	①
2	10月16日	歯周組織再生療法	歯周外科治療の変遷に学ぶ	①
3	10月23日	歯周組織再生療法	軟組織の増大術 遊離歯肉移植術 根面被覆	①
4	10月23日	口腔インプラント	歯周病患者に対するインプラント治療	①
5	10月30日	口腔インプラント	インプラント周囲炎の治療	①

科目の種類	専門カリキュラム	科目ナンバリングコード	B-25	科目名	生命科学実験法
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①前田豊信
場 所	口腔生化学研究室				

1. 科目の概要

生命科学論文を読み、実験方法と得られるデータから読み取れる情報について学ぶことにより、実験の立案から総括までの論理的思考を養い、学位論文執筆の基礎知識を習得する。

2. 一般目標

生命科学研究に必要な実験法を実際の論文から学ぶ。

3. 到達目標

- 1) In vitro と in vivo 実験の違い説明できる。
- 2) 細胞培養法の実際と応用例を説明できる。
- 3) 遺伝子解析法とタンパク質の解析法と得られる情報を解釈できる。
- 4) 遺伝子組み換え技術と研究への応用を概説できる。
- 5) 論文を読み、内容について討議できる。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、論理的思考を養うのでディプロマポリシーの2に関連する。

5. 授業方法

適宜論文を配布し、内容について討議する。

6. 成績評価の方法

授業中の討論(100%)

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

配布資料に記載されている専門用語(日本語・英語)について調べておく(30分)。

8. 教科書・参考書

適宜論文を配布する。

9. 履修上の注意事項

討論に積極的に参加すること。

10. 英語による授業

授業はすべて日本語で行うが、受講者に外国人留学生がいる場合は、英語による講義を行う場合がある。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

前田豊信

t-maeda@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

メールによる質問にも対応する。抄読会に参加希望の場合、その旨を講義担当教員に申し出れば考慮する。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	11月6日	In vitro と in vivo 実験	解析したい内容が、実験動物が必須なのか代替法で済むのかを討論する。	①
2	11月6日	細胞培養法	細胞培養法基本と応用・バイオアッセイで測定されること。	①
3	11月13日	遺伝子解析法とタンパク質の解析法及び得られる情報の解釈	各解析法で分かること及び得られる情報の解釈について学ぶ。	①
4	11月13日	遺伝子組み換え技術とその応用	遺伝子組み換え技術とその応用について新旧の方法を紹介する。	①
5	11月20日	論文の成立ち	論文の成立ち	①

科目の種類	専門カリキュラム	科目ナンバリングコード	B-26	科目名	薬物の発生毒性解析法の実践
対象年次	【一般】1・2年次 【社会人】1～4年次			担当者	①柴田達也
場 所	基礎医学研究棟3階 歯科薬理学研究室				

1. 科目の概要

近年、歯科医療における薬物療法も日々進歩し、適用範囲も広がっている。本科目では、薬物の発生毒性の解析方法について学修し、妊娠中の患者、特に、患者自身が気付いていないくらいの妊娠初期における適切な薬物療法について考究できる基盤となる学識を構築する。

2. 一般目標

薬物の発生毒性の解析法について学修することを通し、生涯、リサーチマインドをもって自己研鑽に努め、自らが得た学識を社会に還元する姿勢を涵養する。

3. 到達目標

- 1) 薬物の発生毒性について説明できる。
- 2) 胎児の発生過程と、先天異常を引き起こす環境因子に対する感受性との関係を説明できる。
- 3) 薬物の発生毒性を解析するための発生生物学的手法について説明できる。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、薬物の発生毒性、及び、その解析法の基礎知識を修得すると同時に、自らが得た学識を社会に還元する姿勢を涵養することなので、ディプロマポリシーの2および3に関連する。

5. 授業方法

- (1) 薬物の発生毒性を解析するために必要な薬理学・発生生物学などの基礎的知識を再確認する。
- (2) 薬物をin vivoならびにin vitro 実験系に適用し、発生毒性を解析する発生生物学的手法について学修する。

6. 成績評価の方法

薬物の発生毒性に関わる課題についてのレポート(100%)により評価する。課題内容は、担当教員と学生の討論により決定する。

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

項目8の参考書や、自らがこれまでの学修で使用した成書を事前に読み、薬物の発生毒性について探求する意義について、自分の意見を構築しておくこと(1時間)。

8. 教科書・参考書

教科書：なし(適宜、資料を配布する)
参考書：ラングマン人体発生学 第12版 メディカルサイエンスインターナショナル 2024年

9. 履修上の注意事項

講義で使用した資料のコピー及び電子化は禁ずる。また、やむを得ない理由で遅刻・欠席をする場合は、事前に講義担当教員にメールでその旨を伝えること。

10. 英語による授業

授業は日本語を原則とするが、受講者に外国人留学生がいる場合は、英文レジュメ等を配布の上、英語でのレポート提出を認める。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。

宛先：歯科薬理学専攻 柴田達也 教授
t-shibata@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

担当教員への連絡は原則としてメールで行うこと。質問もメールで行うことは可能である。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	7月23日	薬物の発生毒性の基礎	催奇形性・胎児毒性のある薬物	①
2	7月23日	発生生物学の基礎	胎児の発生過程と薬物感受性	①
3	7月30日	発生生物学的手法1	発生時期・部位特異的発現因子の定性的解析方法	①
4	7月30日	発生生物学的手法2	発生時期・部位特異的発現因子の定量的解析方法	①
5	8月6日	発生生物学的手法3	ラット胚の全胚培養法	①

科目の種類	専門カリキュラム	科目ナンバリングコード	B-27	科目名	画像評価法の基礎
対象年次	【一般】1・2年次			担当者	①川原一郎
場 所	講義棟 研修室1 附属病院棟1階 放射線科 (人数や担当者によって変更)				

1. 科目の概要

画像評価法は歯科放射線学に限らず、多くの分野で利用されている。本カリキュラムでは、画像評価法の基礎を理解するために、画像評価法の内容、物理的評価法、視覚的評価法の概要を学ぶ。

2. 一般目標

画像評価法に関する見識を高めるために、画像評価法に関する最新の知識・方法を習得する。

3. 到達目標

- 1) 画像評価法の内容を説明する。
- 2) 物理的評価法の概要を説明する。
- 3) 視覚的評価法の概要を説明する。

4. 学位授与の方針との関連

本科目の目標は、画像評価法に関する専門知識および技能の習得なのでディプロマポリシーの1に関連する。

5. 授業方法

論文の事前配布とこれに関する講義およびサンプルを用いた実習。

6. 成績評価の方法

講義担当者との討論(50%) 講義終了後にレポート(50%)

7. 準備学修の具体的な内容及び必要時間

事前配布の論文を読み、論点を整理しておくこと(60分間)。

8. 教科書・参考書

必要な資料を適宜配布する。

9. 履修上の注意事項

やむを得ない理由で遅刻・欠席をする場合は、事前に講義担当教員にメールでその旨を伝えること。

10. 英語による授業

授業はすべて日本語で行う。

11. 履修登録について

本科目の履修を希望する大学院生は、下記宛にメールで希望の旨と自身の氏名・所属専攻科・メールアドレスを記載して連絡すること。
宛先：放射線診断学専攻 川原一郎教授
i-kawahara@den.ohu-u.ac.jp

12. 備考

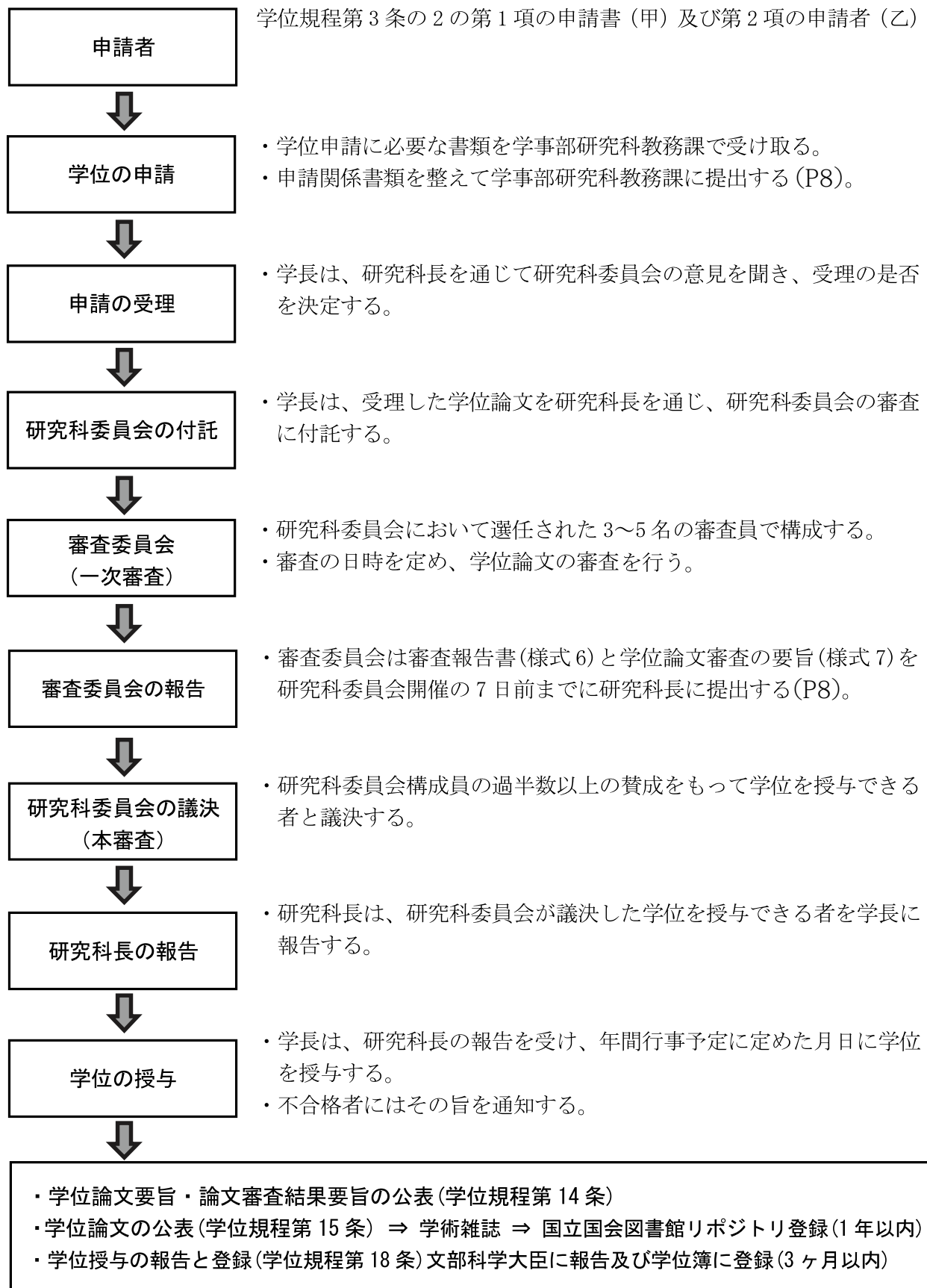
講義担当教員に質問などがある場合、メールでも対応することは可能である。

13. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当
1	10月20日	画像評価法の内容	画像評価法の内容について	①
2	10月27日	物理的評価法	物理的評価法の概要について	①
3	11月10日	視覚的評価法	視覚的評価法の概要について	①

17. 学位授与の手続きについて

— 学位の申請から授与までの手順 —



学位(博士)論文の審査基準

[審査体制]

学位(博士)論文の審査は、主査1名、副査2名以上4名以内で構成する審査委員会で審査する。

[審査基準]

1. 研究目的・課題は明確で学術的意義及び独創性と新規性を有しているか。
2. 先行研究の文献を十分に収集して理解しているか。
3. 研究方法は適切で研究対象に対する倫理的配慮がなされているか。
4. 論証方法と分析結果の解釈は適切か。
5. 学術論文としての形式・体裁となっているか。

[評価方法]

1. 審査基準に基づき、学位(博士)論文を以下の5段階で評価する。
 - A：秀でた論文である。
 - B：優れた論文である。
 - C：おおむね良好な論文である。
 - D：十分でない点もあるが学位(博士)論文として認定しうる。
 - E：学位(博士)論文としての水準に達していない。
2. 評価は主査及び副査がそれぞれ別に行い、副査はその結果を主査に報告する。
3. 主査は、この結果を基に「審査報告書」を作成する。

18. 学位申請時の必要提出書類について（書類は研究科教務課にて受け取る）

a) 学位申請書（様式 1-1）	1 部
b) 論文目録（様式 2-1）	1 部
c) 奥羽大学歯学会発表証明書（様式 2-2）【学会長（歯学部長）へ申請】	1 部
d) 学位論文（一次審査用）	6 部
（一次審査終了後、 <u>本審査の行われる 8 日前までに本審査用として 24 部提出する</u> ）	
e) 学位論文内容の要旨（様式 3）	1 部
f) 学位論文が共著の場合には、共著者の承諾書	
g) 誓約書（様式 10）	
h) 学位本審査時に提出する学位論文のチェックシート	
i) 参考論文（コピーも可）	各 6 部
j) 研究歴に関する報告書（様式 4-1）【様式 4-2 に基づいて記入】	1 部
・ 研究歴証明書（様式 4-2）【教務課へ申請】	1 部
k) 外国語試験合格証	1 部
l) 卒業証明書	1 部
m) 履歴書（写真付）（様式 5）	3 部
n) 戸籍抄本	1 部
o) 学位審査手数料	

注)

- ・ 上記の提出書類中 d)、e) はワープロソフト使用のこと。
- ・ 提出書類のうち、課程修了者は h) までとし、本学専任教員と専攻生は k) までの書類を提出すること。

論文等に記載する大学院生ならびに専攻生などの専攻先の名称については
以下のように定める。

<大学院生>

- ・ 日本語表記：奥羽大学大学院歯学研究科〇〇〇学専攻
- ・ 英語表記：Department of 〇〇〇, Ohu University, Graduate School of Dentistry

<専攻生>

- ・ 日本語表記：奥羽大学歯学部〇〇〇学講座
- ・ 英語表記：Department of 〇〇〇, Ohu University, School of Dentistry

＜各専攻科英語表記一覧＞

日本語表記	英語表記
口腔機能解剖学専攻	Department of Oral Functional Anatomy
口腔生理・生化学専攻	Department of Oral Physiology and Biochemistry
口腔機能回復学専攻	Department of Oral Rehabilitation
顎顔面口腔矯正学専攻	Department of Dentofacial Orthopedics
生体管理学専攻	Department of Systemic Management
口腔病理学専攻	Department of Oral Pathology
口腔感染症学専攻	Department of Oral Infectious Diseases
歯科薬理学専攻	Department of Dental Pharmacology
放射線診断学専攻	Department of Oral and Maxillofacial Radiology and Diagnosis
顎口腔外科学専攻	Department of Oral and Maxillofacial Surgery
口腔保健学専攻	Department of Oral Health
生体材料・医用工学専攻	Department of Biomaterials and Medical Engineering
保存修復学専攻	Department of Operative Dentistry
咬合機能修復学専攻	Department of Crown - Bridge Prosthodontics
口腔組織構造生物学専攻	Department of Cell Biology and Oral Histology
小児歯科学専攻	Department of Pediatric Dentistry
歯内・歯周療法学専攻	Department of Endodontics and Periodontics
総合診療歯科学	Department of General Odontology

○○○○○された—————

奥羽大学大学院歯学研究科○○○○学専攻

郡 山 太 郎

(指導教員：福 島 花 子)

Isolation of ○○○○○○○○—————

Department of ○○○○○○○ ,

Ohu University, Graduate School of Dentistry

KORIYAMA Taro

(Director: FUKUSHIMA Hanako)

論文題目の長さによっては、複数行になることもあると思います。したがって、文字のフォント、字体や余白の距離などは、各自で調整して下さい。ただし、読みやすいことに配慮して下さい。

英文論文の場合は、和文表記・英文表記の順序を英文表記・和文表記に変更して下さい。

(様式 1－1)

年 月 日

奥羽大学長

_____ 殿

氏名 _____ 印

学 位 申 請 書

奥羽大学学位規程第 5 条第 1 項の規定に基づき、学位論文及び関係書類を添えて博士（歯学）の学位を申請いたします。

受付番号	：	第	号
受理番号	：	第	号
受 理 日	：	年 月 日	

(様式2)

年 月 日

論文目録

受付番号	第 号	氏 名	印
学位論文題名（発表学会名、発表年月）			
参考論文題名（著者名、掲載雑誌名、巻号、ページ、発行年）			

--

(様式 3-1)

年 月 日

学位論文内容の要旨

受付番号	第 号	氏 名	印
論文題名			
指導教員			

論文内容の要旨	
I	研究目的
II	研究方法

(様式 3－2)

Ⅲ 研究結果

Ⅳ 考察及び結論

研究歴に関する報告書

奥羽大学長

_____ 殿

所属講座 _____

主任教授 _____ 印

下記の者は学位申請にあたり、別添の研究歴証明書のとおり所定の期間、
研究に従事したことを報告します。

記

氏 名 _____

所 属 研 究 機 関

研 究 歴

査 定 研 究 歴

_____ 年 _____ か月

_____ 年 _____ か月

_____ 年 _____ か月

_____ 年 _____ か月

_____ 年 _____ か月

_____ 年 _____ か月

合算研究歴 _____

_____ 年 _____ か月

合算 _____ 年 _____ か月

※専攻期間は平成

年度末で 8 年の見込み。

研究科長 _____ 印

注：査定研究歴欄は記入しないこと。

(様式 10)

誓 約 書

奥羽大学学長 殿

年 月 日

氏名(自署)_____ 印

私は、博士(歯学)の学位を申請するにあたり、奥羽大学における研究者の行動規範に反する捏造・改ざん・盗用などの不正行為及び不適切な行為をしていないことを誓約いたします。

上記内容を了承いたしました。

指導責任者(自署)_____ 印

学位本審査用に提出する学位論文のチェックシート

☐：申請者のチェック欄

☐：指導教員のチェック欄

1. A4 版用紙に25字×30行，フォントは明朝体，12 ポイントである。☐ ☐
2. 専門用語以外は当用漢字，新かなづかいで口語体を用いている。☐ ☐
3. 句読点は「，」と「。」を用いている。☐ ☐
4. 英文の場合，A4 版用紙にフォントは Times New Roman，12ポイント，30行である。☐ ☐
5. 余白は上・下・左・右20～25mmとする。☐ ☐
6. 透明なカバーを付けて製本された24部が用意されている。☐ ☐
7. 論文の構成は次の順番になっている。☐ ☐

表紙，英文抄録，和文抄録，緒言，材料および方法，結果，考察，結論，利益相反の有無，文献，図表の解説，図表

*謝辞・学会発表の記録・研究費の出所などの記載を必要とする場合は，「結論」と「文献」の間に記入して下さい。また，英語論文の場合も和文抄録を必ず付けてください。

8. 表紙，図表の解説，図表を除いて，通しのページ番号が下部中央に入っている。☐ ☐
9. 表紙に次のことが記載されている。☐ ☐

日本語論文の場合

和文タイトル，和文所属名（申請者の所属のみ），和文著者名（申請者のみ），
和文指導教員名，英文タイトル，英文所属名（申請者の所属のみ），
英文著者名（申請者のみ），英文指導教員名

英語論文の場合

英文タイトル，英文所属名（申請者の所属のみ）英文著者名（申請者のみ）
英文指導教員名，和文タイトル，和文所属名（申請者の所属のみ）
和文著者名（申請者のみ）和文指導教員名

10. 英文はネイティブの歯学・医学系研究者，あるいはこれと同等以上に英文作成能力を有する者の校正を受けている。☐ ☐
11. 使用した専門用語とその略称は，関連学会で広く用いられている表記である。☐ ☐
12. 謝辞に記載された人名は，本人の了解を得ている。☐ ☐
13. 文献は，引用箇所の肩に引用順に番号を付けている。☐ ☐
14. 文献番号の表記と引用の書式は，奥羽大学歯学誌の「引用文献書式」に従って記載されている。☐ ☐
15. 文献の著者名，表題，雑誌（単行本）名，巻数，引用ページ，出版年などは正確である。☐ ☐
16. 倫理審査を必要とする研究は，倫理審査委員会の承認を受けたことを記載している。☐ ☐
17. 動物実験を行った研究は，動物実験委員会の承認を受けたことを記載している。☐ ☐
18. 組み換えDNA実験を行った研究は，組み換えDNA実験安全委員会の承認を受けたことを記載している。☐ ☐
19. 利益相反の有無を記載している。☐ ☐
20. 申請者と指導教員は，本論文を提出前に繰り返し読み直している。☐ ☐
21. 図表以外は，両面（表と裏）に印刷されている。☐ ☐

以上相違ありません。

年 月 日

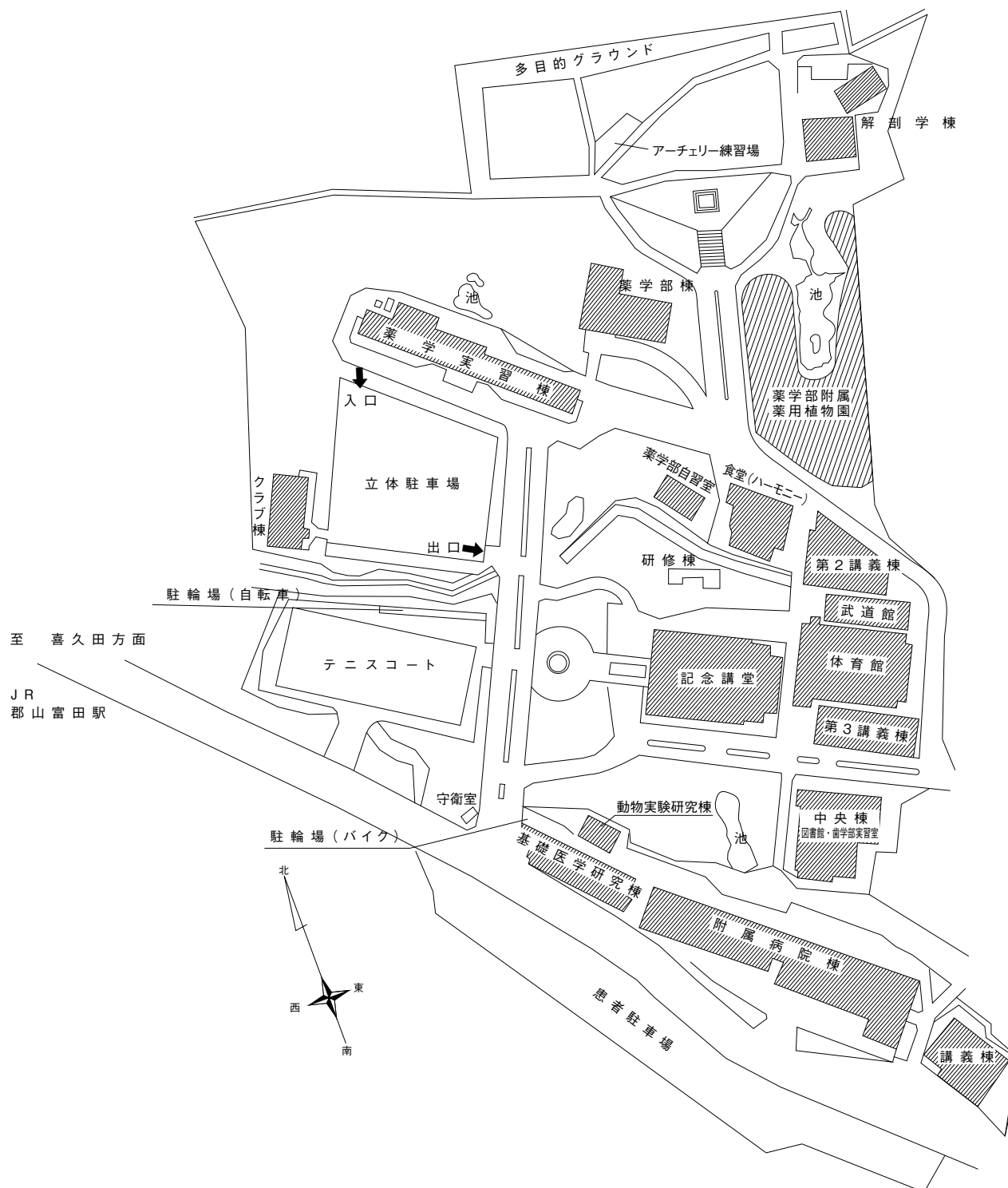
申請者（署名）

印 指導教員（署名）

印

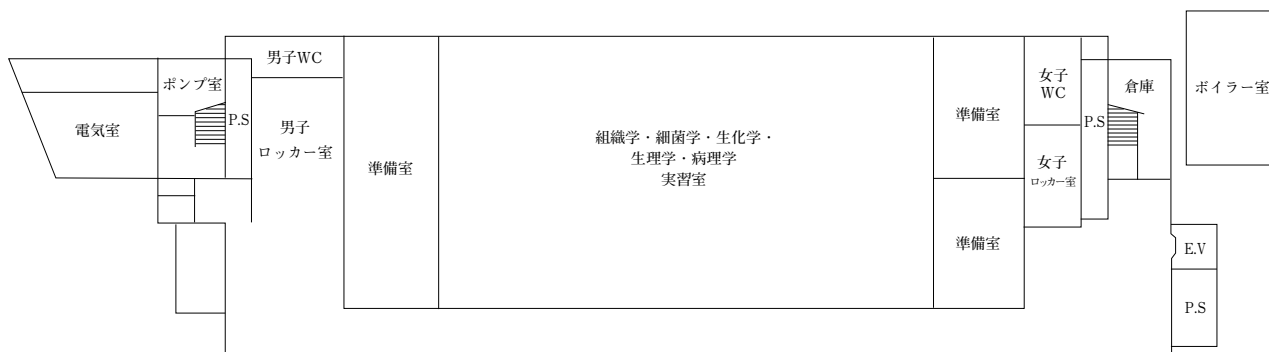
19. 構内案内

1. 構内案内図

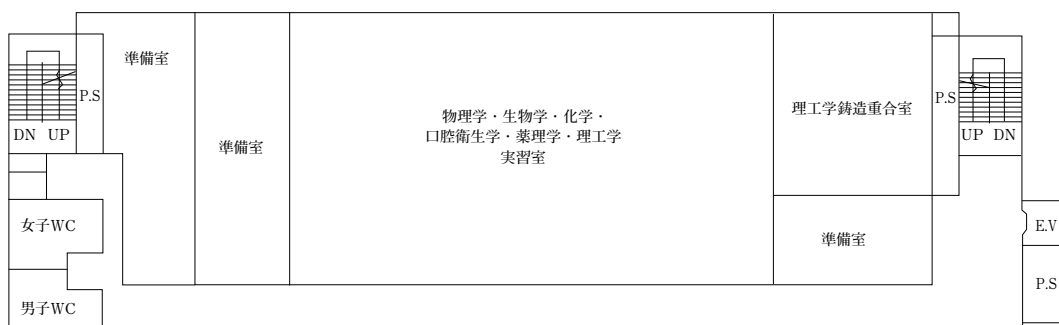


2. 基礎医学研究棟案内図

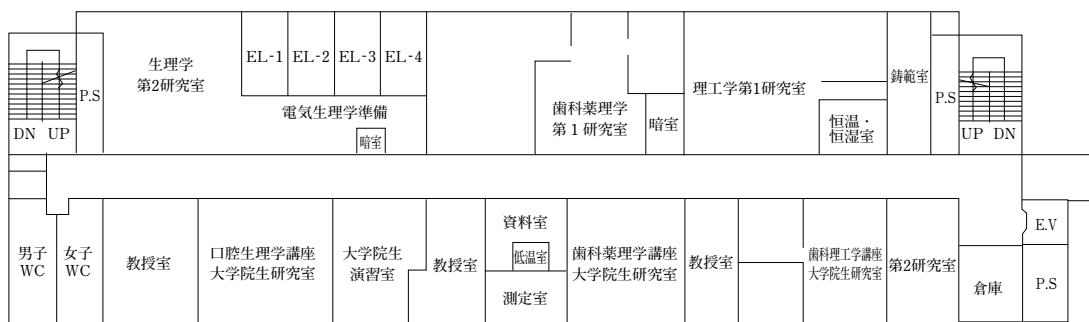
1 階



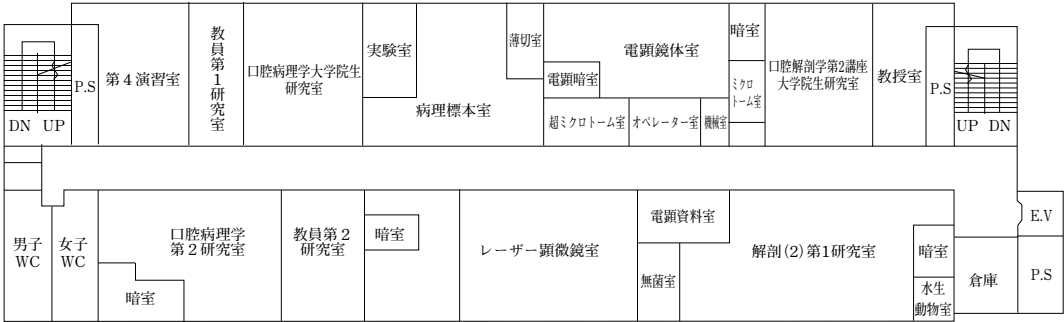
2 階



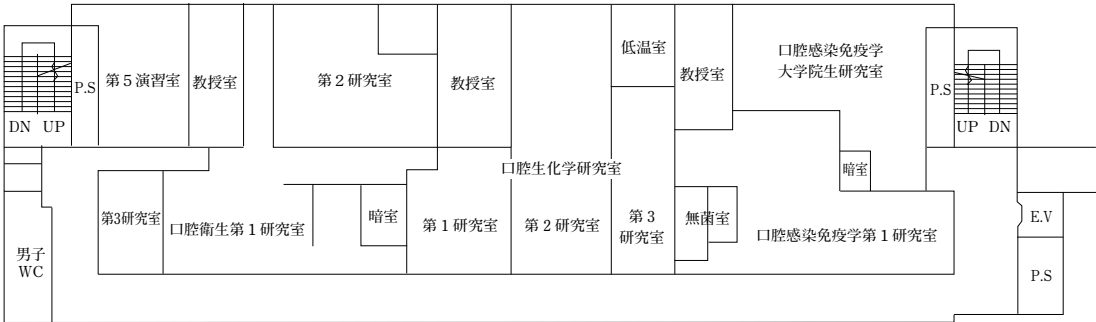
3 階



4 階



5 階

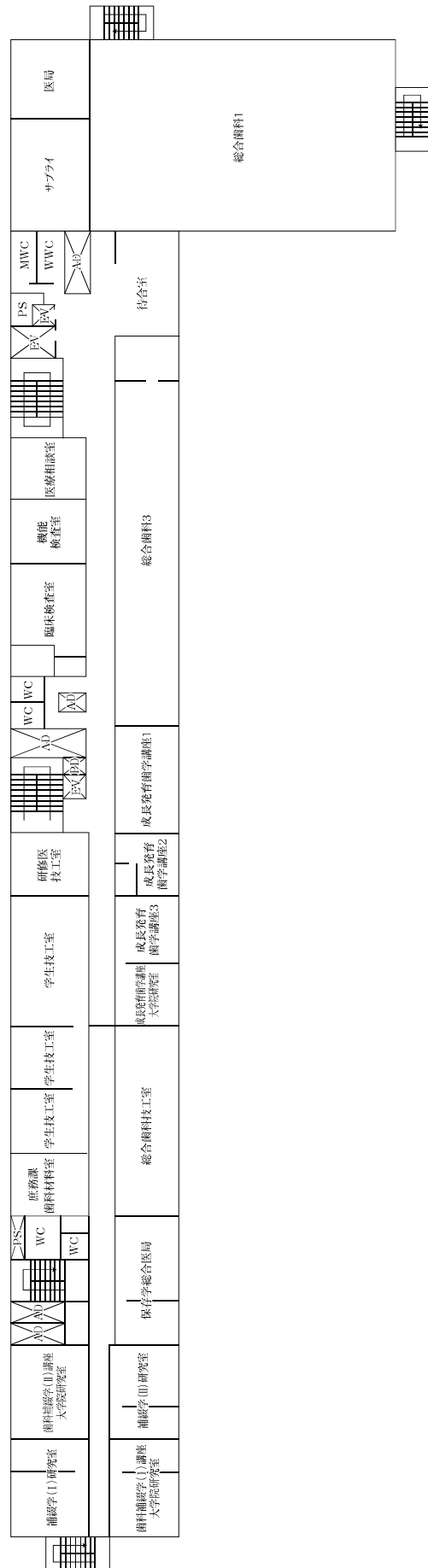


1 階

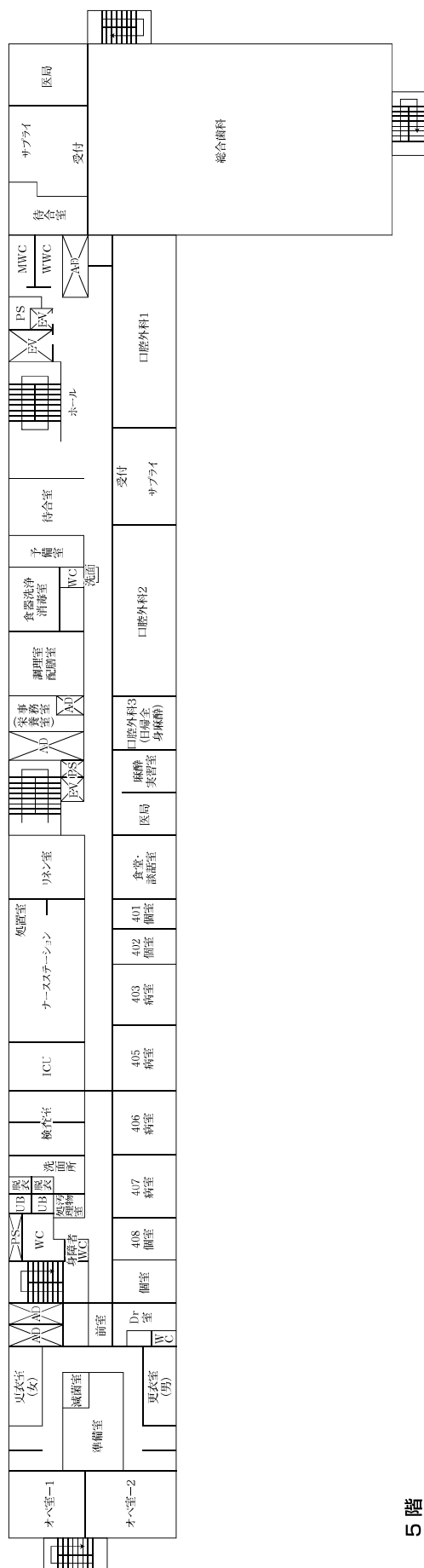
The floor plan is divided into several main sections:

- Top Section (Left to Right):**
 - 図書室 (Library)
 - 第1測定室 (Measurement Room 1)
 - 第2測定室 (Measurement Room 2)
 - 処理室 (Processing Room)
 - 食品倉庫 (Food Warehouse)
 - 厨房 (Kitchen)
 - 倉庫・休憩室 (Warehouse/Restroom)
 - WC
 - 倉庫 (Warehouse)
 - ボイラー機械室 (Boiler/Mechanical Room)
 - オイルタンク室 (Oil Tank Room)
- Central Section (Left to Right):**
 - 化学実験室 (Chemical Laboratory)
 - 物理実験室 (Physical Laboratory)
 - グラフィック室 (Graphic Room)
 - モニター室 (Monitor Room)
 - 通路 (Corridor)
 - 玄関 (Entrance)
 - 空調機械室 (Air Conditioning Mechanical Room)
 - 洗面室 (Washroom)
 - 洗濯室 (Laundry Room)
 - 機械室 (Mechanical Room)
 - 洗面室 (Washroom)
 - エレベーターホール (Elevator Hall)
 - WC
 - WC
- Bottom Section (Left to Right):**
 - 化学実験室 (Chemical Laboratory)
 - 物理実験室 (Physical Laboratory)
 - グラフィック室 (Graphic Room)
 - モニター室 (Monitor Room)
 - 通路 (Corridor)
 - 玄関 (Entrance)
 - 空調機械室 (Air Conditioning Mechanical Room)
 - 洗面室 (Washroom)
 - 洗濯室 (Laundry Room)
 - 機械室 (Mechanical Room)
 - 洗面室 (Washroom)
 - エレベーターホール (Elevator Hall)
 - WC
 - WC
- Right Section (Top to Bottom):**
 - 研究室 (I) (Research Room I)
 - 研究室 (Research Room)
 - 教授室 (Professor's Office)
 - 倉庫 (Warehouse)
 - 電気室 (Electrical Room)
 - 電子部同窓会室 (Electronics Department Alumni Room)
 - 暗室 (Dark Room)
 - 撮影室 (Photography Room)
 - 植物断層撮影室 (Plant Tomography Photography Room)
 - 待合室 (Waiting Room)
 - パンデント室 (Pendant Room)
 - X線透視室 (X-ray透视室)
 - 倉庫 (Warehouse)

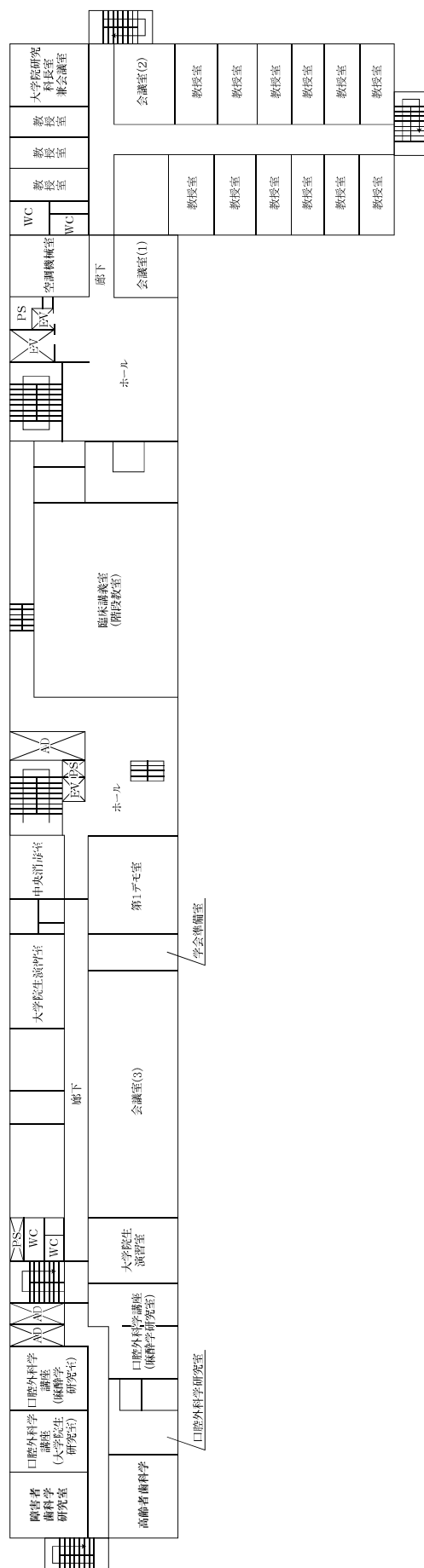
臨床研修医室



4階

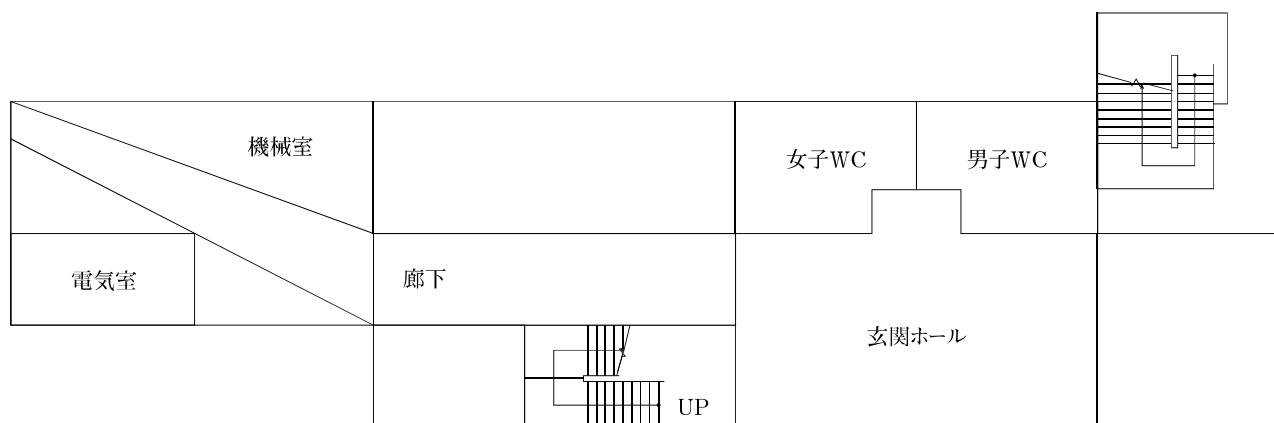


5階

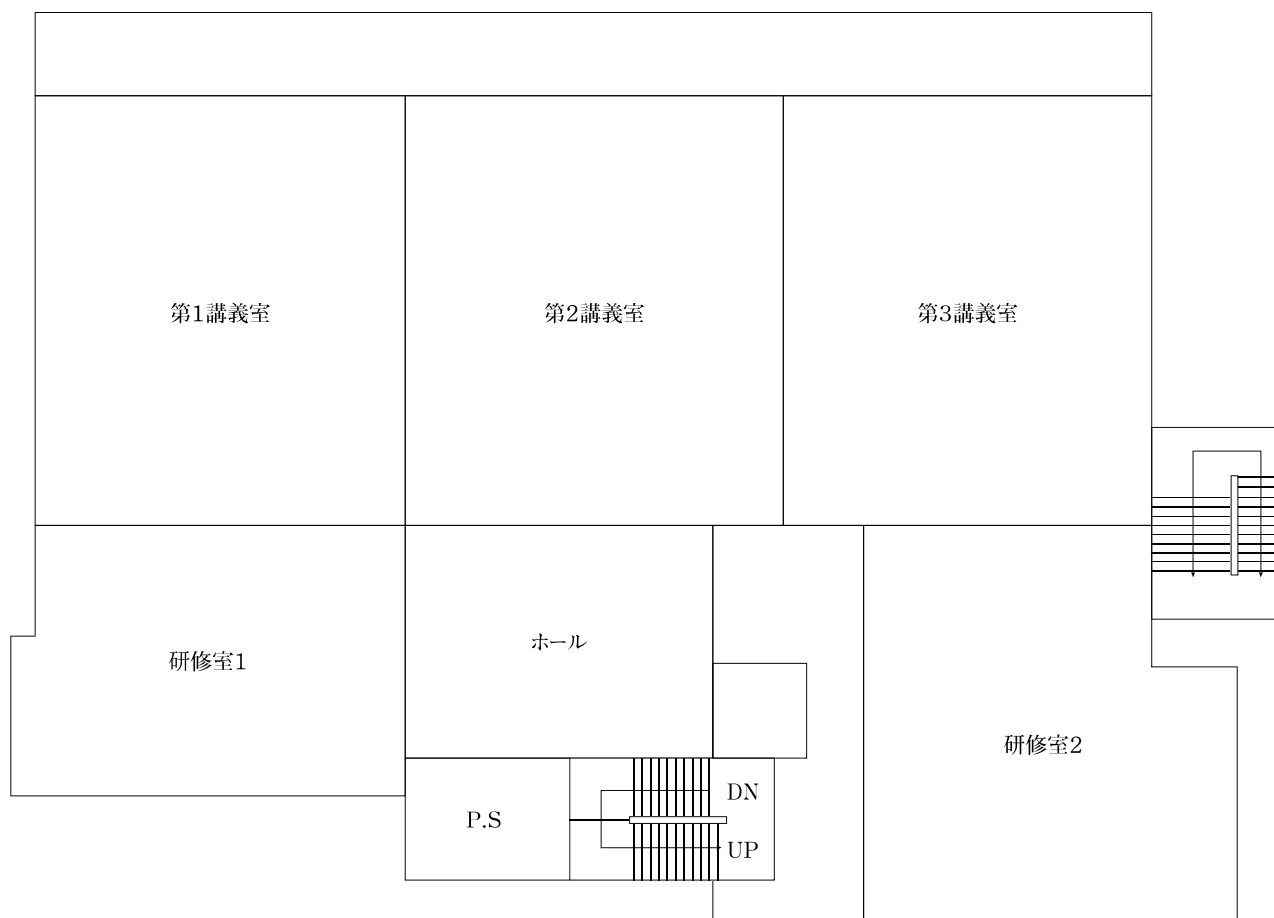


4. 講義棟案内図

1 階



2 階



MEMO

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dashed lines.